

○ 土地改良事業等請負工事標準歩掛（昭和 58 年 2 月 28 日 58 構改 D 第 148 号農林水産省構造改善局長通知）一部改正新旧対照表

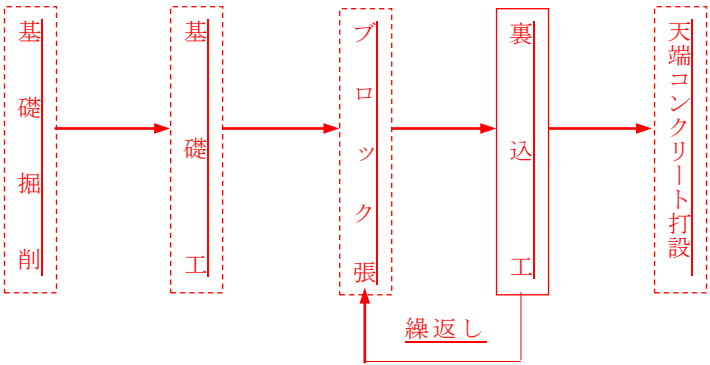
（下線部は改正部分）

改正後	現行												
1. 土 工 ① [略] ② 機械施工の共通事項 1. 機種の選定 1-1 [略] 1-2 標準作業量による適用機種の標準 [略] 1-2-1 機種選定表（<u>抜根・排根</u>作業） 表 1. 2 機種選定表（<u>抜根・排根</u>作業） <table><tr><th>機 種</th><th>規 格</th><th>摘 要 区 分</th></tr><tr><td><u>湿地</u>レーキドーザ （農用地造成工事）</td><td><u>13t 級</u> <u>16t 級</u> [削る。]</td><td>対象面積が 2ha 未満の場合 " <u>2ha 以上の場合</u> [削る。]</td></tr></table> （注） 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。 1-2-2 [略] ③～⑥ [略] 2. 共 通 工 ①～③ [略] [削る。]	機 種	規 格	摘 要 区 分	<u>湿地</u> レーキドーザ （農用地造成工事）	<u>13t 級</u> <u>16t 級</u> [削る。]	対象面積が 2ha 未満の場合 " <u>2ha 以上の場合</u> [削る。]	1. 土 工 ① [略] ② 機械施工の共通事項 1. 機種の選定 1-1 [略] 1-2 標準作業量による適用機種の標準 [略] 1-2-1 機種選定表（<u>掘削・運土</u>作業） 表 1. 2 機種選定表（<u>掘削・運土</u>作業） <table><tr><th>機 種</th><th>規 格</th><th>摘 要 区 分</th></tr><tr><td>レーキドーザ （農用地造成工事）</td><td><u>11t 級</u> <u>15t 級</u> <u>21t 級</u></td><td>対象面積が 2ha 未満の場合 " <u>2～10ha 未満の場合</u> <u>10ha 以上の場合</u></td></tr></table> （注） 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。 1-2-2 [略] ③～⑥ [略] 2. 共 通 工 ①～③ [略] <u>④ 裏込工（ブロック張）</u> <u>1. 適用範囲</u> <u>本歩掛は、コンクリートブロック張工（張ブロックの質量 150kg/個未満）の裏込工に適用する。</u> <u>2. 施工概要</u> <u>施工フローは、次図を標準とする。</u>	機 種	規 格	摘 要 区 分	レーキドーザ （農用地造成工事）	<u>11t 級</u> <u>15t 級</u> <u>21t 級</u>	対象面積が 2ha 未満の場合 " <u>2～10ha 未満の場合</u> <u>10ha 以上の場合</u>
機 種	規 格	摘 要 区 分											
<u>湿地</u> レーキドーザ （農用地造成工事）	<u>13t 級</u> <u>16t 級</u> [削る。]	対象面積が 2ha 未満の場合 " <u>2ha 以上の場合</u> [削る。]											
機 種	規 格	摘 要 区 分											
レーキドーザ （農用地造成工事）	<u>11t 級</u> <u>15t 級</u> <u>21t 級</u>	対象面積が 2ha 未満の場合 " <u>2～10ha 未満の場合</u> <u>10ha 以上の場合</u>											

④ [略]

⑤ 機械（不整地運搬車）小運搬

1. ～ 2. [略]



（注）本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

3. 施工歩掛

3－1 裏込工歩掛

裏込工歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 1 裏込工歩掛 (10m³当り)

名 称	単位	張ブロック
世 話 役	人	0. 4
普 通 作 業 員	〃	0. 8
諸 雑 費 率	%	16

（注） 諸雑費は、投入、突固め機械の損料及び油脂類等の費用であり労務費の合計に上表の率を乗じた金額を計上する。

4. 裏込材の使用量

4－1 裏込材の使用量は、次式による。

使用量＝設計数量×（1＋K）（m³）……………（式4. 1）

K：補正係数（表 4. 1）

表 4. 1 補正係数（K）

材 料 名	砕 石
補 正 係 数	＋0. 11

5. 単価表

（1）裏込工10m³当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表3. 1
普 通 作 業 員		〃		〃
諸 雑 費		%		〃
裏 込 材		m³		式4. 1
計				

⑤ [略]

⑥ 機械（不整地運搬車）小運搬

1. ～ 2. [略]

3. 作業歩掛

機械（不整地運搬車）小運搬歩掛は、次表を標準とする。

表3. 1 機械（不整地運搬車）小運搬歩掛

材 料 名	規 格	1回当り 積 載 量	積卸し歩掛		運 転 労 務	単位	運 搬 量						備 考
			特殊作業 員	普通作業 員			30～ 50m	100m 未満	150m 未満	200m 未満	250m 未満	300m 未満	
砂・砂利・栗石	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型・油圧ダンプ式 積載質量 4.0～5.0t	m ³ 2.34	—	—	別途計上する	m ³ /日	71.1	65.1	60.2	55.4	50.6	45.7	積み込み経費を別途計上する
コンクリート		1.49	—	人/m ³ 0.0075			34.2	31.3	28.0	25.3	23.1	21.3	
コンクリート二次製品	クローラ型・クレーン装置付 積載質量 3.5t	t 2.80	人/t 0.0188	人/t 0.0310	別途計上する	ton/日	41.9	39.6	36.8	34.2	32.1	30.2	
銅管類φ450mm未満	クレーン装置付 積載質量 3.5t	3.17	0.0152	0.0168			51.2	48.1	44.4	41.2	38.4	36.0	
セメント類	クレーン装置 2t吊	2.88	0.0221	0.0221			36.3	34.6	32.4	30.5	28.8	27.3	
陶 管		0.600	0.0442	0.0442			16.2	14.6	13.0	11.6	10.4	9.5	

（注）1. ～6. 〔略〕

4. 単価表

（1）不整地運搬車1日当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
不 整 地 運 搬 車 運 転	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型・油圧ダンプ式積載質量4.0～5.0t クローラ型・クレーン装置付積載質量 3.5t クレーン装置2t吊	日	1.0	
普 通 作 業 員		人	積卸し歩掛×1日当り運搬量	表3. 1
特 殊 作 業 員		〃	〃	〃
計				

（2）機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
不 整 地 運 搬 車	クローラ型・クレーン装置付積載質量 3.5t クレーン装置2t吊	機－1 8	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→30 機械損料数量→2.10
	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型・油圧ダンプ式積載質量4.0～5.0t	機－1 8	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→77 機械損料数量→1.57

⑥～⑧ 〔略〕

⑨ 安定処理工（自走式土質改良工）

3. 作業歩掛

機械（不整地運搬車）小運搬歩掛は、次表を標準とする。

表3. 1 機械（不整地運搬車）小運搬歩掛

材 料 名	規 格	1回当り 積 載 量	積卸し歩掛		運 転 労 務	単位	運 搬 量						備 考
			特殊作業員	普通作業員			30～ 50m	100m 未満	150m 未満	200m 未満	250m 未満	300m 未満	
砂・砂利・栗石	クローラ型・油圧ダンプ式 積載質量 4.0t	m ³ 2.34	—	—	別途計上する	m ³ /日	71.1	65.1	60.2	55.4	50.6	45.7	積み込み経費を別途計上する
コンクリート		1.49	—	人/m ³ 0.0075			34.2	31.3	28.0	25.3	23.1	21.3	
コンクリート二次製品	クローラ型・クレーン装置付 積載質量 3.5t	t 2.80	人/t 0.0188	人/t 0.0310	別途計上する	ton/日	41.9	39.6	36.8	34.2	32.1	30.2	
銅管類φ450mm未満	クレーン装置付 積載質量 3.5t	3.17	0.0152	0.0168			51.2	48.1	44.4	41.2	38.4	36.0	
セメント類	クレーン装置 2t吊	2.88	0.0221	0.0221			36.3	34.6	32.4	30.5	28.8	27.3	
陶 管		0.600	0.0442	0.0442			16.2	14.6	13.0	11.6	10.4	9.5	

（注）1. ～6. 〔略〕

4. 単価表

（1）不整地運搬車1日当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
不 整 地 運 搬 車 運 転	クローラ型・油圧ダンプ式積載質量4.0t クローラ型・クレーン装置付積載質量 3.5t クレーン装置2t吊	日	1.0	
普 通 作 業 員		人	積卸し歩掛×1日当り運搬量	表3. 1
特 殊 作 業 員		〃	〃	〃
計				

（2）機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
不 整 地 運 搬 車	クローラ型・クレーン装置付積載質量 3.5t クレーン装置2t吊	機－1 8	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→30 機械損料数量→2.10
	クローラ型・油圧ダンプ式 積載質量 4.0t	機－1 8	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→65 機械損料数量→1.57

⑦～⑨ 〔略〕

⑩ 安定処理工（自走式土質改良工）

1. ～ 3. [略]

4. 土質改良工

[略]

4－1 機種の選定
[略]

表4. 1 機種の選定

作 業 種 別	機 械 名	規 格	単位	数量
固 化 材 投 入 、 攪 拌 ・ 土 質 改 良	自走式土質改良機	〔解砕・固化材混合式〕機械質量20 t 級	台	1
改 良 対 象 土 投 入	バックホウ	超低騒音型・排出ガス対策型（ <u>2014年規制</u> ） クローラ型山積0.8m ³ （平積0.6m ³ ）	〃	1

（注） [略]

4－2～4－5 [略]

5. 単価表

（1） [略]

（2）土質改良工 100m³ 当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1 × 100/D	表4. 2、表4. 3
特 殊 作 業 員		〃	1 × 100/D	〃
固 化 材		t		表4. 4、式4. 1
自 走 式 土 質 改 良 機 運 転	〔解砕・固化材混合式〕機械質量20 t 級	日	100/D	表4. 1、表4. 3
バ ッ ク ホ ウ 運 転	超低騒音型・排出ガス対策型（ <u>2014年規制</u> ） クローラ型山積0.8m ³ （平積0.6m ³ ）	〃	100/D	〃
諸 雑 費		式	1	表4. 5
計				

（注） [略]

（3）機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
自 走 式 土 質 改 良 機 運 転	〔解砕・固化材混合式〕機械質量20 t 級	機－ 2 4	燃料消費量→122 機械損料数量→ 1. 84
バ ッ ク ホ ウ	超低騒音型・排出ガス対策型（ <u>2014年規制</u> ） クローラ型山積0.8m ³ （平積0.6m ³ ）	機－ 2 8	運転労務数量→ 1. 00 燃料消費量→ <u>106</u> 機械賃料数量→ 1. 80

4. 基 礎 工

① [略]

② 既製杭の杭頭処理工

1. [略]

1. ～ 3. [略]

4. 土質改良工

[略]

4－1 機種の選定
[略]

表4. 1 機種の選定

作 業 種 別	機 械 名	規 格	単位	数量
固化材投入、攪拌・土質改良	自走式土質改良機	〔解砕・固化材混合式〕機械質量20 t 級	台	1
改 良 対 象 土 投 入	バックホウ	超低騒音型・排出ガス対策型（ <u>第3次基準値</u> ） クローラ型山積0.8m ³ （平積0.6m ³ ）	〃	1

（注） [略]

4－2～4－5 [略]

5. 単価表

（1） [略]

（2）土質改良工 100m³ 当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1 × 100/D	表4. 2、表4. 3
特 殊 作 業 員		〃	1 × 100/D	〃
固 化 材		t		表4. 4、式4. 1
自 走 式 土 質 改 良 機 運 転	〔解砕・固化材混合式〕機械質量20 t 級	日	100/D	表4. 1、表4. 3
バ ッ ク ホ ウ 運 転	超低騒音型・排出ガス対策型（ <u>第3次基準値</u> ） クローラ型山積0.8m ³ （平積0.6m ³ ）	〃	100/D	〃
諸 雑 費		式	1	表4. 5
計				

（注） [略]

（3）機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
自 走 式 土 質 改 良 機 運 転	〔解砕・固化材混合式〕機械質量20 t 級	機－ 2 4	燃料消費量→122 機械損料数量→ 1. 84
バ ッ ク ホ ウ	超低騒音型・排出ガス対策型（ <u>第3次基準値</u> ） クローラ型山積0.8m ³ （平積0.6m ³ ）	機－ 2 8	運転労務数量→ 1. 00 燃料消費量→ <u>99</u> 機械賃料数量→ 1. 80

4. 基 礎 工

① [略]

② 既製杭の杭頭処理工

1. [略]

2. 施工歩掛

2-1 鋼管杭杭頭処理

鋼管杭と鉄筋及び鋼管杭とずれ止め及びストッパー等の現場溶接工歩掛は、次表を標準とする。

表 2. 1 鋼管杭杭頭処理溶接工歩掛 (溶接長 10m 当り)

名称	規格	単位	鋼管杭板厚(mm)		
[削る。]			8～10	12	14, 16
溶 接 工		人	0.35	0.68	1.11
電 気 溶 接 機	ディーゼルエンジン駆動・直流アーク式・排出ガス対策型 (第3次基準値) 最大溶接電流 300A	日	0.39	0.65	1.12
諸 雑 費 率		%	14		

(注) 1. 鉄筋加工・組立費は、別途計上する。

[削る。]

2. 諸雑費は、溶接棒の材料費であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。

3. 鋼管杭とずれ止め及びストッパーの溶接長 (L y) は、ずれ止め一箇所当り、 $L y = \pi \times D$ を標準とする。

D : 杭径 (m)

2-2・2-3 [略]

3. 単価表

(1) 鋼管杭杭頭処理溶接長 10m 当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
溶 接 工		人		表2. 1
電 気 溶 接 機 運 転	ディーゼルエンジン駆動・直流アーク式・排出ガス対策型 (第3次基準値) 最大溶接電流300A	日		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
電 気 溶 接 機	ディーゼルエンジン駆動・直流アーク式・排出ガス対策型 (第3次基準値) 最大溶接電流300A	機-12	燃料消費量→24

③～⑥ [略]

[削る。]

2. 施工歩掛

2-1 鋼管杭杭頭処理

鋼管杭と鉄筋及び鋼管杭とずれ止め及びストッパー等の現場溶接工歩掛は、次表を標準とする。

表 2. 1 鋼管杭杭頭処理溶接工歩掛 (溶接長 10m 当り)

[新設]	[新設]	単位	[新設]		
鋼管杭板厚(mm)			8～10	12	14, 16
溶 接 工	[新設]	人	0.35	0.68	1.11
電 気 溶 接 機	[新設]	日	0.39	0.65	1.12
諸 雑 費 率	[新設]	%	14		

(注) 1. 鉄筋加工・組立費は、別途計上する。

2. 電気溶接機は、排出ガス対策型 (第1次基準値) ディーゼルエンジン付 300A を標準とする。

3. 諸雑費は、溶接棒の材料費であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。

4. 鋼管杭とずれ止め及びストッパーの溶接長 (L y) は、ずれ止め一箇所当り、 $L y = \pi \times D$ を標準とする。

D : 杭径 (m)

2-2・2-3 [略]

3. 単価表

(1) 鋼管杭杭頭処理溶接長 10m 当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
溶 接 工		人		表2. 1
電 気 溶 接 機 運 転	排出ガス対策型 (第1次基準値) ディーゼルエンジン付300A	日		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
電 気 溶 接 機	直流アーク式 排出ガス対策型 (第1次基準値) ディーゼルエンジン付300A	機-12	燃料消費量→27

③～⑥ [略]

⑦ 場所打杭工 (アースオーガ工・硬質地盤アースオーガ)

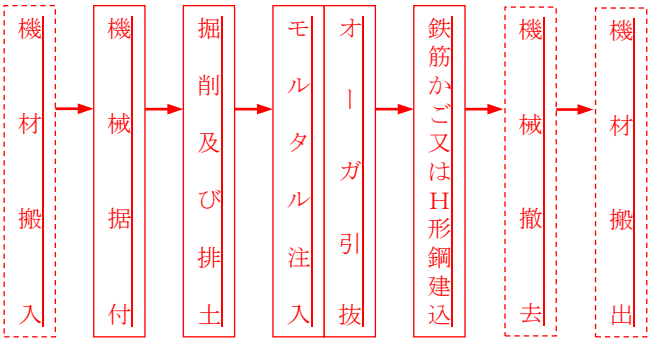
1. 適用範囲

本歩掛は、掘削長30m以下、杭径350～600mmのアースオーガにより掘削注入を行うモルタル場所打杭の施工に適用する。

なお、適用土質は、礫質土、砂及び砂質土、粘性土、岩塊・玉石、軟岩 (Ⅰ) 及び軟岩 (Ⅱ) とする。

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

3. 種類の選定

3-1 機種を選定

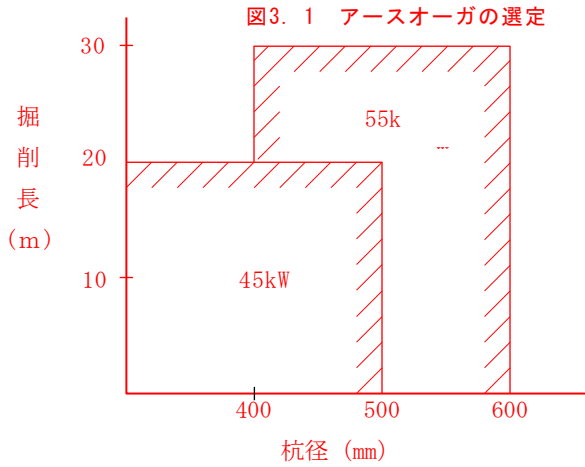
機種を選定は、次表を標準とする。

表3. 1 機種を選定

機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
クローラ式アースオーガ (単軸式・直結三点支持式)	オーガ出力〇kw 掘削径φ〇〇～〇〇mm リーダ長18～21m	台	1	アースオーガ出力は図3.1による
クローラクレーン	油圧駆動式ワインチ・ラジジブ型 排出ガス対策型 (第2次基準値)	〃	〃	鉄筋かご又はH形鋼の建込

3-2 アースオーガ

アースオーガ選定は、図3. 1を標準とするが、現場条件により、これにより難い場合は別途選定する。



(注) 杭径400mm以上で岩塊・玉石、軟岩（Ⅰ）、軟岩（Ⅱ）を連続して2 m以上含む場合は、杭径、掘削長にかかわらず、オーガ出力は90kWとする。

4. 編成人員

掘削機1台に対する編成人員は、次表を標準とする。

表4. 1 編成人員 (人/台)

職 種	世 話 役	と び 工	特殊作業員	普通作業員
編 成 人 員	1	2	1	1

(注) 掘削機、クレーンの運転労務は、「土地改良事業等請負工事機械経費算定基準」による。

5. 施工歩掛

5－1 杭10本当り施工日数（d）

杭10本当り施工日数は、次式による。

$$d = \frac{\alpha \times d_a}{F} \text{ (日／10本)}$$

d：杭10本当り施工日数（日／10本）

α：土質係数

d_a：杭径掘削長別杭10本当り施工日数（日／10本）

F：作業係数

5－1－1 土質係数（α）

土質係数は、次表のとおりとする。

表5. 1 土質係数（α）

N 値 土 質	土	岩塊・玉石	軟岩（Ⅰ） 軟岩（Ⅱ）
20未満	1.0	3.2	1.8
20以上	1.1		

（注）1．ここでいう「土」とは、礫質土、粘性土、砂及び砂質土をいう。

2．土質係数αは、掘削する土質毎の係数を下記のとおり加重平均して算出する。

$$\alpha = \frac{\alpha_1 \times L_1 + \alpha_2 \times L_2 \cdots}{L_1 + L_2 \cdots}$$

ここで、α_n：各土質の土質係数
L_n：各土質の掘削長（m）

例．N値20以上の土層5m、岩塊・玉石層5mの場合

$$\alpha = \frac{1.1 \times 5 + 3.2 \times 5}{5 + 5} = 2.15 \div 2.2$$

5－1－2 杭径掘削長別杭10本当り施工日数（d_a）

杭径掘削長別杭10本当り施工日数は、次表のとおりとする。

表5. 2 杭径掘削長別杭10本当り施工日数（d_a）（日／10本）

杭 径（mm） 掘削長（m）	350以上500以下	500を超え600以下
10以下	1.3	1.4
10を超え14以下	1.7	1.8
14を超え18以下	2.0	2.2
18を超え22以下	2.8	2.9
22を超え26以下	3.1	3.3
26を超え30以下	3.4	3.7

（注）杭径掘削長別杭10本当り施工日数には、準備時間、掘削時間、モルタル注入時間、鉄筋かご又はH形鋼建込み及び継足し時間等を含む。

5－1－3 作業係数（F）

作業係数は、次表による。

作業係数は、基準値を0.9とし、次により補正する。

$$F = 0.9 + f$$

F：作業係数

f：作業条件による補正係数

表5. 3 作業条件による補正係数（f）

補正係数 条件	－0.05	0	＋0.05	摘 要
施 工 規 模 （ 1 工 事 当 り ）	1,000 本未満	1,000 本以上 2,000 本未満	2,000 本以上	連続地中壁工の場合

	100 本未満	100 本以上 200 本未満	200 本以上	連続地中壁工以外の場合
--	---------	--------------------	---------	-------------

6. 材料使用量

杭10本当りモルタル使用量は、次式による。

$$Q = \pi \div 4 \times D^2 \times L \times (1 + K) \times 10 \quad (\text{m}^3 \div 10 \text{本})$$

Q : 杭10本当りモルタル使用量 (m³／10本)

D : 杭径 (m)

L : 打 設 長(m)

K : ロス率

表6. 1 ロス率 (K)

杭径 (mm)	350以上600以下
ロス率	+0.18

7. 鉄筋工

鉄筋工は、鉄筋加工・組立の費用及び材料であり、市場単価とする。

8. 諸雑費

諸雑費は、オーガスクリュ、オーガヘッド、モルタルプラント(25kW)の損料及び電力に関する経費の費用等であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に、次表の率を乗じた金額を計上する。

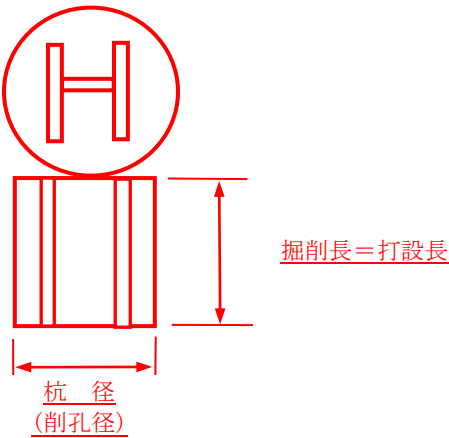
なお、表8.1の上段の値は土のみの場合に適用し、下段の値は岩塊、玉石、軟岩 (Ⅰ) ・ (Ⅱ) を連続して 2 m以上施工する場合に適用する。

表8. 1 諸雑費率 (%)

杭径・掘削長 モルタル区分	350mm以上500mm以下		500mm超え600mm以下
	20m以下	20m超え30m以下	30m以下
モルタルプラント使用	20	27	
	28	31	
モルタルプラント不使用	10	18	
	18	22	

9. 施工図

H形鋼の場合



⑦ 軟弱地盤処理工（スラリー攪拌工）

1. ・ 2. [略]

3. 機種の選定
[略]

表 3. 1・表 3. 2 [略]

表 3. 3 機種の選定

機 種	規 格	単 位	二 軸 施 工 （ 変 位 低 減 型 ）			
			φ 1, 600mm			
			[削る。]	打設長（L） 3mを超え 20m以下	打設長（L） 20mを超え 26m以下	打設長（L）26 mを超え 36m以下

1 0. 単価表

（1）杭10本当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	$\frac{1}{1} \times d$	表4. 1
と び 工		〃	$\frac{2}{2} \times d$	〃
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{1}{1} \times d$	〃
普 通 作 業 員		〃	$\frac{1}{1} \times d$	〃
モ ル タ ル		m ³	$\frac{Q}{Q}$	
鋼材（H形鋼又は鉄筋かご）		kg		
クローラ式アースオーガ 運 転	[単軸式・直結三点支持式] オーガ出力○kW 掘削径φ○○～○○mm リーダ長 18～21m	日	$\frac{d}{d}$	表3. 1、図3. 1
クローラクレーン 運 転	油圧駆動式ウインチ・ ラチスシフゝ型排出ガス対策型 （第2次基準値）30～35t吊	〃	$\frac{\frac{1}{2}}{2} \times d$	
諸 雑 費		式	$\frac{1}{1}$	表8. 1
計				

（注） 1. d：杭10本当り施工日数（日／10本）
 2. Q：杭10本当りモルタル使用量（m³／10本）

（2）機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	
ク ロ ー ラ 式 ア ー ス オ ー ガ	表3. 1	機－1 8	運転労務数量	→1. 00
			機械損料数量	→1. 60
			燃料消費量	→下記のとおりとする。
			規 格	燃料消費量（ℓ／日）
			45kW	63
ク ロ ー ラ ク レ ー ン	油 圧 駆 動 式ウインチ・ ラチスシフ型排出ガス対策型 （第2次基準値）30～35t 吊	機－1 8	運転労務数量	→1. 00
			機械損料数量	→1. 60
			燃料消費量	→54
			45kW	63
			55kW	63
			90kW	62

⑧ 軟弱地盤処理工（スラリー攪拌工）

1. ・ 2. [略]

3. 機種の選定
[略]

表 3. 1・表 3. 2 [略]

表 3. 3 機種の選定

機 種	規 格	単 位	二 軸 施 工 （ 変 位 低 減 型 ）			
			φ 1, 600mm			
			打設長（L） 3mを超え 10m以下	打設長（L） 10mを超え 20m以下	打設長（L） 20mを超え 26m以下	打設長（L）26 mを超え 36m以下

9	〃	10	〃	9
10	〃	12	〃	8
12	〃	15	〃	7
15	〃	18	〃	6
18	〃	22	〃	5
22	〃	30	〃	4
30	〃	40m以下		3

(注) 1. ~ 6. [略]

图 5-1 [略]

表5. 6 1日当り杭施工本数 (N) (本/日)

打設長 L (m)	二軸施工 (変位低減型) (杭径 1,000mm)
3 mを超え <u>4.5</u> m未満	<u>11</u>
[削る。]	[削る。]
4.5 " 5.5 "	10
5.5 " 7 "	9
7 " 9 "	8
9 " 11 "	7
11 " 14 "	6
14 " 19 "	5
19 " 26 "	4
26 " 39 "	3
39 " 40m以下	2

(注) 1. ~ 6. [略]

图 5-2 [略]

表5. 7 [略]

图 5-3 [略]

5-2 [略]

5-3 諸雜費

諸雑費は、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、改良後の整地（バックホウ運転費用）、グラウトポンプの遠隔操作の機器に要する費用、電力に関する経費等であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

なお、変位低減型の場合は、諸雑費率に排出土処理（エアリフト及び現場内仮置き）に関する費用を含む。

表 5. 9 諸雜費率 (%)

規 格	杭 径	打設長（L）	諸 雑 費 率
単 軸 施 工	φ 800～1,200mm	3 mを超え 10m以下	<u>29</u>
	φ 1,000～1,600mm	10mを超え 30m以下	<u>28</u>

9	〃	10	〃	9
10	〃	12	〃	8
12	〃	15	〃	7
15	〃	18	〃	6
18	〃	22	〃	5
22	〃	30	〃	4
30	〃	40m以下		3

(注) 1. ~ 6. [略]

图 5-1 [略]

表 5.6 1 日当り杭施工本数 (N) (本/日)

打設長 L (m)	二軸施工 (変位低減型) (杭径 1,000mm)
3 mを超え <u>3.5m</u> 未満	<u>12</u>
<u>3.5m以上</u> <u>4.5</u> //	<u>11</u>
4.5 // 5.5 //	10
5.5 // 7 //	9
7 // 9 //	8
9 // 11 //	7
11 // 14 //	6
14 // 19 //	5
19 // 26 //	4
26 // 39 //	3
39 // 40m以下	2

(注) 1. ~ 6. [略]

图 5-2 [略]

表5. 7 [略]

图 5-3 [略]

5-2 [略]

5-3 諸雜費

諸雑費は、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、改良後の整地に要する費用、電力に関する経費等であり、労務費、機械損料及び重転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

なお、変位低減型の場合は、諸雑費率に排出土処理（現場内仮置き）に関する費用を含む。

表 5. 9 諸雜費率 (%)

規 格	杭 径	打設長（L）	諸 雑 費 率
単 軸 施 工	φ 800～1,200mm	3 mを超え 10m以下	<u>20</u>
	φ 1,000～1,600mm	10mを超え 30m以下	<u>18</u>

	φ 1,800mm φ 2,000mm	3 mを超え 27m以下	<u>37</u>
二 軸 施 工	φ 1,000mm	3 mを超え 40m以下	<u>32</u>
二 軸 施 工 (変 位 低 減 型)	φ 1,000mm	3 mを超え 40m以下	<u>37</u>
	φ 1,600mm	3 mを超え 36m以下	<u>49</u>

5－4 スラリープラント現場内移設作業
[略]

表 5. 10 スラリープラント現場内移設歩掛 (1 回当たり)

名 称	規 格	単位	単 軸 施 工 二 軸 施 工 二軸施工 (変位低減型)
世 話 役		人	1.0
特 殊 作 業 員		〃	2.9
普 通 作 業 員		〃	1.4
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (<u>2014 年規制</u>) 油圧伸縮ジブ型 25 t	日	1.4

(注) 1. ・2. [略]

5－5 その他

5－5－1～5－5－4 [略]

5－5－5 プラント施設の防寒設備が必要な場合は、別途計上する。

6. 単価表

(1) 軟弱地盤処理工 (スラリー攪拌工) 杭長 (L 1) 1 本当たり単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1／N × 1	表 4. 1、表 5. 1～5. 7
特 殊 作 業 員		〃	1／N × <u>1(2)</u>	〃
普 通 作 業 員		〃	1／N × 1	〃
改 良 材		t	V	式 5. 1、表 5. 8
深層混合処理機運転		日	1／N	表 3. 1～3. 3 表 5. 1～5. 7
スラリ <u>二</u> プラント運転		〃	1／N	〃
諸 雑 費		式	1	表 5. 9
特 許 料 金		〃	1	必要に応じて計上する
計				

	φ 1,800mm φ 2,000mm	3 mを超え 27m以下	<u>31</u>
二 軸 施 工	φ 1,000mm	3 mを超え 40m以下	<u>23</u>
二 軸 施 工 (変 位 低 減 型)	φ 1,000mm	3 mを超え 40m以下	<u>26</u>
	φ 1,600mm	3 mを超え 36m以下	<u>31</u>

5－4 スラリープラント現場内移設作業
[略]

表 5. 10 スラリープラント現場内移設歩掛 (1 回当たり)

名 称	規 格	単位	単 軸 施 工 二 軸 施 工 二軸施工 (変位低減型)
世 話 役		人	1.0
特 殊 作 業 員		〃	2.9
普 通 作 業 員		〃	1.4
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (<u>第 2 次基準値</u>) 油圧伸縮ジブ型 25 t	日	1.4

(注) 1. ・2. [略]

5－5 その他

5－5－1～5－5－4 [略]

[新設]

6. 単価表

(1) 軟弱地盤処理工 (スラリー攪拌工) 杭長 (L 1) 1 本当たり単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1／N × 1	表 4. 1、表 5. 1～5. 7
特 殊 作 業 員		〃	1／N × <u>2(3)</u>	〃
普 通 作 業 員		〃	1／N × 1	〃
改 良 材		t	V	式 5. 1、表 5. 8
深層混合処理機運転		日	1／N	表 3. 1～3. 3 表 5. 1～5. 7
スラリ <u>二</u> プラント運転		〃	1／N	〃
諸 雑 費		式	1	表 5. 9
特 許 料 金		〃	1	必要に応じて計上する
計				

(注) [略]

(2) スラリープラント現場内移設1回当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 5. 10
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (2014年規制) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		〃
計				

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
深 層 混 合 処 理 機 (スラリー式)	表 3. 1	機－1 8	運転労務数量→1. 00 (単軸施工) 燃 料 消 費 量→ 27. 4kN・m×1→35 →90kW×1 20m→52 →90kW×1 30m→52 →90kW×2 →83 機械損料数量→1. 61 (二軸施工) 燃 料 消 費 量→ 45kW×2→59 → 60kW×2→48 → 90kW×2→77 機械損料数量→1. 61
深 層 混 合 処 理 機 (スラリー式) 変 位 低 減 型	表 3. 2、表 3. 3	機－1 8	運転労務数量→1. 00 燃 料 消 費 量→45kw×2 →55 →60kw×2 →45 →75kW×2 →55 →90kW×2 →72 [削る。] →L≤20m 機 →55 →L≤26m 機 →72 →L≤36m 機 →72 機械損料数量→1. 61
スラリープラント	表 3. 1～3. 3	機－2 5	機械損料数量→1. 61

⑧・⑨ [略]

5. フリューム類据付工

①～⑥ [略]

⑦ リフト台車によるプレキャストコンクリート水路据付

1. ・2. [略]

3. 機種の選定

(注) [略]

(2) スラリープラント現場内移設1回当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 5. 10
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		〃
計				

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
深 層 混 合 処 理 機 (スラリー式)	表 3. 1	機－1 8	運転労務数量→1. 00 (単軸施工) 燃 料 消 費 量→ 27. 4kN・m×1→35 →90kW×1 20m→52 →90kW×1 30m→52 →90kW×2 →83 機械損料数量→1. 61 (二軸施工) 燃 料 消 費 量→ 45kW×2→59 → 60kW×2→48 → 90kW×2→77 機械損料数量→1. 61
深 層 混 合 処 理 機 (スラリー式) 変 位 低 減 型	表 3. 2、表 3. 3	機－1 8	運転労務数量→1. 00 燃 料 消 費 量→45kw×2 →55 →60kw×2 →45 →75kW×2 →55 →90kW×2 →72 →L≤10m 機 →55 →L≤20m 機 →55 →L≤26m 機 →72 →L≤36m 機 →72 機械損料数量→1. 61
スラリープラント	表 3. 1～3. 3	機－2 5	機械損料数量→1. 61

⑨・⑩ [略]

5. フリューム類据付工

①～⑥ [略]

⑦ リフト台車によるプレキャストコンクリート水路据付

1. ・2. [略]

3. 機種の選定

3－1・3－2　[略]

3－3　発動発電機
[略]

表 3. 4　機種を選定

電　　源	規　　格
発　　動　　発　　電　　機	排出ガス対策型（ <u>第3次基準値</u> ） ディーゼルエンジン駆動 25KVA

（注）1.・2.　[略]

4.・5.　[略]

6. 単価表

（1）　[略]

（2）機械運転単価表

機械名	規　　格	適用単価表	指定事項
リ　フ　ト　台　車	ハング式 6t、15t、25t	機－3 2	機 械 賃 料 数 量　→1.25
発　動　発　電　機	排出ガス対策型（ <u>第3次基準値</u> ） ディーゼルエンジン駆動 25KVA	機－1 6	燃 料 消 費 量　→19 機 械 賃 料 数 量　→1.25

6. 河川・水路工

①～②　[略]

③　排水材設置工（構造物背面排水材）

1. 適用範囲

[略]

1－1　　[略]

1－2　適用できない範囲

（1）　[略]

（2）土砂部及び岩盤部（土工面）に帯状の排水材を設置する場合。

2.　　[略]

3. 施工歩掛

3－1　施工歩掛

[略]

表 3. 1　排水材設置歩掛

[略]

（注）1. 歩掛は、運搬距離 60m 程度までの現場内小運搬を含む設置作業であり、埋戻しは含まない。

2. ～5.　[略]

3－2　[略]

3－1・3－2　[略]

3－3　発動発電機
[略]

表 3. 4　機種を選定

電　　源	規　　格
発　　動　　発　　電　　機	排出ガス対策型（ <u>第2次基準値</u> ） ディーゼルエンジン駆動 25KVA

（注）1.・2.　[略]

4.・5.　[略]

6. 単価表

（1）　[略]

（2）機械運転単価表

機械名	規　　格	適用単価表	指定事項
リ　フ　ト　台　車	ハング式 6t、15t、25t	機－3 2	機 械 賃 料 数 量　→1.25
発　動　発　電　機	排出ガス対策型（ <u>第2次基準値</u> ） ディーゼルエンジン駆動 25KVA	機－1 6	燃 料 消 費 量　→19 機 械 賃 料 数 量　→1.25

6. 河川・水路工

①～②　[略]

③　排水材設置工

1. 適用範囲

[略]

1－1　　[略]

1－2　適用できない範囲

（1）　[略]

（2）土砂部及び岩盤部（土工面）に設置する帯状の排水材の場合。

2.　　[略]

3. 施工歩掛

3－1　施工歩掛

[略]

表 3. 1　排水材設置歩掛

[略]

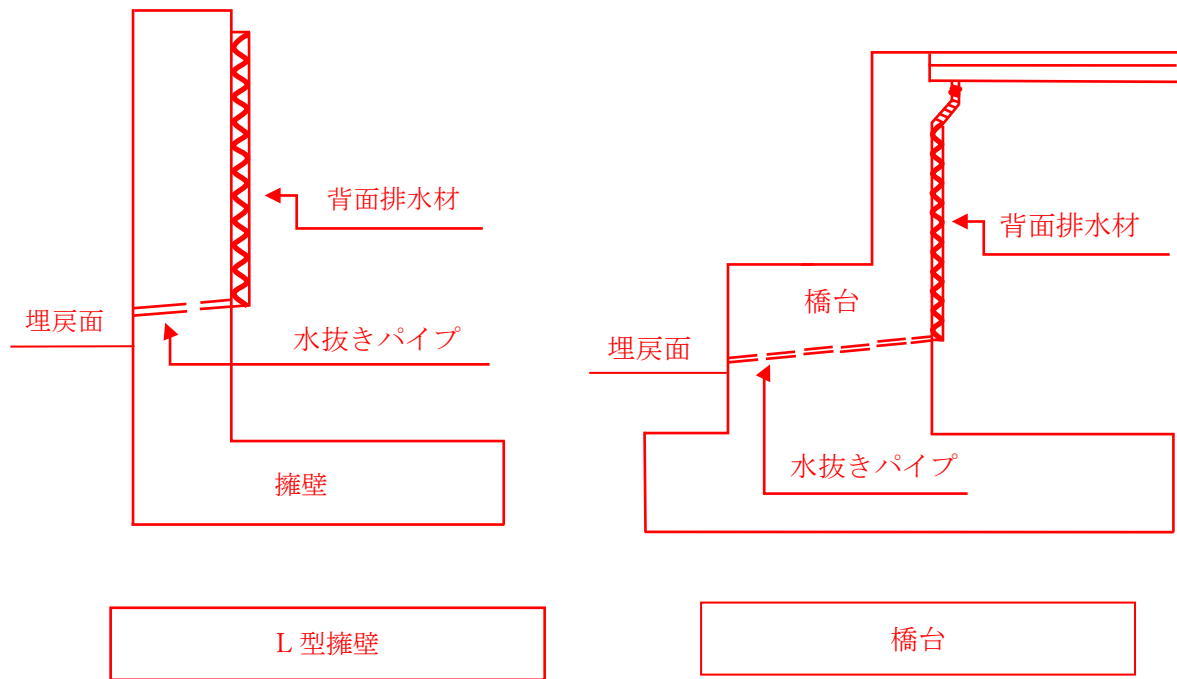
（注）1. 歩掛は、現場内小運搬を含む設置作業であり、埋戻しは含まない。

2. ～5.　[略]

3－2　[略]

4. [略]

(参考図)



④ [略]

7. 管水路工

① [略]

② 硬質ポリ塩化ビニル管人力布設

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

3－1 布設歩掛
[略]

表 3. 1 硬質ポリ塩化ビニル管人力布設歩掛
[略]

- (注) 1. [略]
2. 片受直管、ソケット、エルボ、チーズ等の継手接合（材質は問わない）に要する手間及び布設に伴う材料の移動手間を含む。ただし、継手の材料費は別途計上する。
3. 接合箇所が3箇所を超える場合は、呼び径別にその超えた部分の接合に係る接合歩掛を、下記3－2の定めにより本表の歩掛に加算する。
なお、接合箇所とは管の接合を含み、継手材による接合の場合は継手材1個当たり1箇所である。
4. [略]

4. [略]

[新設]

④ [略]

7. 管水路工

① [略]

② 硬質ポリ塩化ビニル管人力布設

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

3－1 布設歩掛
[略]

表 3. 1 硬質ポリ塩化ビニル管人力布設歩掛
[略]

- (注) 1. [略]
2. ソケット、エルボ、チーズ等の継手接合（材質は問わない）に要する手間及び布設に伴う材料の移動手間を含む。ただし、継手の材料費は別途計上する。
3. 接合箇所が3箇所を超える場合は、呼び径別にその超えた部分の接合に係る接合歩掛を、下記3－2の定めにより本表の歩掛に加算する。
4. [略]

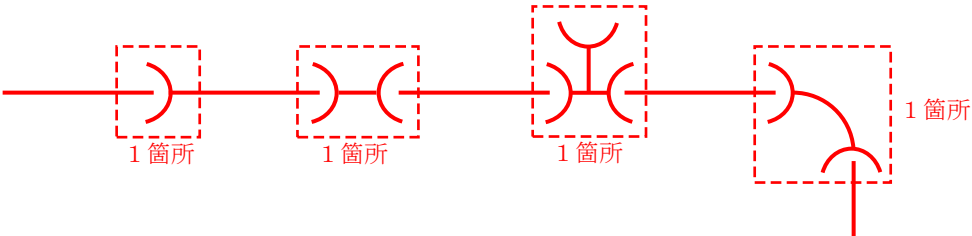
3－2 接合歩掛

[略]

- (注) 1. 接合箇所数及び施工延長は、呼び径別に計上する。
2. 異径継手については、受口のうち最も大きい呼び径を適用する。

表 3. 2 [略]

(参考)



3－3 [略]

4. [略]

③ 硬質ポリ塩化ビニル管機械布設

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

3－1 布設歩掛

[略]

表 3. 1 硬質ポリ塩化ビニル管機械布設歩掛

[略]

- (注) 1. [略]
2. 片受直管、ソケット、エルボ、チーズ等の継手接合（材質は問わない）に要する手間及び布設に伴う材料の移動手間を含む。ただし、継手の材料費は別途計上する。
3. 接合箇所が3箇所を超える場合は、呼び径別にその超えた部分の接合に係る接合歩掛を、下記3－2の定めにより本表の歩掛に加算する。
なお、接合箇所とは管の接合を含み、継手材による接合の場合は継手材1個当たり1箇所である。
4. ～6. [略]

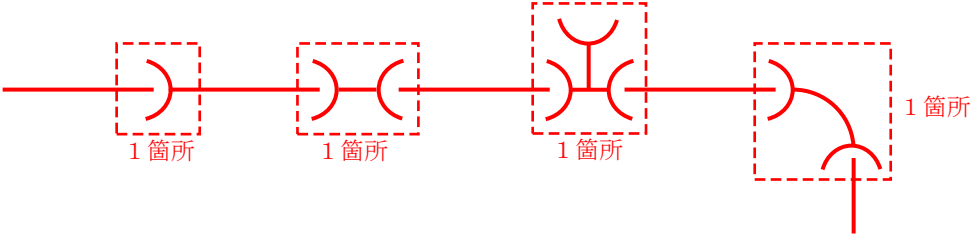
3－2 接合歩掛

[略]

- (注) 1. 接合箇所数及び施工延長は呼び径別に計上する。
2. 異径継手については、受口のうち最も大きい呼び径を適用する。

表 3. 2 [略]

(参考)



3－2 接合歩掛

[略]

- (注) 接合箇所数及び施工延長は、呼び径別に計上する。
[新設]

表 3. 2 [略]

[新設]

3－3 [略]

4. [略]

③ 硬質ポリ塩化ビニル管機械布設

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

3－1 布設歩掛

[略]

表 3. 1 硬質ポリ塩化ビニル管機械布設歩掛

[略]

- (注) 1. [略]
2. ソケット、エルボ、チーズ等の継手接合（材質は問わない）に要する手間及び布設に伴う材料の移動手間を含む。ただし、継手の材料費は別途計上する。
3. 接合箇所が3箇所を超える場合は、呼び径別にその超えた部分の接合に係る接合歩掛を、下記3－2の定めにより本表の歩掛に加算する。
4. ～6. [略]

3－2 接合歩掛

[略]

- (注) 接合箇所数及び施工延長は呼び径別に計上する。
[新設]

表 3. 2 [略]

[新設]

3-3 [略]

4. [略]

④ 強化プラスチック複合管機械布設

1. · 2. [略]

3. 施工步掛

[略]

表 3. 1 強化プラスチック複合管 (4.0m 管) 布設歩掛 (10 本当り)

管径 (mm)	労務人数 (人)			機 械	使 用 機 械
	世話役	特 殊 作業員	普 通 作業員	運転時間 (日)	
200	—	0.53	0.83	0.76	バックホウ (クレーン機能付) <u>超低騒音型</u> 排出ガス対策型 (<u>2014 年規制</u>) クローラ型 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 2.9t 吊
250	—	0.56	0.88	0.80	
300	—	0.67	0.92	0.83	
350	—	0.70	1.04	0.87	
400	—	0.72	1.08	0.90	
450	0.19	0.56	1.11	0.93	
500	0.19	0.57	1.14	0.95	
600	0.20	0.61	1.31	1.01	
700	0.21	0.74	1.47	1.05	
800	0.22	0.77	1.54	1.10	
900	0.23	0.80	1.72	1.15	
1,000	0.36	0.95	1.90	1.19	
1,100	0.37	0.99	1.98	1.23	
1,200	0.38	1.15	2.18	1.28	
1,350	0.40	1.20	2.40	1.33	
1,500	0.42	1.39	2.78	1.39	
1,650	0.43	1.45	3.04	1.45	
1,800	0.61	1.67	3.33	1.52	
2,000	0.63	1.90	3.97	1.59	
2,200	0.67	2.17	4.50	1.67	
2,400	0.86	2.59	5.17	1.72	
2,600	0.91	2.91	5.82	1.82	
2,800	1.13	3.40	6.60	1.89	
3,000	1.18	3.73	7.65	1.96	

[略]

表 3. 2 強化プラスチック複合管 (6.0m 管) 布設歩掛 (10 本当り)

管径 (mm)	労務人数(人)			機 械 運転時間 (日)	使 用 機 械 バックホウ (クレーン機能付) <u>超低騒音型</u> 排出ガス対策型(2014年規制) クローラ型 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 2.9t 吊
	世話役	特 殊 作業員	普 通 作業員		
450	0.19	0.58	1.25	0.96	
500	0.20	0.69	1.39	0.99	
600	0.32	0.84	1.58	1.05	
700	0.33	0.88	1.87	1.10	
800	0.34	1.03	2.18	1.15	
900	0.36	1.20	2.41	1.20	
1,000	0.50	1.38	2.75	1.25	
1,100	0.51	1.54	2.95	1.28	
1,200	0.53	1.73	3.33	1.33	

3-3 [略]

4. [略]

④ 強化プラスチック複合管機械布設

1. · 2. [略]

3. 施工步掛

[略]

表 3. 1 強化プラスチック複合管 (4.0m 管) 布設歩掛 (10 本当り)

管径 (mm)	労務人数 (人)			機 械 運転時間 (日)	使 用 機 械
	世話役	特 殊 作業員	普 通 作業員		
200	—	0.53	0.83	0.76	バックホウ (クレーン機能付) 排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 2.9t 吊
250	—	0.56	0.88	0.80	
300	—	0.67	0.92	0.83	
350	—	0.70	1.04	0.87	
400	—	0.72	1.08	0.90	
450	0.19	0.56	1.11	0.93	
500	0.19	0.57	1.14	0.95	
600	0.20	0.61	1.31	1.01	
700	0.21	0.74	1.47	1.05	
800	0.22	0.77	1.54	1.10	
900	0.23	0.80	1.72	1.15	
1,000	0.36	0.95	1.90	1.19	
1,100	0.37	0.99	1.98	1.23	
1,200	0.38	1.15	2.18	1.28	
1,350	0.40	1.20	2.40	1.33	
1,500	0.42	1.39	2.78	1.39	
1,650	0.43	1.45	3.04	1.45	
1,800	0.61	1.67	3.33	1.52	ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 (第2次基準値) (油圧伸縮ジブ型) 25t 吊
2,000	0.63	1.90	3.97	1.59	
2,200	0.67	2.17	4.50	1.67	
2,400	0.86	2.59	5.17	1.72	
2,600	0.91	2.91	5.82	1.82	
2,800	1.13	3.40	6.60	1.89	
3,000	1.18	3.73	7.65	1.96	

[略]

表 3. 2 強化プラスチック複合管（6m）布設歩掛（10 本当り）

管径 (mm)	労務人数 (人)			機 械 運転時間 (日)	使 用 機 械 バックホウ (クレーン機能付) 排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 2.9t 吊
	世話役	特 殊 作業員	普 通 作業員		
450	0.19	0.58	1.25	0.96	
500	0.20	0.69	1.39	0.99	
600	0.32	0.84	1.58	1.05	
700	0.33	0.88	1.87	1.10	
800	0.34	1.03	2.18	1.15	
900	0.36	1.20	2.41	1.20	
1,000	0.50	1.38	2.75	1.25	
1,100	0.51	1.54	2.95	1.28	
1,200	0.53	1.73	3.33	1.33	

1,350	0.70	1.97	3.80	1.41	ラフテレーンクレーン <u>低騒音型</u> 排出ガス対策型（第2次基準値） （油圧伸縮ジブ型）25t 吊
1,500	0.74	2.21	4.41	1.47	
1,650	0.76	2.42	4.85	1.52	
1,800	0.95	2.70	5.56	1.59	
2,000	1.00	3.17	6.33	1.67	

〔略〕

4. 単価表

（1）強化プラスチック複合管（4.0m管）布設 10 本当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
強化プラスチック複合管	○種○mm	本	10	
諸 雑 費		式	1	表 3. 1（注） 4
世 話 役		人		表 3. 1
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン 賃料	<u>低騒音型</u> 排出ガス対策型（第2次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		〃
バックホウ（クレーン機能付） 運 転	<u>超低騒音型</u> 排出ガス対策型（ <u>2014 年規制</u> ） クローラ型 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ） 2.9t 吊	〃		〃
計				

（2）強化プラスチック複合管（6.0m管）布設 10 本当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
強化プラスチック複合管	○種○mm	本	10	
諸 雑 費		式	1	表 3. 2（注） 4
世 話 役		人		表 3. 2
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン 賃料	<u>低騒音型</u> 排出ガス対策型（第2次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		〃
バックホウ（クレーン機能付） 運 転	<u>超低騒音型</u> 排出ガス対策型（ <u>2014 年規制</u> ） クローラ型 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ） 2.9t 吊	〃		〃
計				

（3）機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ（クレーン機能付）	<u>超低騒音型</u> 排出ガス対策型（ <u>2014 年規制</u> ） クローラ型 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ） 2.9t 吊	機－2 8	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→ <u>56</u> 機械賃料数量→1.12

⑤～⑬ 〔略〕

8. 道 路 工

1,350	0.70	1.97	3.80	1.41	ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型（第2次基準値） （油圧伸縮ジブ型）25t 吊
1,500	0.74	2.21	4.41	1.47	
1,650	0.76	2.42	4.85	1.52	
1,800	0.95	2.70	5.56	1.59	
2,000	1.00	3.17	6.33	1.67	

〔略〕

4. 単価表

（1）強化プラスチック複合管（4.0m管）布設 10 本当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
強化プラスチック複合管	○種○mm	本	10	
諸 雑 費		式	1	表 3. 1（注） 4
世 話 役		人		表 3. 1
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン 賃料	排出ガス対策型（第2次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		〃
バックホウ（クレーン機能付） 運 転	排出ガス対策型（ <u>第2次基準値</u> ） クローラ型 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ） 2.9t 吊	〃		〃
計				

（2）強化プラスチック複合管（6.0m管）布設 10 本当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
強化プラスチック複合管	○種○mm	本	10	
諸 雑 費		式	1	表 3. 2（注） 4
世 話 役		人		表 3. 2
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン 賃料	排出ガス対策型（第2次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		〃
バックホウ（クレーン機能付） 運 転	排出ガス対策型（ <u>第2次基準値</u> ） クローラ型 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ） 2.9t 吊	〃		〃
計				

（3）機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ（クレーン機能付）	排出ガス対策型（ <u>第2次基準値</u> ） クローラ型 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ） 2.9t 吊	機－2 8	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→ <u>48</u> 機械賃料数量→1.12

⑤～⑬ 〔略〕

8. 道 路 工

登り栈橋工費（円）＝{5,116+2,917T₁₁+0.474y（設置）+0.341y（撤去）}×H
T₁₁：登り栈橋を供用している月数（月）
y：橋りょう特殊工単価（円／人）
H：登り栈橋の高さ（m）
（注）手すり先行型枠組足場は二段手すり及び幅木の機能を有している。

4－6 [略]

5. ・ 6. [略]

⑤・⑥ [略]

⑦ 排水材設置工（水平排水層）

1. 適用範囲

本歩掛は、盛土（路体盛土等）内の浸透水の排除を目的に設置する帯状の排水材（帯状シート・全透水型（立体網状体等））を設置、及びフィルター材（砕石等）を敷設する作業に適用する。なお、帯状の排水材の設置は水平排水材、フィルター材（砕石等）の敷設はフィルター層とする。

1－1 適用出来る範囲

1－1－1 水平排水材
（1）現地発生土及び鉄丸釘等を用いて固定する方法を標準とし、排水材規格は幅100mm 以上600mm 以下、厚50mm以下の場
合。
（2）帯状シート及び全透水型の場合。

1－1－2 フィルター層
（1）フィルター層（水平排水層）及びフィルター層（基盤排水層）の場合。
（2）フィルター層は厚 300mm 以上 500mm 以下の場合。

1－2 適用出来ない範囲

1－2－1 水平排水材
（1）切盛境に設置する場合。
（2）構造物背面のコンクリート面に設置する場合。
（3）補強土壁及び補強盛土の補強領域内への浸透を排除するため、盛土の一定厚さごとに、水平排水材を設置する場合。
（4）帯状排水材の全透水型（メッシュチューブ型）及び半透水型の場合。

1－2－2 フィルター層
（1）排水層内に暗渠排水管を埋設する場合。
（2）軟弱地盤処理工の場合。
（3）補強土壁及び補強盛土の補強領域内への浸透を排除するため、盛土の一定厚さごとに、フィルター層を敷設する場合。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

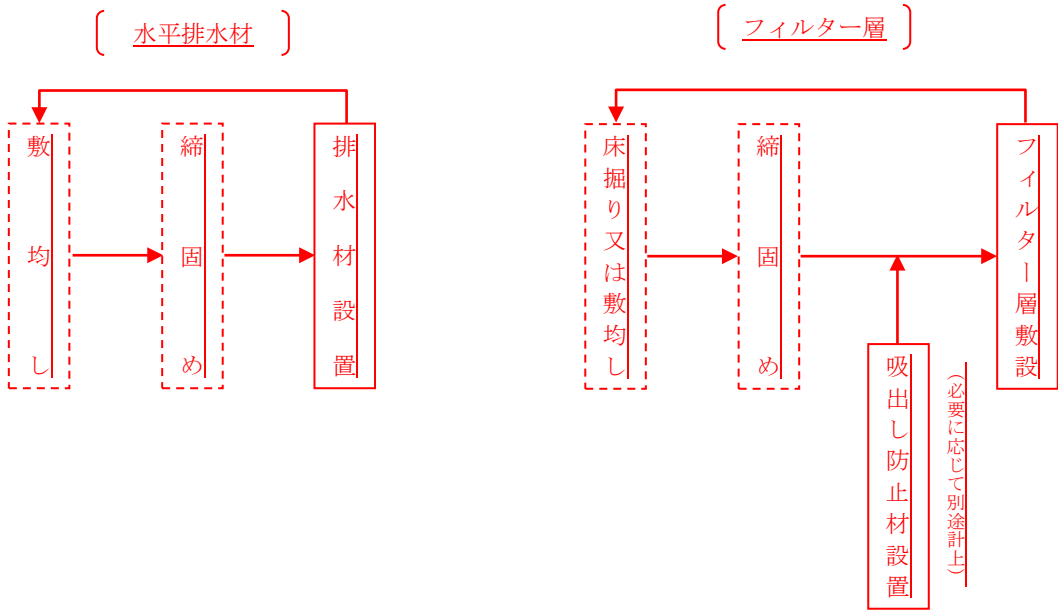
登り栈橋工費（円）＝{5,116+2,917T₁₁+0.427y（設置）+0.307y（撤去）}×H
T₁₁：登り栈橋を供用している月数（月）
y：橋りょう特殊工単価（円／人）
H：登り栈橋の高さ（m）
（注）手すり先行型枠組足場は二段手すり及び幅木の機能を有している。

4－6 [略]

5. ・ 6. [略]

⑤・⑥ [略]

[新設]



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

3. 施工歩掛

3-1 水平排水材設置歩掛

水平排水材設置歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 1 水平排水材設置歩掛 (10m 当り)

製品幅 (mm) 及び 厚 (mm)		幅 100 以上 600 以下 厚 50 以下
名 称	単位	
土木一般世話役	人	0.04
普通作業員	人	0.13
排水材	m	10.2
諸雑費率	%	0.3

- (注) 1. 歩掛は、運搬距離 60m 程度までの現場内小運搬を含む設置作業であり、盛土は含まない。
2. 水平排水材のロス率（重合せ及び切断ロス）は、+0.02 として上表に含まれている。
3. 諸雑費は、ハンマーの損料及び鉄丸釘等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。なお、固定方法に関わらず本諸雑費率を使用できる。

3-2 フィルター層敷設歩掛

フィルター層敷設歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 2 フィルター層敷設歩掛 (10m3 当り)

製品幅 (mm) 及び 厚 (mm)		厚 300 以上 500 以下
名 称	単位	
土木一般世話役	人	0.11
特殊作業員	人	0.06
普通作業員	人	0.31
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) 運 転	h	2.2
フィルター材	m3	13
諸雑費率	%	0.3

- (注) 1. 歩掛は、運搬距離 40m 程度までの現場内小運搬を含む敷設作業であり、掘削及び盛土は含まない。
2. フィルター材のロス率（材料ロス）は、+0.3 として上表に含まれている。
3. 諸雑費は、締固め機械等の運転経費であり、労務費の合計に上表の率を乗じた金額を計上する。
4. 吸出し防止材が必要な場合は、「施工パッケージ型積算基準 2. 共通工⑦吸出し防止材設置

工」により別途計上する。

4. 単価表

(1) 水平排水材 10m当り設置単価表

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 3.1
普 通 作 業 員		人		人
水 平 排 水 材	製品幅(mm)・製品厚(mm)	m		人 10× (1+ロス率)
諸 雑 費		式	1	人
計				

(2) フィルター層 10m3 当り敷設単価表

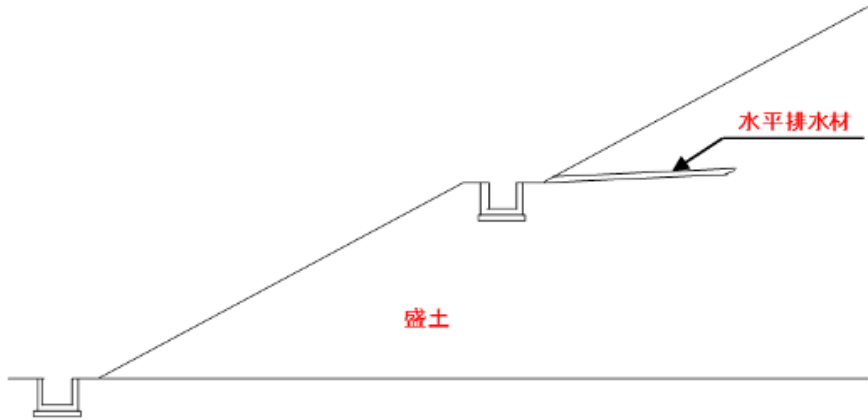
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 3.2
特 殊 作 業 員		人		人
普 通 作 業 員		人		人
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) 運 転	後方超小旋回型・超低騒音型・ クレーン 機能付き・ 排出ガス対策型 (2014 規制) ・ 山積 0.5m3 (平積 0.4m3) 吊能力 2.9t	h		人 機械損料
フ ィ ル タ ー 材		m3		人 10× (1+ロス率)
諸 雑 費		式	1	人
計				

(3) 機械運転単価表

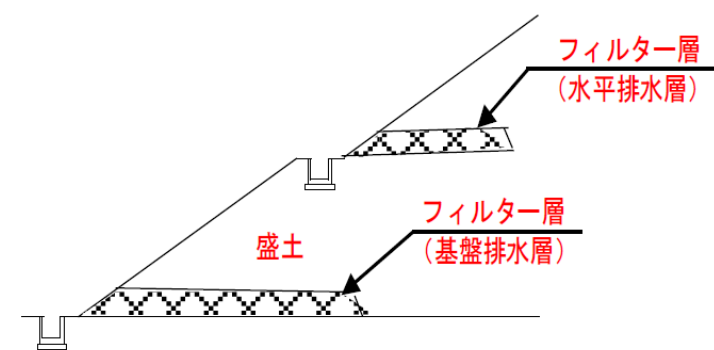
機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) [フ ィ ル タ ー 層]	後方超小旋回型・超低騒音型・ クレーン 機能付き・ 排出ガス対策型 (2014 規制) ・ 山積 0.5m3 (平積 0.4m3) 吊能力 2.9t	機－1	

5. 参考図

水平排水材の参考図



フィルター層の参考図



9. ほ場整備工

①～③ 〔略〕

④ 基盤整地及び簡易整備

1.・2. 〔略〕

3. 機種の選定
〔略〕

表3. 1 機種の選定

機 械 名	規 格
ブ ル ド ー ザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 11t 級
	排出ガス対策型(第1次基準値) 15t 級
湿地ブルドーザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 13t 級
	排出ガス対策型(第1次基準値) 16t 級
超湿地ブルドーザ	排出ガス対策型(第3次基準値) 18t 級

3-1 機種の選定は、次表を標準とする。

3-1-1 地耐力による適用機種標準

表3. 2 地耐力による適用機種標準

機 種	コーン支持力値	載荷時接地圧
超湿地ブルドーザ 排出ガス対策型(第3次基準値)	200 kN/m ² 以上	15～23 kPa
湿地ブルドーザ 排出ガス対策型(第1次基準値)	300 "	22～43 "
ブルドーザ 11t 級 排出ガス対策型(第1次基準値)	500 "	58～61 "
" 15t 級 排出ガス対策型(第1次基準値)	500 "	50～60 "

(注) 1.・2. 〔略〕

3-1-2 機種選定表

表3. 3 機種選定表

ブ ル ド ー ザ	湿地ブルドーザ	超湿地ブルドーザ
-----------	---------	----------

9. ほ場整備工

①～③ 〔略〕

④ 基盤整地及び簡易整備

1.・2. 〔略〕

3. 機種の選定
〔略〕

表3. 1 機種の選定

機 械 名	規 格
ブ ル ド ー ザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 11t 級
	排出ガス対策型(第1次基準値) 15t 級
湿地ブルドーザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 13t 級
	排出ガス対策型(第1次基準値) 16t 級
超湿地ブルドーザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 18t 級

3-1 機種の選定は、次表を標準とする。

3-1-1 地耐力による適用機種標準

表3. 2 地耐力による適用機種標準

機 種	コーン支持力値	載荷時接地圧
超湿地ブルドーザ 排出ガス対策型(第1次基準値)	200 kN/m ² 以上	15～23 kPa
湿地ブルドーザ 排出ガス対策型(第1次基準値)	300 "	22～43 "
ブルドーザ 11t 級 排出ガス対策型(第1次基準値)	500 "	58～61 "
" 15t 級 排出ガス対策型(第1次基準値)	500 "	50～60 "

(注) 1.・2. 〔略〕

3-1-2 機種選定表

表3. 3 機種選定表

ブ ル ド ー ザ	湿地ブルドーザ	超湿地ブルドーザ
-----------	---------	----------

排出ガス対策型 (第1次基準値) 11t 級	排出ガス対策型 (第1次基準値) 15t 級	排出ガス対策型 (第1次基準値) 13t 級	排出ガス対策型 (第1次基準値) 16t 級	排出ガス対策型 (<u>第3次基準値</u>) 18t 級
1,000m ³ 未満	1,000～ 15,000m ³ 未満	1,000m ³ 未満	1,000～ 30,000m ³ 未満	1,000～30,000m ³ 未満

4. 施工歩掛
[略]

4－1 運転1時間当り標準作業量（S。）

表 4. 1 運転1時間当り標準作業量 (ha／hr)		
機 種	規 格	運転1時間当り標準作業量（S。）
ブ ル ド ー ザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 11t 級	0.155
	排出ガス対策型(第1次基準値) 15t 級	0.169
湿 地 ブ ル ド ー ザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 13t 級	0.175
	排出ガス対策型(第1次基準値) 16t 級	0.177
超 湿 地 ブ ル ド ー ザ	排出ガス対策型(<u>第3次基準値</u>) 18t 級	0.214

4－2～4－4 [略]

5. 単価表

(1) 基盤整地及び簡易整備 1ha 当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
ブルドーザ運転 (普通又は湿地 又は超湿地)	排出ガス対策型 (<u>第〇次基準値</u>) 〇〇t 級	h	1／S	表 4. 1、表 4. 2
世 話 役		人		表 4. 4
普 通 作 業 員		〃		〃
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ブ ル ド ー ザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 11t 級	機－1	
	排出ガス対策型(第1次基準値) 15t 級	〃	
湿 地 ブ ル ド ー ザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 13t 級	〃	
	排出ガス対策型(第1次基準値) 16t 級	〃	
超 湿 地 ブ ル ド ー ザ	排出ガス対策型(<u>第3次基準値</u>) 18t 級	〃	

⑤ 暗渠排水工

1.・2. [略]

3. 機種の選定

排出ガス対策型 (第1次基準値) 11t 級	排出ガス対策型 (第1次基準値) 15t 級	排出ガス対策型 (第1次基準値) 13t 級	排出ガス対策型 (第1次基準値) 16t 級	排出ガス対策型 (<u>第1次基準値</u>) 18t 級
1,000m ³ 未満	1,000～ 15,000m ³ 未満	1,000m ³ 未満	1,000～ 30,000m ³ 未満	1,000～30,000m ³ 未満

4. 施工歩掛
[略]

4－1 運転1時間当り標準作業量（S。）

表 4. 1 運転1時間当り標準作業量 (ha／hr)		
機 種	規 格	運転1時間当り標準作業量（S。）
ブ ル ド ー ザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 11t 級	0.155
	排出ガス対策型(第1次基準値) 15t 級	0.169
湿 地 ブ ル ド ー ザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 13t 級	0.175
	排出ガス対策型(第1次基準値) 16t 級	0.177
超 湿 地 ブ ル ド ー ザ	排出ガス対策型(<u>第1次基準値</u>) 18t 級	0.214

4－2～4－4 [略]

5. 単価表

(1) 基盤整地及び簡易整備 1ha 当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
ブルドーザ運転 (普通又は湿地 又は超湿地)	排出ガス対策型 (<u>第1次基準値</u>) 〇〇t 級	h	1／S	表 4. 1、表 4. 2
世 話 役		人		表 4. 4
普 通 作 業 員		〃		〃
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ブ ル ド ー ザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 11t 級	機－1	
	排出ガス対策型(第1次基準値) 15t 級	〃	
湿 地 ブ ル ド ー ザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 13t 級	〃	
	排出ガス対策型(第1次基準値) 16t 級	〃	
超 湿 地 ブ ル ド ー ザ	排出ガス対策型(<u>第1次基準値</u>) 18t 級	〃	

⑤ 暗渠排水工

1.・2. [略]

3. 機種の選定

3-1~3-3 [略]

3-4 小運搬機械
[略]

表3. 4 機種を選定

資 材 名	機 械 名	規 格
暗渠排水管（定尺管） 土管・陶管 もみ殻、粗朶類	不整地運搬車	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ダンプ式積載質量 2.0t
暗渠排水管（ロール管） 砕石	不整地運搬車	<u>排出ガス対策型(2014年規制)</u> クローラ型油圧ダンプ式積載質量 <u>2.0～3.0t</u>

(注) 1.・2. [略]

4. 施工步掛

4-1 [略]

4-2 小運搬

4-2-1 [略]

4-2-2 機械小運搬 (不整地運搬車)

(1) 日当り施工量

[略]

表4. 6 日当り施工量 (1日当り)

資 材 名	規 格	単位	運 搬 距 離		
			50m 以下	50m を超え 100m 以下	100m を超え 150m 以下
暗 渠 排 水 管 (定 尺 管)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ガンブ式 積載質量2.0t	m	—	3,310	3,160
暗 渠 排 水 管 (ロール管)	<u>排出ガス対策型(2014年規制)</u> クローラ型油圧ガンブ式 積載質量2.0～3.0t	〃	2,580	2,240	1,890
土 管 ・ 陶 管	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ガンブ式 積載質量2.0t	ton	7.2	6.6	6.0
も み 殻	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ガンブ式 積載質量2.0t	m ³	110	94.4	78.8
砕 石	<u>排出ガス対策型(2014年規制)</u> クローラ型油圧ガンブ式 積載質量2.0～3.0t	〃	38.5	32.9	27.2
粗 朶 類	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ガンブ式 積載質量2.0t	〃	155	137	120

(注) [略]

(2) [略]

5. 単価表

(1) ~ (3) [略]

(4) 機械小運搬（不整地運搬車）1日当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
不 整 地 運 搬 車 運 転	排出ガス対策型(第2次基準値) クロー型油圧ダンプ式積載質量2.0t 又は <u>排出ガス対策型(2014年規制)</u> クロー型油圧ダンプ式積載質量2.0～3.0t	日	1.0	表 4. 6

3-1~3-3 [略]

3-4 小運搬機械
[略]

表3. 4 機種を選定

資 材 名	機 械 名	規 格
暗渠排水管（定尺管） 土管・陶管 もみ殻、粗朶類	不整地運搬車	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ガンブ式積載質量2.0t
暗渠排水管（ロール管） 砕石	不整地運搬車	クローラ型油圧ガンブ式積載質量3.0t

(注) 1. · 2. [略]

4. 施工步掛

4-1 [略]

4-2 小運搬

4-2-1 [略]

4-2-2 機械小運搬 (不整地運搬車)

(1) 日当り施工量

[略]

表4. 6 日当り施工量 (1日当り)

資 材 名	規 格	単位	運 搬 距 離		
			50m 以下	50m を超え 100m 以下	100m を超え 150m 以下
暗 渠 排 水 管 (定 尺 管)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ポンプ式 積載質量2.0t	m	—	3,310	3,160
暗 渠 排 水 管 (ロール管)	クローラ型油圧ポンプ式 積載質量3.0t	〃	2,580	2,240	1,890
土 管 ・ 陶 管	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ポンプ式 積載質量2.0t	ton	7.2	6.6	6.0
も み 殻	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ポンプ式 積載質量2.0t	m ³	110	94.4	78.8
砕 石	クローラ型油圧ポンプ式 積載質量3.0t	〃	38.5	32.9	27.2
粗 朶 類	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ポンプ式 積載質量2.0t	〃	155	137	120

(注) [略]

(2) [略]

5. 単価表

(1) ~ (3) [略]

(4) 機械小運搬（不整地運搬車）1日当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
不 整 地 運 搬 車 運 転	排出ガス対策型(第2次基準値) クラ型油圧ダンプ式積載質量2.0t 又は クラ型油圧ダンプ式積載質量3.0t	日	1.0	表 4. 6

普 通 作 業 員		人	労務数×D／10 又は100	表4. 7
計				

(注) [略]

(5) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ト レ ン チ ャ	自走式・普通型 クローラ 35kW	機－１８	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→33 機械損料数量→1.52
バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.28m³ (平積0.20m³)	〃	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→34 機械損料数量→1.66
不 整 地 運 搬 車	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 油圧ダンプ式 積載質量2.0t	機－２８	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→14 機械賃料数量→1.55
不 整 地 運 搬 車	排出ガス対策型 (2014 年規制) クローラ型 油圧ダンプ式 積載質量 <u>2.0～3.0t</u>	機－１８	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→ <u>16</u> 機械損料数量→1.57

⑥ [略]

１０．農地造成工

① [略]

② レーキドーザ抜根

１． [略]

２．機種の選定

[略]

表 2. 1 機種の選定

機 械 名	規 格
レ ー キ ド ー ザ	<u>[削る。]</u> <u>[削る。]</u> <u>[削る。]</u> 湿地 13t 湿地 16t

(注) [略]

３．施工歩掛

[略]

３－１ [略]

普 通 作 業 員		人	労務数×D／10 又は100	表4. 7
計				

(注) [略]

(5) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ト レ ン チ ャ	自走式・普通型 クローラ 35kW	機－１８	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→33 機械損料数量→1.52
バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.28m³ (平積0.20m³)	〃	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→34 機械損料数量→1.66
不 整 地 運 搬 車	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 油圧ダンプ式 積載質量2.0t	機－２８	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→14 機械賃料数量→1.55
不 整 地 運 搬 車	クローラ型 油圧ダンプ式 積載質量 <u>3.0t</u>	機－１８	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→ <u>20</u> 機械損料数量→1.57

⑥ [略]

１０．農地造成工

① [略]

② レーキドーザ抜根

１． [略]

２．機種の選定

[略]

表 2. 1 機種の選定

機 械 名	規 格
レ ー キ ド ー ザ	<u>普通 11t</u> <u>普通 15t</u> <u>普通 21t</u> 湿地 13t 湿地 16t

(注) [略]

３．施工歩掛

[略]

３－１ [略]

3-2 作業効率（E）
[略]

表 3. 2 作業効率

機 種 \ 現場条件	良 好	普 通	不 良
[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]
<u>16t 湿地レーキドーザ</u>	0.80	1.00	1.20
<u>13t 湿地レーキドーザ</u>	1.15	1.35	1.55

[削る。]

表 3. 3 抜根作業の現場条件判定基準

項 目	区 分	得 点
勾 配	<u>0～8° 未満</u> [削る。] 8° ～	0 [削る。] <u>2</u>
立 木 率	0～10％ 11～50 51～100	0 1 2
稚 樹 等 密 度	0～1,000 本/ha 1,001～2,000 2,001～3,000 3,001～	0 1 2 3
[削る。]	[削る。]	[削る。]
そ の 他 作 業 条 件	普 通 や や 不 良 不 良	0 1 2

(注) 1・2. [略]

[削る。]

表 3. 4 現場条件判定表

現場条件	良 好	普 通	不 良
得点範囲	0～2	3～6	<u>7～9</u>

3-3 [略]

4. 単価表

(1) レーキドーザ抜根 1 ha 当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
レーキドーザ運転	<u>湿地〇〇t</u>	h	Th	表 3. 1、表 3. 2
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
レ ー キ ド ー ザ	[削る。]	機－1	

3-2 作業効率（E）
[略]

表 3. 2 作業効率

機 種 \ 現場条件	良 好	普 通	不 良
<u>21t レーキドーザ</u>	<u>0.65</u>	<u>0.85</u>	<u>1.05</u>
<u>15t レーキドーザ</u>	0.80	1.00	1.20
<u>11t レーキドーザ</u>	1.15	1.35	1.55

(注) 湿地用レーキドーザ使用の場合 16t、13t はそれぞれ本表の 15t、11t の欄を適用する。

表 3. 3 抜根作業の現場条件判定基準

項 目	区 分	得 点
勾 配	<u>0～3° 未満</u> <u>3～8° //</u> 8° ～	0 <u>1</u> <u>3</u>
立 木 率	0～10％ 11～50 51～100	0 1 2
稚 樹 等 密 度	0～1,000 本/ha 1,001～2,000 2,001～3,000 3,001～	0 1 2 3
<u>土 質 名</u>	<u>砂 質 土</u> <u>粘 性 土</u>	<u>0</u> <u>1</u>
そ の 他 作 業 条 件	普 通 や や 不 良 不 良	0 1 2

(注) 1・2. [略]

3. 湿地用レーキドーザ使用の場合、勾配及び土質の得点については1を0、3を2と読み替える。

表 3. 4 現場条件判定表

現場条件	良 好	普 通	不 良
得点範囲	0～2	3～6	<u>7～11</u>

3-3 [略]

4. 単価表

(1) レーキドーザ抜根 1 ha 当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
レーキドーザ運転	<u>普通〇〇t 又は</u> <u>湿地〇〇t</u>	h	Th	表 3. 1、表 3. 2
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
レ ー キ ド ー ザ	<u>普通 11t</u> <u>普通 15t</u>	機－1	

	湿地 13t 湿地 16t		

③ レーキドーザ排根

1. [略]

2. 機種の選定
[略]

表 2. 1 機種の選定

機 械 名	規 格
レーキドーザ	[削る。]
	[削る。]
	[削る。]
	湿地 13t
	湿地 16t

(注) [略]

3. 施工歩掛
[略]

3－1 [略]

3－2 作業効率（E）
[略]

表 3. 2 作業効率

機 種	現場条件		
	良 好	普 通	不 良
[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]
<u>16t 湿地レーキドーザ</u>	0. 70	1. 00	1. 30
<u>13t 湿地レーキドーザ</u>	1. 05	1. 35	1. 65

[削る。]

表 3. 3 排根作業の現場条件判定基準

項 目	区 分	得 点
勾 配	<u>0～8° 未満</u>	0
	[削る。] 8° ～	[削る。] <u>2</u>
稚 樹 等 密 度	0～1, 000 本/ha	0
	1, 001～2, 000	1
	2, 001～3, 000	2
	3, 001～	3
樹 量	25, 000 本cm/ha 未満	0
	25, 000～45, 000 "	1
	45, 000 以上	2
そ の 他 作 業 条 件	普 通	0
	や や 不 良	1
	不 良	2

	<u>普通 21t</u>		
	湿地 13t 湿地 16t		

③ レーキドーザ排根

1. [略]

2. 機種の選定
[略]

表 2. 1 機種の選定

機 械 名	規 格
レーキドーザ	<u>普通 11t</u>
	<u>普通 15t</u>
	<u>普通 21t</u>
	湿地 13t
	湿地 16t

(注) [略]

3. 施工歩掛
[略]

3－1 [略]

3－2 作業効率（E）
[略]

表 3. 2 作業効率

機 種	現場条件		
	良 好	普 通	不 良
<u>21t レーキドーザ</u>	<u>0. 55</u>	<u>0. 85</u>	<u>1. 15</u>
<u>15t レーキドーザ</u>	0. 70	1. 00	1. 30
<u>11t レーキドーザ</u>	1. 05	1. 35	1. 65

(注) 湿地用レーキドーザ使用の場合 16t、13t はそれぞれ本表の 15t、11t の欄を適用する。

表 3. 3 排根作業の現場条件判定基準

項 目	区 分	得 点
勾 配	<u>0～3° 未満</u>	0
	<u>3～8° "</u>	<u>1</u>
	8° ～	<u>3</u>
稚 樹 等 密 度	0～1, 000 本/ha	0
	1, 001～2, 000	1
	2, 001～3, 000	2
	3, 001～	3
樹 量	25, 000 本cm/ha 未満	0
	25, 000～45, 000 "	1
	45, 000 以上	2
そ の 他 作 業 条 件	普 通	0
	や や 不 良	1
	不 良	2

(注) 1.・2. [略]
[削る。]

3. 樹量（本cm／ha）＝樹木密度（本／ha）×平均樹径（cm）

表 3. 4 現場条件判定表

現場条件	良 好	普 通	不 良
得点範囲	0～2	3～5	6～9

3－3 [略]

4. 単価表

（1）レーキドーザ排根 1 ha 当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
レーキドーザ運 転	湿地○○t	h	Th	表 3. 1、表 3. 2
計				

（2）機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
レーキドーザ	[削る。]	機－1	
	湿地 13t 湿地 16t		

④ リップドーザ岩掘削

1. [略]

2. 機種及び爪数の選定

2－1 機種の選定
[略]

表 2. 1 機種の選定

機 種	規 格	適用区分
リップ装置付 ブルドーザ	排出ガス対策型(第 2 次基準値) 18t 級	掘削量が 5,000m³未満の場合
	排出ガス対策型(第 2 次基準値) 32t 級	掘削量が 5,000m³以上の場合

(注) [略]

2－2 [略]

3. 施工歩掛

[略]

3－1 リッピング断面積（q）

表 3. 1 リッピング断面積（m²）

規格	爪数	1 本	2 本	3 本
	排出ガス対策型(第 2 次基準値) 18t 級	0. 23	0. 28	0. 40
	排出ガス対策型(第 2 次基準値) 32t 級	0. 27	0. 35	0. 50

(注) 1.・2. [略]

3. 湿地用レーキドーザ使用の場合、勾配の得点については 1 を 0、3 を 2 と読み替える。

4. 樹量（本cm／ha）＝樹木密度（本／ha）×平均樹径（cm）

表 3. 4 現場条件判定表

現場条件	良 好	普 通	不 良
得点範囲	0～2	3～5	6～10

3－3 [略]

4. 単価表

（1）レーキドーザ排根 1 ha 当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
レーキドーザ運 転	普通○○t 又は 湿地○○t	h	Th	表 3. 1、表 3. 2
計				

（2）機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
レーキドーザ	普通 11t 普通 15t 普通 21t	機－1	
	湿地 13t 湿地 16t		

④ リップドーザ岩掘削

1. [略]

2. 機種及び爪数の選定

2－1 機種の選定
[略]

表 2. 1 機種の選定

機 種	規 格	適用区分
リップ装置付 ブルドーザ	排出ガス対策型(第 1 次基準値) 18t 級	掘削量が 5,000m³未満の場合
	排出ガス対策型(第 1 次基準値) 32t 級	掘削量が 5,000m³以上の場合

(注) [略]

2－2 [略]

3. 施工歩掛

[略]

3－1 リッピング断面積（q）

表 3. 1 リッピング断面積（m²）

規格	爪数	1 本	2 本	3 本
	排出ガス対策型(第 1 次基準値) 18t 級	0. 23	0. 28	0. 40
	排出ガス対策型(第 1 次基準値) 32t 級	0. 27	0. 35	0. 50

3-2 作業効率（E）

表 3. 2 作業効率

規 格		地山の弾性波速度 (km/sec)		標準値	範 囲
		A群の岩	B群の岩		
排出ガス対策型 (第2次基準値) 18t 級	3 ～ 1 本爪	—	—	0. 45	0. 55～0. 35
排出ガス対策型 (第2次基準値) 32t 級	3 本爪	0. 6 未満	0. 9 未満	0. 60	0. 70～0. 50
	3 ～ 1 本爪	0. 6 以上	0. 9 以上	0. 50	0. 60～0. 40

(注) [略]

表 3. 3 [略]

3-3 [略]

4. [略]

5. 単価表

(1) リップドーザ岩掘削（農用地造成工用） 1 m³ 当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
リ ッ パ ド ー ザ 運 転	排出ガス対策型(第2次基準値) 〇〇t 級、爪数〇本	h	1／Q	表 3. 1～表 3. 3
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
リ ッ パ ド ー ザ (リッパ 装置付ブルドーザ)	排出ガス対策型(第2次基準値) 18t 級、爪数 3	機－1	
	排出ガス対策型(第2次基準値) 18t 級、爪数 2		
	排出ガス対策型(第2次基準値) 18t 級、爪数 1		
	排出ガス対策型(第2次基準値) 32t 級、爪数 3		
	排出ガス対策型(第2次基準値) 32t 級、爪数 2		
	排出ガス対策型(第2次基準値) 32t 級、爪数 1		

⑤ リップドーザ（耕起・深耕）

1.・2. [略]

3. 機種の選定

[略]

表 3. 1 機種の選定

機 種	規 格
リ ッ パ 装 置 付 ブ ル ド ー ザ	排出ガス対策型(第2次基準値) 18t 級、爪数 3

4. [略]

3-2 作業効率（E）

表 3. 2 作業効率

規 格		地山の弾性波速度 (km/sec)		標準値	範 囲
		A群の岩	B群の岩		
排出ガス対策型 (第1次基準値) 18t 級	3 ～ 1 本爪	—	—	0. 45	0. 55～0. 35
排出ガス対策型 (第1次基準値) 32t 級	3 本爪	0. 6 未満	0. 9 未満	0. 60	0. 70～0. 50
	3 ～ 1 本爪	0. 6 以上	0. 9 以上	0. 50	0. 60～0. 40

(注) [略]

表 3. 3 [略]

3-3 [略]

4. [略]

5. 単価表

(1) リップドーザ岩掘削（農用地造成工用） 1 m³ 当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
リ ッ パ ド ー ザ 運 転	排出ガス対策型(第1次基準値) 〇〇t 級、爪数〇本	h	1／Q	表 3. 1～表 3. 3
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
リ ッ パ ド ー ザ (リッパ 装置付ブルドーザ)	排出ガス対策型(第1次基準値) 18t 級、爪数 3	機－1	
	排出ガス対策型(第1次基準値) 18t 級、爪数 2		
	排出ガス対策型(第1次基準値) 18t 級、爪数 1		
	排出ガス対策型(第1次基準値) 32t 級、爪数 3		
	排出ガス対策型(第1次基準値) 32t 級、爪数 2		
	排出ガス対策型(第1次基準値) 32t 級、爪数 1		

⑤ リップドーザ（耕起・深耕）

1.・2. [略]

3. 機種の選定

[略]

表 3. 1 機種の選定

機 種	規 格
リ ッ パ 装 置 付 ブ ル ド ー ザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 18t 級、爪数 3

4. [略]

5. 単価表

(1) リップドーザ（耕起・深耕）1ha 当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
リップドーザ運転	排出ガス対策型(第2次基準値) 18t 級、爪数 3	日	1／QD	表 4. 1～表 4. 3
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
リップドーザ	排出ガス対策型(第2次基準値) 18t 級、爪数 3	機－1 8	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→127 機械損料数量→1.69

⑥～⑪ [略]

1 2. 地すべり防止工

①～④ [略]

[削る。]

5. 単価表

(1) リップドーザ（耕起・深耕）1ha 当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
リップドーザ運転	排出ガス対策型(第1次基準値) 18t 級、爪数 3	日	1／QD	表 4. 1～表 4. 3
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
リップドーザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 18t 級、爪数 3	機－1 8	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→127 機械損料数量→1.69

⑥～⑪ [略]

1 2. 地すべり防止工

①～④ [略]

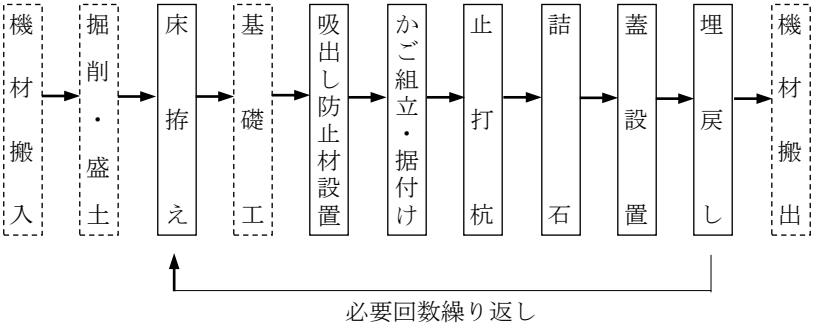
⑤ 地すべり防止工（じゃかご）

1. 適用範囲

本歩掛は、地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設における、じゃかご（径 45～60 cm）の施工に適用する。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

3. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定				
機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型)	標準型・排出ガス対策型(第1次基準値) 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)	台	1	
不整地運搬車	クローラ型・ダンプ式 2 t 積	台	1	必要に応じて計上

4. 施工歩掛

じゃこ施工歩掛は、次表を標準とする。

表 4. 1 じゃこ施工歩掛 (10m当り)					
名 称	規 格	単位	径 (cm)		摘 要
			45	60	
詰 石		m ³	1.5	2.7	
世 話 役		人	0.2	0.3	
特 殊 作 業 員		人	0.7	1.3	
普 通 作 業 員		人	0.7	1.2	
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) 運 転	標準型・排出ガス対策型(第1次基準値) 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)	h	0.2	0.4	
不整地運搬車運転	クローラ型・ダンプ式 2 t 積	日	0.06	0.10	必要に応じて 計上 (注) 1

- (注) 1. 本歩掛は、床捨て、かご組立・据付け、止打杭、詰石、埋戻し及び平均運搬距離 30m までの現場内小運搬を含む。ただし、平均運搬距離が 30m を超え 200m 以下の場合は、不整地運搬車を計上する。
2. 詰石量は、材料ロスを含む。(表 5. 1)
3. 運搬機械が上表により難しい場合は、別途考慮する。
4. 止杭を必要とする場合は、打込みに止杭 1 本当り普通作業員 0.06 人を別途計上する。
なお、止杭は松丸太末口 9 cm、長さ 1.5m を標準とする。
5. 吸出し防止材が必要な場合は、別途計上する。なお、本歩掛に吸出し防止材の設置手間は含まれていない。
6. 不整地運搬車は、賃料とする。
7. じゃこの撤去歩掛は、上表の 50% とする。

5. 材料使用数量

詰石材の使用数量は、次式による。

詰石材の使用数量 (m³) = かご容積 (m³) × (1 + K) …式 5. 1

K : ロス率

表 5. 1 ロス率 (K)	
名 称	ロス率
詰石材	－0.05

6. 単価表

(1) じゃこ 10m 当り単価表

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
世 話 役		人		表 4. 1
特 殊 作 業 員		人		人
普 通 作 業 員		人		人
じ ゃ こ		m	10	
詰 石		m ³		表 4. 1、表 5. 1、 式 5. 1
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) 運 転	標準型・排出ガス対策型(第1次基準値) 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)	h		表 4. 1 機械損料
不 整 地 運 搬 車 運 転	クローラ型・ダンプ式 2 t 積	日		表 4. 1 必要に応じて計上 機械賃料

⑤ [略]

15. 仮設工

① [略]

② 大型土のう工

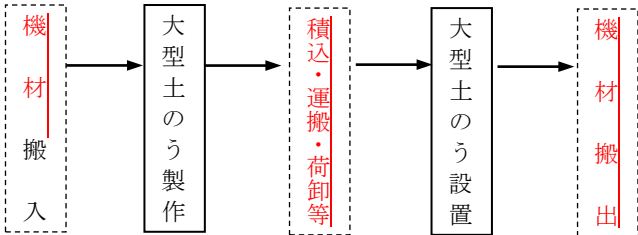
1. 適用範囲

本歩掛は、大型土のうの製作・設置、撤去、移設に適用する。なお、大型土のうの袋材は容量1 m³を標準とし、水中部に設置する場合は水深2.5m以内を適用範囲とする。
なお、砂防工での仮締切工の施工に伴う大型土のうの製作・設置・撤去には適用できない。

2. 施工概要

[略]

①製作・設置



計				
---	--	--	--	--

(2) 止杭 10 本当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普 通 作 業 員		人	0.6	
止 杭	松丸太 長 1.5m 末口 9 cm	本	10	
計				

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
パ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型)	標準型・排出ガス対策型(第1次基準値) 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)	機－1	
不 整 地 運 搬 車	クローラ型・ダンプ式 2t 積	機－2 8	運転労務数量→1.00 燃料消費量→5.9 機械賃料数量→1.71

⑥ [略]

15. 仮設工

① [略]

② 大型土のう工

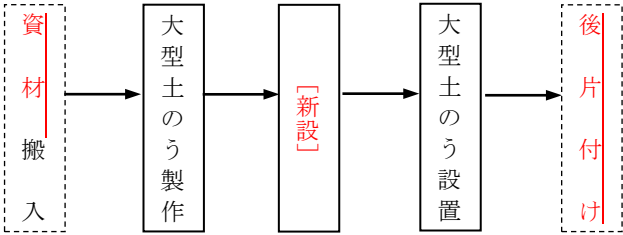
1. 適用範囲

本歩掛は、大型土のうの製作・設置、撤去に適用する。なお、大型土のうの袋材は容量1 m³を標準とする。
なお、砂防工での仮締切工の施工に伴う大型土のうの製作・設置・撤去には適用できない。

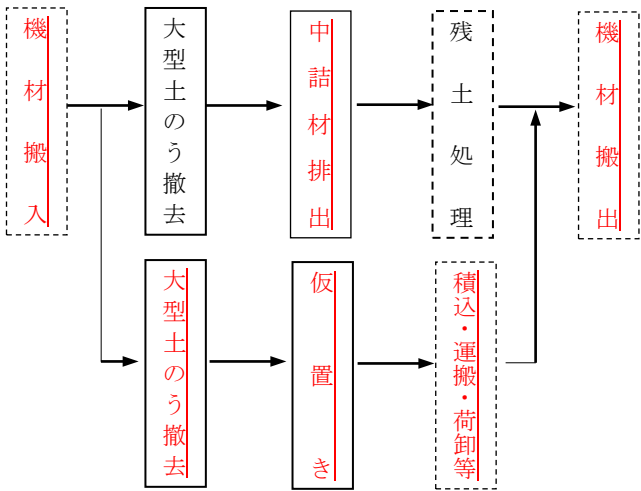
2. 施工概要

[略]

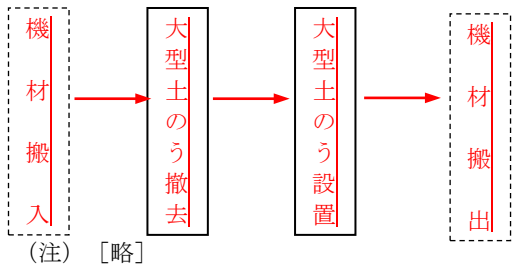
①製作・設置



②撤去



③移設



なお、各作業内容については、下記による。

(1) 製作・設置

バックホウで大型土のうを製作し、バックホウ又はラフテレーンクレーンで設置するまでの作業をいう。
バックホウによる横取り作業（10mまで：製作現場～仮置場）を含む。
製作現場と設置現場が異なる場合は、積込、荷卸、運搬などの必要な費用を別途計上する。

(2) 製作

バックホウによる横取り作業（10mまで：製作現場～仮置場）を含む。
製作現場と設置現場が異なる場合は、積込、荷卸、運搬などの必要な費用を別途計上する。

(3) 設置（再設置含む）

大型土のうを使用機械の作業半径内に設置する作業をいう。なお、撤去した既設大型土のうを再設置する作業を含む。
製作現場と設置現場が異なる場合、撤去現場と再設置現場が異なる場合は、積込、荷卸、運搬などの必要な費用を別途計上する。

(4) 撤去

撤去後の中詰材排出を含む。なお、排出した中詰材の積込・運搬が必要な場合は「施工パッケージ型積算基準 1. 土工 ②土工」により別途計上する。
中詰材排出後の袋材の運搬及び処分費が必要な場合は、別途計上する。
袋材破断等により吊り上げ不能なものは対象外とする。

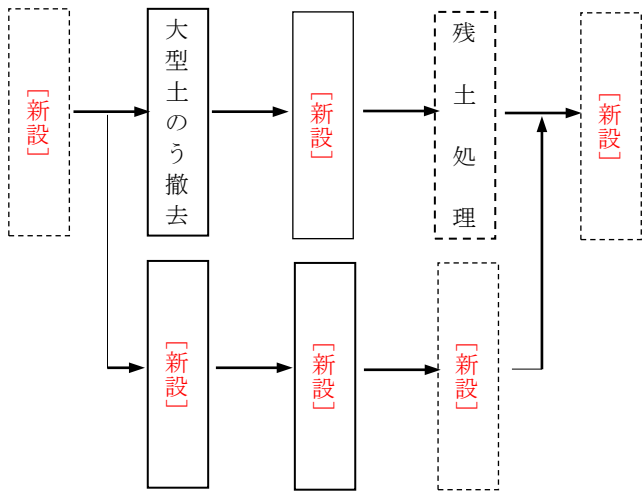
(5) 撤去（再利用）

既設大型土のうを再利用することを目的とした、撤去、仮置き作業をいう。
撤去、仮置き作業後、大型土のうの設置を行う場合は、別途「設置（再設置含む）」を計上する。
撤去現場と再設置現場が異なる場合は、積込、荷卸、運搬などの必要な費用を別途計上する。
袋材破断等により吊り上げ不能なものは対象外とする。

(6) 移設（撤去・再設置）

既設大型土のうを撤去し、仮置きせずに再設置を行う作業をいう。

②撤去



[新設]

(注) [略]

[新設]

撤去現場と再設置現場が異なる場合は、適用しない。
袋材破断等により吊り上げ不能なものは対象外とする。

3. 機種の選定
[略]

表 3. 1 機種の選定			
作業種別	[削る。]	機械名	規格
製作・設置	[削る。]	バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(2014 年規制)山積 0.45m3(平積 0.35m3)吊能力 2.9t
		ラフテレーン クレーン	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型(第 3 次基準値)25t 吊
製作	[削る。]	バックホウ (クレーン機能付)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型 (2014 年規制) クローラ型 2.9t 吊 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)
設置(再設置含む) 撤 去 撤去(再利用) 移設(撤去・再設置)	[削る。]	バックホウ (クレーン機能付)	超低騒音型 排出ガス対策型 (2014 年規制) クローラ型 2.9t 吊 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)
	[削る。]	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (第 3 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊

- (注) 1. [略]
2. 製作・設置における設置に使用する機械は、図 3-1 によりバックホウ又はラフテレーンクレーンのどちらかを選定する。
3. 設置(再設置含む)、撤去、撤去(再利用)、移設(撤去・再設置)の機械は、図 3-2 によりバックホウ又はラフテレーンクレーンのどちらかを選定する。

図 3－1 機種の選定 製作・設置

設置面高さ (m)	2m超	ラフテレーンクレーン 25t 吊			適用範囲外	
	2m以下					
	0m	5m以下	5m超	20m以下	20m超	作業半径 (m)
		バックホウ (クレーン機能付き) 山積 0.45m3 吊能力 2.9t			適用範囲外	
-3m以上 -3m未満						

- (注) 1. 設置作業半径は、機械の旋回中心から吊りフックまでの水平距離とする。
2. 設置面高さは、バックホウ又はラフテレーンクレーンの設置面をゼロとしたときの大型土のうの設置面の高さとする。
3. 機械を水平で安定した地盤に設置した場合の適用範囲を示す。
4. 現場条件等により、上図により難しい場合は別途考慮する。

図 3－2 機種の選定 設置(再設置含む)、撤去、撤去(再利用)、移設(撤去・再設置)

設置・撤去高さ (m)	2m超	ラフテレーンクレーン 25t 吊			適用範囲外	
	2m以下					
	0m	6m以下	6m超	20m以下	20m超	作業半径 (m)
	-3m以上 -3m未満	バックホウ (クレーン機能付き) 山積 0.8m3 吊能力 2.9t			適用範囲外	

3. 機種の選定
[略]

表 3. 1 機種の選定			
作業種別	作業半径	機械名	規格
[新設]		[新設]	[新設]
		[新設]	[新設]
製作	二	バックホウ (クレーン機能付)	超低騒音型 排出ガス対策型 (第 3 次基準値) クローラ型 2.9t 吊 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)
設置 撤去	6m 以下	バックホウ (クレーン機能付)	超低騒音型 排出ガス対策型 (第 3 次基準値) クローラ型 2.9t 吊 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)
	6m を超え 20m 以下	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (第 3 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊

- (注) 1. [略]
2. 現場条件により、上記により難しい場合は、別途考慮する。

[新設]

[新設]

[新設]

- (注) 1. 作業半径は、機械の旋回中心から吊りフックまでの水平距離とする。
2. 設置、撤去高さは、バックホウ又はラフテレーンクレーンの設置面をゼロとしたときの大型土のうの設置面の高さとする。
3. 機械を水平で安定した地盤に設置した場合の適用範囲を示す。
4. 現場条件等により、上図により難い場合は別途考慮する。

[削る。]

4. 施工歩掛

4-1 編成人員

歩掛は次表を標準とする。

表 4. 1 編成人員 (日当り)

名 称	単位	製作・設置	製作	設置 (再設置含む)	撤去	撤去 (再利用)	移設 (撤去・再設置)
世 話 役	人	1	1	1	1	1	1
特殊作業員	〃	1	1	1	1	1	1
普通作業員	〃	1	1	1	—	二	1

- (注) 1. ・ 2. [略]
3. ～ 5. [削る。]

4-2 日当り施工量

[略]

4. 製作・設置歩掛

4-1 編成人員

製作から設置までの一連の歩掛は次表を標準とする。

表 4. 1 編成人員 (日当り)

名 称	単位	製作・設置
世 話 役	人	1
特 殊 作 業 員	〃	1
普 通 作 業 員	〃	1

4-2 日当り施工量

日当り施工量は、次表を標準とする。

表 4. 2 日当り施工量

工 種	単位	施 工 量
製作・設置	袋	36 (52)

- (注) ラフテレーンクレーンを使用する場合は、 () 書きを使用する。

4-3 諸雑費

諸雑費は、製作枠等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 4. 3 諸雑費率 (%)

諸雑費率	4 (6)
------	-------

- (注) ラフテレーンクレーンを使用する場合は、 () 書きを使用する。

5. 施工歩掛

5-1 編成人員

製作、設置、撤去作業を単独で行う場合の歩掛は次表を標準とする。

表 5. 1 編成人員 (日当り)

名 称	単位	[新設]	製作	設置	撤去	[新設]	[新設]
世 話 役	人	[新設]	1	1	1	[新設]	[新設]
特殊作業員	〃	[新設]	1	1	1	[新設]	[新設]
普通作業員	〃	[新設]	1	1	—	[新設]	[新設]

- (注) 1. ・ 2. [略]

3. 製作には、横取り作業 (12m まで：製作現場～仮置場) を含む。

4. 製作現場と設置現場が異なる場合は、積込・荷卸し・運搬等必要な費用を別途計上する。

5. 撤去には、中詰材排出を含む。

5-2 日当り施工量

[略]

表 4. 2 日当り施工量

工 種	単位	施 工 量
製作・設置	袋	34 (49)
製 作	〃	69
設置 (再設置含む)	〃	77 (66)
撤 去	〃	115 (106)
撤去 (再利用)	〃	147 (136)
移設 (撤去・再設置)	〃	69 (62)

(注) ラフテレーンクレーンを使用する場合は、() 書きを使用する。
[削る。]

4－3 諸雑費

諸雑費は、製作・設置、製作の作業に必要な製作枠の損料、スコップ、ワイヤーロープ等の費用、設置 (再設置含む)、撤去、撤去 (再利用)、移設 (撤去・再設置) の作業に必要なワイヤーロープ等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 4. 3 諸雑费率 (%)

工 種	諸雑费率
製作・設置	1 (2)
製 作	2
設置 (再設置含む)	0.2 (0.2)
撤 去	0.4 (0.4)
撤去 (再利用)	0.5 (0.5)
移設 (撤去・再設置)	0.2 (0.2)

(注) ラフテレーンクレーンを使用する場合は、() 内を使用する。

5. 単価表

(1) 大型土のう製作・設置 10 袋当り単価表 (バックホウ設置)

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×10／D	表 4. 1、4. 2
特 殊 作 業 員		〃	1×10／D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×10／D	〃
大 型 土 の う	容量 1 m ³	袋	10	
土 砂		m ³	10	ほぐした土量
バ ッ ク ホ ウ (クレーン機能付) 運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型 (2014 年規制) クローラ型 2.9t 吊 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	日	10／D	表 4. 2
諸 雑 費		式	1	表 4. 3
計				

(注) [略]

(2) 大型土のう製作・設置 10 袋当り単価表 (ラフテレーンクレーン設置)

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×10／D	表 4. 1、4. 2
特 殊 作 業 員		〃	1×10／D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×10／D	〃
大 型 土 の う	容量 1 m ³	袋	10	

表 5. 2 日当り施工量

工 種	単位	施 工 量
[新設]	[新設]	[新設]
製 作	袋	62
設 置	〃	86 (80)
撤 去	〃	144 (134)
[新設]	[新設]	[新設]
[新設]	[新設]	[新設]

(注) 1. ラフテレーンクレーンを使用する場合は、() 書きを使用する。
2. 袋材の処分費及び残土処分費が必要な場合は別途計上する。

5－3 諸雑費

諸雑費は、製作枠等の費用であり、製作の労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 3 諸雑费率 (%)

諸雑费率 (製作)	7
[新設]	[新設]
[新設]	[新設]
[新設]	[新設]
[新設]	[新設]
[新設]	[新設]
[新設]	[新設]
[新設]	[新設]

[新設]

6. 単価表

(1) 大型土のう製作・設置 10 袋当り単価表 (バックホウ設置)

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×10／D	表 4. 1、4. 2
特 殊 作 業 員		〃	1×10／D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×10／D	〃
大 型 土 の う	容量 1 m ³	袋	10	
土 砂		m ³	10	ほぐした土量
バ ッ ク ホ ウ (クレーン機能付) 運転	超低騒音型 排出ガス対策型 (第 3 次基準値) クローラ型 2.9t 吊 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	日	10／D	表 4. 2
諸 雑 費		式	1	表 4. 3
計				

(注) [略]

(2) 大型土のう製作・設置 10 袋当り単価表 (ラフテレーンクレーン設置)

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×10／D	表 4. 1、4. 2
特 殊 作 業 員		〃	1×10／D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×10／D	〃
大 型 土 の う	容量 1 m ³	袋	10	

土	砂		m ³	10	ほぐした土量
バックホウ (クレーン機能付) 運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型 (2014 年規制) クローラ型 2.9t 吊 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	日		10／D	表 4. 2
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第 3 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	〃		10／D	〃
諸 雑 費		式		1	表 4. 3
計					

(注) 〔略〕

(3) 大型土のう製作 10 袋当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×10／ D	表 4. 1、4. 2
特 殊 作 業 員		〃	1×10／ D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×10／ D	〃
大 型 土 の う	容量 1 m ³	袋	10	
土	砂	m ³	10	ほぐした土量
バックホウ (クレーン機能付) 運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型 (2014 年規制) クローラ型 2.9t 吊 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	日		10／D 表 4. 2
諸 雑 費		式		1 表 4. 3
計				

(注) 〔略〕

(4) 大型土のう設置 (再設置含む) 10 袋当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×10／ D	表 4. 1、4. 2
特 殊 作 業 員		〃	1×10／ D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×10／ D	〃
バックホウ (クレーン機能付) 運 転	超低騒音型 排出ガス対策型 (2014 年規制) クローラ型 2.9t 吊 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	日		10／D 表 4. 2 (注) 2
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第 3 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	〃		10／D 〃
諸 雑 費		式		1 表 4. 3
計				

(注) 1. 〔略〕

2. 大型土のうを設置する機械は、図 3-2 によりバックホウ又はラフテレーンクレーンのどちらかを選定する。

(5) 大型土のう撤去 10 袋当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×10／	表 4. 1、4. 2

土	砂		m ³	10	ほぐした土量
バックホウ (クレーン機能付) 運転	超低騒音型 排出ガス対策型 (第 3 次基準値) クローラ型 2.9t 吊 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	日		10／D	表 4. 2
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第 3 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	〃		10／D	〃
諸 雑 費		式		1	表 4. 3
計					

(注) 〔略〕

(3) 大型土のう製作 10 袋当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×10／ D	表 5. 1、5. 2
特 殊 作 業 員		〃	1×10／ D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×10／ D	〃
大 型 土 の う	容量 1 m ³	袋	10	
土	砂	m ³	10	ほぐした土量
バックホウ (クレーン機能付) 運転	超低騒音型 排出ガス対策型 (第 3 次基準値) クローラ型 2.9t 吊 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	日		10／D 表 5. 2
諸 雑 費		式		1 表 5. 3
計				

(注) 〔略〕

(4) 大型土のう設置 10 袋当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×10／ D	表 5. 1、5. 2
特 殊 作 業 員		〃	1×10／ D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×10／ D	〃
バックホウ (クレーン機能付) 運 転	超低騒音型 排出ガス対策型 (第 3 次基準値) クローラ型 2.9t 吊 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	日		10／D 表 5. 2 作業半径 6 m 以下の場合
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第 3 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	〃		10／D 表 5. 2 作業半径 6 m を超え 20m 以下の場合
〔新設〕	〔新設〕	〔新設〕	〔新設〕	〔新設〕
計				

(注) 〔略〕

〔新設〕

(5) 大型土のう撤去 10 袋当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×10／	表 5. 1、5. 2

			D	
特 殊 作 業 員		〃	1×10／ D	〃
バ ッ ク ホ ウ （クレーン機能付）運 転	超低騒音型 排出ガス対策型（2014 年規制） クローラ型 2.9t 吊 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）	日	10／D	表 4. 2 <u>（注）2</u>
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型（第 3 次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	〃	10／D	<u>〃</u>
諸 雑 費		式	1	表 4. 3
計				

（注）1. 〔略〕
2. 大型土のうを設置する機械は、図 3-2 によりバックホウ又はラフテレーンクレーンのどちらかを選定する。

（6）大型土のう撤去（再利用）10 袋当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×10／ D	表 4. 1、4. 2
特 殊 作 業 員		〃	1×10／ D	〃
バ ッ ク ホ ウ （クレーン機能付）運 転	超低騒音型 排出ガス対策型（2014 年規制） クローラ型 2.9t 吊 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）	且	10／D	表 4. 2 <u>（注）2</u>
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型（第 3 次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	〃	10／D	<u>〃</u>
諸 雑 費		式	1	表 4. 3
計				

（注）1. D：日当り施工量
2. 大型土のうを設置する機械は、図 3-2 によりバックホウ又はラフテレーンクレーンのどちらかを選定する。

（7）大型土のう移設（撤去・再設置）10 袋当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×10／ D	表 4. 1、4. 2
特 殊 作 業 員		〃	1×10／ D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×10／ D	〃
バ ッ ク ホ ウ （クレーン機能付）運 転	超低騒音型 排出ガス対策型（2014 年規制） クローラ型 2.9t 吊 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）	且	10／D	表 4. 2 <u>（注）2</u>
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型（第 3 次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	〃	10／D	<u>〃</u>
諸 雑 費		式	1	表 4. 3
計				

（注）1. D：日当り施工量
2. 大型土のうを設置する機械は、図 3-2 によりバックホウ又はラフテレーンクレーンのどちらかを選定する。

（8）機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
-------	-----	-------	---------

			D	
特 殊 作 業 員		〃	1×10／ D	〃
バ ッ ク ホ ウ （クレーン機能付）運 転	超低騒音型 排出ガス対策型（ <u>第 3 次基準値</u> ） クローラ型 2.9t 吊 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）	日	10／D	表 5. 2 <u>作業半径 6 m</u> <u>以下の場合</u>
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型（第 3 次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	〃	10／D	表 5. 2 <u>作業半径 6 m</u> <u>を超え 20m</u> <u>以下の場合</u>
<u>〔新設〕</u>	<u>〔新設〕</u>	<u>〔新設〕</u>	<u>〔新設〕</u>	<u>〔新設〕</u>
計				

（注）〔略〕
〔新設〕

〔新設〕

〔新設〕

（6）機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
-------	-----	-------	---------

バ ッ ク ホ ウ (クレーン機能付)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型 (2014 年規制) クローラ型 2.9t 吊 山積 0.45m³ (平積 0.35m³)	機－2 8	【製作・設置】 (バックホウによる設置) 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→63 機械賃料数量→1.28 【製作・設置】 (ラフテレーンクレーンによる設置) 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→65 機械賃料数量→1.36 【製作】 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→65 機械賃料数量→1.36
	超低騒音型 排出ガス対策型 (2014 年規制) クローラ型 2.9t 吊 山積 0.8m³ (平積 0.6m³)	機－2 8	【設置 (再設置含む)】 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→99 機械賃料数量→1.23 【撤去】 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→101 機械賃料数量→1.21 【撤去 (再利用)】 運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→ 110 機械賃料数量→ 1.38 【移設 (撤去・再設置)】 運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→ 110 機械賃料数量→ 1.52

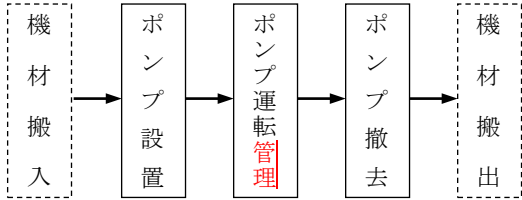
③ 水替工（小口径）

1. [略]

2. 施工概要

2－1 施工フロー

施工フローは、次図を標準とする。



(注) [略]

バ ッ ク ホ ウ (クレーン機能付)	[新設]	[新設]	【製作・設置】 (バックホウによる設置) 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→104 機械賃料数量→1.39 【製作・設置】 (ラフテレーンクレーンによる設置) 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→119 機械賃料数量→1.44 【製作】 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→119 機械賃料数量→1.44
	超低騒音型 排出ガス対策型 (第3次基準値) クローラ型 2.9t 吊 山積 0.8m³ (平積 0.6m³)	機－2 8	【設置】 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→94 機械賃料数量→1.36 【撤去】 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→78 機械賃料数量→1.26 [新設] [新設]

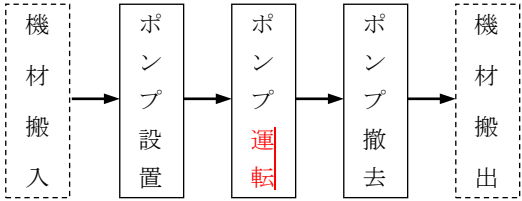
③ 水替工（小口径）

1. [略]

2. 施工概要

2－1 施工フロー

施工フローは、次図を標準とする。



(注) [略]

2-2 [略]

3. 施工歩掛

3-1 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定（ポンプ運転）

機 械 名	規 格	単位	数量		摘 要
			排水量（m ³ ／h）		
			0 以上 <u>7</u> 未満	<u>7</u> 以上 30 未満	
工 事 用 水 中 モ ー タ ポ ン プ	普通型（潜水ポンプ） 口径 50mm、全揚程 10m以下	台	1	－	
	普通型（潜水ポンプ） 口径 100mm、全揚程 10m以下	〃	－	1	
発 動 発 電 機	ガソリンエンジン駆動 定格容量 2 kVA	〃	1	－	[削る。]
	ディーゼルエンジン駆動 定格容量 <u>15</u> kVA	〃	－	1	[削る。]

(注) 1. ～3. [略]
4. 現場の条件により、工事用水中モータポンプの動力源が商用電源の場合は、別途考慮する。
5. [略]

3-2 運転工歩掛

3-2-1 [略]

3-2-2 労務歩掛

ポンプの排水現場 1 箇所当りの日当り運転管理歩掛は、次表とする。

表 3. 2 ポンプ運転歩掛 (人/1 箇所・日)

名 称 動力源	作 業 時 排 水		常 時 排 水	
	[削る。]	発動発電機	[削る。]	発動発電機
[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]
<u>世 話 役</u>		<u>0.04</u>		<u>0.04</u>
<u>普 通 作 業 員</u>		<u>0.05</u>		<u>0.05</u>

(注) 1. ～4. [略]

3-2-3 諸雑費

[略]

表 3. 3 諸雑費率 (%)

動力源	排水方法	
	作業時排水	常時排水
[削る。]	[削る。]	[削る。]
発 動 発 電 機	<u>8</u>	<u>5</u>

3-3 設置・撤去歩掛

ポンプの設置・撤去に要する 1 箇所当りの歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 4 設置・撤去歩掛（口径 50mm） (1 箇所当り)

名 称	規 格	単位	数 量
世 話 役	－	人	<u>0.23</u>

2-2 [略]

3. 施工歩掛

3-1 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定（ポンプ運転）

機 械 名	規 格	単位	数量		摘 要
			排水量（m ³ ／h）		
			0 以上 <u>6</u> 未満	<u>6</u> 以上 30 未満	
工 事 用 水 中 モ ー タ ポ ン プ	普通型（潜水ポンプ） 口径 50mm、全揚程 10m以下	台	1	－	
	普通型（潜水ポンプ） 口径 100mm、全揚程 10m以下	〃	－	1	
発 動 発 電 機	ガソリンエンジン駆動 定格容量 2 kVA	〃	1	－	<u>発動発電機を使用する場合</u>
	ディーゼルエンジン駆動 定格容量 <u>5</u> kVA	〃	－	1	<u>〃</u>

(注) 1. ～3. [略]
4. 動力源を商用電源、発動発電機のいずれとするかは、設置期間の長短、受配電設備の要否等、設置予定個所の現場条件を総合的に勘案して定める。
5. [略]

3-2 運転工歩掛

3-2-1 [略]

3-2-2 労務歩掛

ポンプの排水現場 1 箇所当りの日当り運転歩掛は、次表とする。

表 3. 2 ポンプ運転歩掛 (人/1 箇所・日)

名 称 動力源	作 業 時 排 水		常 時 排 水	
	<u>商用電源</u>	発動発電機	<u>商用電源</u>	発動発電機
<u>特 殊 作 業 員</u>	<u>0.10</u>	<u>0.14</u>	<u>0.13</u>	<u>0.17</u>
[新設]		[新設]		[新設]
[新設]		[新設]		[新設]

(注) 1. ～4. [略]

3-2-3 諸雑費

[略]

表 3. 3 諸雑費率 (%)

動力源	排水方法	
	作業時排水	常時排水
<u>商用電源</u>	<u>23</u>	<u>17</u>
発 動 発 電 機	<u>10</u>	<u>8</u>

3-3 設置・撤去歩掛

ポンプの設置・撤去に要する 1 箇所当りの歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 4 設置・撤去歩掛（口径 50mm） (1 箇所当り)

名 称	規 格	単位	数 量
-----	-----	----	-----

普 通 作 業 員	—	〃	<u>0.43</u>
-----------	---	---	-------------

表 3. 5 設置・撤去歩掛（口径 100mm）（1 箇所当り）

名 称	規 格	単位	数 量
世 話 役	—	人	<u>0.32</u>
普 通 作 業 員	—	〃	<u>1.04</u>
バ ッ ク ホ ウ （ ク ロ ー ラ 型 ） 運 転	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型（第 <u>2</u> 次基準値） 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）吊能力 2.9 t	日	<u>0.24</u>

（注）1．～5．[略]

4. 単価表

（1）[略]

（2）ポンプ運転 1 日当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
[削る。]		[削る。]		[削る。]
<u>世 話 役</u>		人		<u>表 3. 2</u>
<u>普 通 作 業 員</u>		人		<u>〃</u>
[削る。]		[削る。]	[削る。]	[削る。]
発 動 発 電 機 運 転		日	1	表 3. 1 [削る。]
諸 雑 費		式	1	<u>表 3. 3</u>
計				

（3）ポンプ設置・撤去 1 箇所当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人		<u>表 3. 4 又は表 3. 5</u>
普 通 作 業 員		〃		〃
バ ッ ク ホ ウ （ ク ロ ー ラ 型 ） 運 転	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型（第 <u>2</u> 次基準値） 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）吊能力 2.9 t	日		<u>表 3. 5</u>
計				

（4）機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
-------	-----	-------	---------

世 話 役	—	人	<u>0.3</u>
普 通 作 業 員	—	〃	<u>0.5</u>

表 3. 5 設置・撤去歩掛（口径 100mm）（1 箇所当り）

名 称	規 格	単位	数 量
世 話 役	—	人	<u>0.5</u>
普 通 作 業 員	—	〃	<u>1.0</u>
バ ッ ク ホ ウ （ ク ロ ー ラ 型 ） 運 転	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型（第 <u>1</u> 次基準値） 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）吊能力 2.9 t	日	<u>0.5</u>

（注）1．～5．[略]

4. 単価表

（1）[略]

（2）ポンプ運転 1 日当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
<u>特 殊 作 業 員</u>		<u>人</u>		<u>表 4. 1</u>
[新設]		[新設]		[新設]
[新設]		[新設]		[新設]
<u>工事中水中モータポンプ運 転</u>		<u>日</u>	<u>1</u>	<u>表 3. 1</u> <u>（発動発電機を使用する場合は計上しない）</u>
発 動 発 電 機 運 転		日	1	表 3. 1 <u>（商用電源を使用する場合は計上しない）</u>
諸 雑 費		式	1	<u>表 4. 2</u>
計				

（3）ポンプ設置・撤去 1 箇所当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人		<u>表 4. 3 又は表 4. 4</u>
普 通 作 業 員		〃		〃
バ ッ ク ホ ウ （ ク ロ ー ラ 型 ） 運 転	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型（第 <u>1</u> 次基準値） 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）吊能力 2.9 t	日		<u>表 4. 4</u>
計				

（4）機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
-------	-----	-------	---------

[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]
発 動 発 電 機	ガソリンエンジン駆動 定格容量 2kVA ディーゼルエンジン駆動 定格容量 15kVA <u>排出ガス対策型（第3次基準値）</u>	機－1 6	（常時排水） 燃 料 消 費 量→2kVA→ <u>27.9</u> 15kVA→ <u>41.3</u> 機械賃料数量→ <u>1.08</u> （作業時排水） 燃 料 消 費 量→2kVA→ <u>9.3</u> 15kVA→ <u>13.8</u> 機械賃料数量→ <u>1.55</u>
バ ッ ク ホ ウ （ ク ロ ー ラ 型 ）	標準型・クレーン機能付・排出 ガス対策型（第2次基準値） 山積 0.8m³（平積 0.6m³）吊能力 2.9 t	機－2 8	運転労務数量→ <u>1.00</u> 燃 料 消 費 量→ <u>121</u> 機械賃料数量→ <u>1.09</u>

④ 締切排水工

1. [略]

2. 施工概要

2－1 [略]

2－2 排水方法の選定
[略]

2－2－1 作業時排水とは、作業前から排水し始めて作業終了後には排水を中止する方法をいう。なお、作業時排水には、コンクリート打設前後の型枠組立・養生などのための一時的に昼夜排水するものも含む。ポンプの稼働時間は8時間を標準とする。

2－2－2 常時排水とは、昼夜連続的に排水する方法をいう。ポンプの稼働時間は24時間を標準とする。

3. 施工歩掛

3－1 機種を選定
[略]

表 3. 1 機種を選定（ポンプ運転）

機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
			排水量（m³／h）	

<u>工事中水中モータポンプ</u>	<u>普通型（潜水ポンプ）</u> 口径 50mm、全揚程 10m以下 <u>口径 100mm、全揚程 10m以下</u>	<u>機－3 2</u>	<u>（常時排水）</u> <u>電力消費量→</u> <u>口径×台数</u> <u>50×1→11</u> <u>100×1→53</u> <u>機械賃料数量→－</u> <u>（機械賃料は諸雑費に含む）</u> <u>（作業時排水）</u> <u>電力消費量→</u> <u>口径×台数</u> <u>50×1→3.8</u> <u>100×1→18</u> <u>機械賃料数量→－</u> <u>（機械賃料は諸雑費に含む）</u>
発 動 発 電 機	ガソリンエンジン駆動 定格容量 2kVA ディーゼルエンジン駆動 定格容量 5kVA	機－1 6	（常時排水） 燃 料 消 費 量→2kVA→ <u>29</u> 5kVA→ <u>17</u> 機械賃料数量→ <u>1.1</u> （作業時排水） 燃 料 消 費 量→2kVA→ <u>9.6</u> 5kVA→ <u>5.6</u> 機械賃料数量→ <u>1.1</u>
バ ッ ク ホ ウ （ ク ロ ー ラ 型 ）	標準型・クレーン機能付・排出ガ ス対策型（第1次基準値） 山積 0.8m³（平積 0.6m³）吊能力 2.9 t	機－2 8	運転労務数量→ <u>0.68</u> 燃 料 消 費 量→ <u>41</u> 機械賃料数量→ <u>1.00</u>

④ 締切排水工

1. [略]

2. 施工概要

2－1 [略]

2－2 排水方法の選定
[略]

2－2－1 作業時排水とは、作業前（1～3時間）から排水し始めて作業終了後には排水を中止する方法をいう。なお、作業時排水には、コンクリート打設前後の型枠組立・養生などのための一時的に昼夜排水するものも含む。

2－2－2 常時排水とは、昼夜連続的に排水する方法をいう。

3. 施工歩掛

3－1 機種を選定
[略]

表 3. 1 機種を選定（ポンプ運転）

機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
			排水量（m³／h）	

			[削る。]	<u>0</u> 以上 120 未満	120 以上 450 未満	450 以上 <u>1,200</u> 未 満	<u>1,200</u> 以上 <u>1,600</u> 未満	<u>1,600</u> 以 上 <u>1,800</u> 未 満	
工事中 モータポン プ <u>全揚程 10m</u>	普通型（潜水ポンプ） 口径 150mm		台	[削る。]	—	1	—	<u>1</u>	<u>二</u>
	普通型（潜水ポンプ） 口径 200mm		〃	[削る。]	1	2	5	<u>二</u>	<u>二</u>
	<u>普通型（潜水ポンプ） 口径 250mm</u>		〃		<u>二</u>	<u>二</u>	<u>二</u>	<u>4</u>	<u>5</u>
<u>工事中 モータポン プ 全揚程 15m</u>	<u>普通型（潜水ポンプ） 口径 150mm</u>		〃		<u>二</u>	<u>1</u>	<u>二</u>	<u>二</u>	
	<u>普通型（潜水ポンプ） 口径 200mm</u>		〃		<u>1</u>	<u>2</u>	<u>二</u>	<u>二</u>	
<u>発動発電機 全揚程 10m</u>	ディーゼルエンジン 駆 動 （超低騒音型）排 出ガス対策型（第 3 次基準 値）	定格容量 <u>45kVA</u>	〃	[削る。]	<u>1</u>	—	—	<u>二</u>	<u>二</u>
		[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]		
		定格容量 <u>75kVA</u>	〃	[削る。]	—	1	—	<u>二</u>	<u>二</u>
		定格容量 <u>125kVA</u>	〃	[削る。]	—	—	1	<u>二</u>	<u>二</u>
		<u>定格容量 200kVA</u>	〃		<u>二</u>	<u>二</u>	<u>二</u>	<u>1</u>	<u>二</u>
		<u>定格容量 250kVA</u>	〃		<u>二</u>	<u>二</u>	<u>二</u>	<u>二</u>	<u>1</u>
		<u>定格容量 60kVA</u>	〃		<u>1</u>	<u>二</u>	<u>二</u>	<u>二</u>	<u>二</u>
		<u>定格容量 125kVA</u>	〃		<u>二</u>	<u>1</u>	<u>二</u>	<u>二</u>	<u>二</u>
<u>発動発電機 全揚程 15m</u>									

(注) 1. [略]
[削る。]
2. 工事中モータポンプ及び発動発電機は、賃料とする。なお、口径 250mm の水中モーターポンプについては損料とする。
3. [略]
4. [略]。
5. [略]
6. 排水量、全揚程により機種の選定を行うものとする。

3－2 運転工歩掛
3－2－1 [略]

3－2－2 労務歩掛
[略]

表 3. 2 ポンプ運転歩掛 (人／1 箇所・日)
[略]

(注) [削る。]
[削る。]
1. [略]
2. [略]

3－2－3 諸雑費
[略]

表 3. 3 諸雑費率 (%)

			<u>0 以上 40 未満</u>	<u>40</u> 以 上 120 未 満	120 以 上 450 未 満	450 以 上 <u>1,300</u> 未満	[新設]	[新設]	
工事中 中 モータポ ンプ	普通型（潜水ポンプ） 口径 150mm、 <u>全揚程 15m以下</u>		台	<u>1</u>	—	1	—	[新設]	[新設]
	普通型（潜水ポンプ） 口径 200mm、 <u>全揚程 15m以下</u>		〃	<u>二</u>	1	2	5	[新設]	[新設]
	[新設]		[新設]		[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	
[新設]	[新設]		[新設]		[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	
	[新設]		[新設]		[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	
発動発電機	ディーゼルエンジン駆 動排出ガス対策型（第 2 次基準 値）	定格容量 <u>25kVA</u>	〃	<u>1</u>	—	—	—	[新設]	[新設]
		<u>定格容量 35kVA</u>	〃	<u>二</u>	<u>1</u>	<u>二</u>	<u>二</u>		
		定格容量 <u>60kVA</u>	〃	<u>二</u>	—	1	—	[新設]	[新設]
		定格容量 <u>100kVA</u>	〃	<u>二</u>	—	—	1	[新設]	[新設]
		[新設]	[新設]		[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	
		[新設]	[新設]		[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	
		[新設]	[新設]		[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	
		[新設]	[新設]		[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	
[新設]									

(注) 1. [略]
2. 全揚程が 15m以下の場合、工事中モータポンプの規格は全揚程 10mを標準とする。
3. 工事中モータポンプ及び発動発電機は、賃料とする。
4. [略]
5. [略]
6. [略]
[新設]

3－2 運転工歩掛
3－2－1 [略]

3－2－2 労務歩掛
[略]

表 3. 2 ポンプ運転歩掛 (人／1 箇所・日)
[略]

(注) 1. 歩掛は、運転日当り運転時間が作業時排水 8 h、常時排水 24 hを標準としたものである。
2. 労務単価は、時間外手当等を考慮しない。
3. [略]
4. [略]

3－2－3 諸雑費
[略]

表 3. 3 諸雑費率 (%)

排水方法	作業時排水	常時排水
諸雑費率	<u>5</u>	<u>3</u>

3－3 設置・撤去歩掛
[略]

表 3. 4 設置・撤去歩掛 (1箇所)			
名 称	規 格	単 位	数 量
世 話 役		人	0.5
特 殊 作 業 員		〃	0.1
普 通 作 業 員		〃	2.0
バックホウ（クローラ型）運転	標準型・ <u>超低騒音型</u> ・クレーン機能付・排出ガス対策型（ <u>2014 年規制</u> ） 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）吊能力 2.9t	日	0.5

(注) 1. ～ 5. [略]
6. 釜場掘削が必要な場合は「15 仮設工⑤釜場設置撤去工」により別途計上する。

4. 単価表

(1) 締切排水工内訳表 [略]

(2) ポンプ運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
特 殊 作 業 員		人		表 3. 2
工事用水中モータポンプ運転	普通型（潜水ポンプ）	日	1	表 3. 1 機械賃料 <u>機械損料</u>
発 動 発 電 機 運 転	ディーゼルエンジン駆動 <u>(超低騒音型)</u> ・排出ガス対策型（第 <u>3</u> 次基準値）	〃	1	表 3. 1 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表 3. 3
計				

(3) ポンプ設置・撤去1箇所当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 3. 4
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
バ ッ ク ホ ウ （クローラ型）運転	標準型・ <u>超低騒音型</u> ・クレーン機能付・排出ガス対策型（ <u>2014 年規制</u> ） 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 吊能力 2.9t	日		表 3. 4 機械賃料
計				

(4) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
-------	-----	-------	---------

排水方法	作業時排水	常時排水
諸雑費率	<u>3</u>	<u>1</u>

3－3 設置・撤去歩掛
[略]

表 3. 4 設置・撤去歩掛 (1箇所)			
名 称	規 格	単 位	数 量
世 話 役		人	0.5
特 殊 作 業 員		〃	0.1
普 通 作 業 員		〃	2.0
バックホウ（クローラ型）運転	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型 （ <u>第2次基準値</u> ） 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）吊能力 2.9t	日	0.5

(注) 1. ～ 5. [略]
[新設]

4. 単価表

(1) 締切排水工内訳表 [略]

(2) ポンプ運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
特 殊 作 業 員		人		表 3. 2
工事用水中モータポンプ運転	普通型（潜水ポンプ）	日	1	表 3. 1 機械賃料 <u>[新設]</u>
発 動 発 電 機 運 転	ディーゼルエンジン駆動・排出ガス対策型（第 <u>2</u> 次基準値）	〃	1	表 3. 1 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表 3. 3
計				

(3) ポンプ設置・撤去1箇所当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 3. 4
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
バ ッ ク ホ ウ （クローラ型）運転	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型（ <u>第2次基準値</u> ） 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 吊能力 2.9t	日		表 3. 4 機械賃料
計				

(4) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
-------	-----	-------	---------

工事用水中モータポンプ	普通型（潜水ポンプ） 口径 150mm, 全揚程 10m 及び 口径 200mm, 全揚程 10m 又は 口径 150mm, 全揚程 15m 及び 口径 200mm, 全揚程 15m	機－ 3 2	機械賃料数量→（常時排水） 1. 1 （作業時排水） 1. 2
	普通型（潜水ポンプ） 口径 250mm, 全揚程 10m	機－ 2 5	機械損料数量→（常時排水） 1. 1 （作業時排水） 1. 2
発 動 発 電 機	ディーゼルエンジン駆動（超低騒音型）・排出ガス対策型（第3次基準値） 定格容量 45kVA 〔削る。〕 定格容量 60kVA 定格容量 75kVA 定格容量 125kVA 定格容量 200kVA 定格容量 250KVA	機－ 1 6	（常時排水） 燃料消費量 → 45kVA→137 〔削る。〕 60kVA→168 75kVA→204 125kVA→336 200kVA→600 250kVA→744 機械賃料数量 →1. 1 （作業時排水） 燃 料 消 費 量 → 45kVA→46 〔削る。〕 60kVA→56 75kVA→68 125kVA→112 200kVA→200 250kVA→248 機 械 賃 料 数 量 →1. 2
バ ッ ク ホ ウ （ ク ロ ー ラ 型 ）	標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型（2014年規制） 山積 0.8m³（平積 0.6m³） 吊能力 2.9t	機－ 2 8	運転労務数量 →1.00 燃 料 消 費 量 →45 機 械 賃 料 数 量 →1. 47

⑤～⑦ [略]

⑧ たて込み簡易土留

1. ～ 3. [略]

4. 施工歩掛
4－1 掘削・たて込み作業

工事用水中モータポンプ	普通型（潜水ポンプ）	機－ 3 2	機械賃料数量→（常時排水） 1. 1 （作業時排水） 1. 2
	[新設]	[新設]	[新設]
発 動 発 電 機	ディーゼルエンジン駆動・排出ガス対策型（第2次基準値） 定格容量 25kVA 定格容量 35kVA 定格容量 60kVA 定格容量 100kVA [新設] [新設] [新設]	機－ 1 6	（常時排水） 燃 料 消 費 量 → 25kVA→ 67 35kVA→ 98 60kVA→168 100kVA→264 [新設] [新設] [新設] 機 械 賃 料 数 量 →1. 1 （作業時排水） 燃 料 消 費 量 → 25kVA→ 22 35kVA→ 33 60kVA→56 100kVA→88 [新設] [新設] [新設] 機 械 賃 料 数 量 →1. 2
バ ッ ク ホ ウ （ ク ロ ー ラ 型 ）	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型（第2次基準値） 山積 0.8m³（平積 0.6m³） 吊能力 2.9t	機－ 2 8	運転労務数量 →1.00 燃 料 消 費 量 →65 機 械 賃 料 数 量 →1. 16

⑤～⑦ [略]

⑧ たて込み簡易土留

1. ～ 3. [略]

4. 施工歩掛
4－1 掘削・たて込み作業

[略]

表 4. 1 たて込み簡易土留掘削・たて込み歩掛 (1 m 当り)
[略]

- (注) 1.・2. [略]
3. 土留材たて込み時間= $6.8 \text{ 分} / \text{m}^2$
4. バックホウ (クレーン機能付) クローラ型山積 0.28m^3 (平積 0.20m^3) 1.7t 吊の作業能力
= $0.18 \text{ 時間} / \text{m}^3$
5. バックホウ (クレーン機能付) クローラ型山積 0.45m^3 (平積 0.35m^3) 2.9t 吊の作業能力
= $0.09 \text{ 時間} / \text{m}^3$
6. バックホウ (クレーン機能付) クローラ型山積 0.80m^3 (平積 0.60m^3) 2.9t 吊の作業能力
= $0.06 \text{ 時間} / \text{m}^3$
7. [略]

4-2 引抜作業
[略]

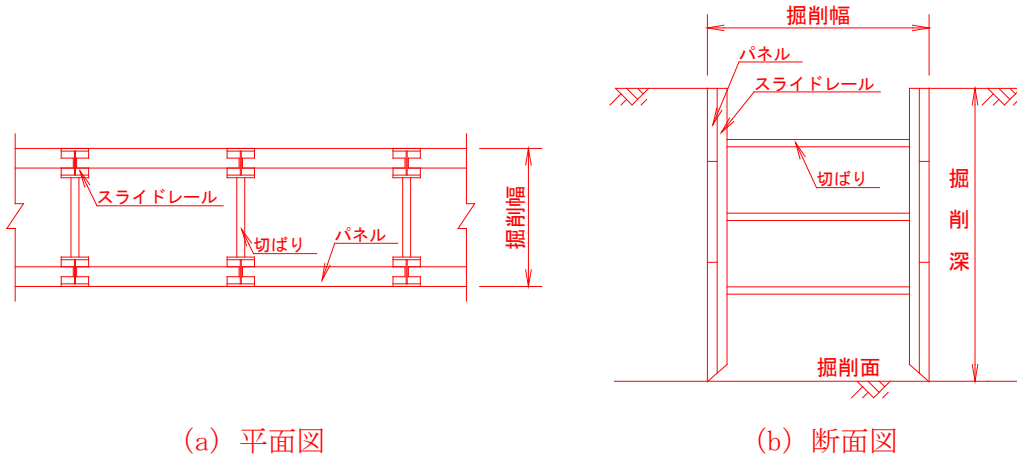
表 4. 2 たて込み簡易土留引抜歩掛 (1 m 当り)
[略]

- (注) 1.・2. [略]
3. 土留材引抜時間= $8.0 \text{ 分} / \text{m}^2$
4. [略]

4-3・4-4 [略]

5. 参考図

スライドレール方式



[略]

表 4. 1 たて込み簡易土留掘削・たて込み歩掛 (1 m 当り)
[略]

- (注) 1.・2. [略]
3. 土留材たて込み時間= $4.0 \text{ 分} / \text{m}^2$
4. バックホウ (クレーン機能付) クローラ型山積 0.28m^3 (平積 0.20m^3) 1.7t 吊の作業能力
= $0.14 \text{ 時間} / \text{m}^3$
5. バックホウ (クレーン機能付) クローラ型山積 0.45m^3 (平積 0.35m^3) 2.9t 吊の作業能力
= $0.07 \text{ 時間} / \text{m}^3$
6. バックホウ (クレーン機能付) クローラ型山積 0.80m^3 (平積 0.60m^3) 2.9t 吊の作業能力
= $0.04 \text{ 時間} / \text{m}^3$
7. [略]

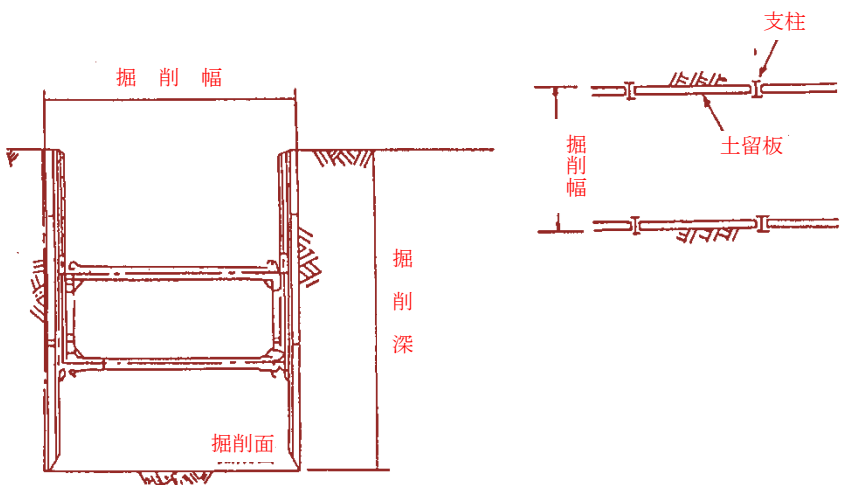
4-2 引抜作業
[略]

表 4. 2 たて込み簡易土留引抜歩掛 (1 m 当り)
[略]

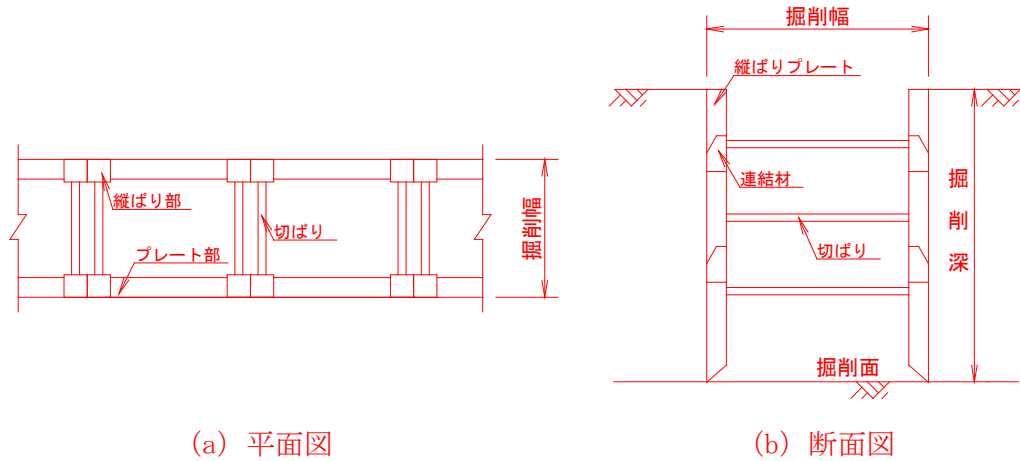
- (注) 1.・2. [略]
3. 土留材引抜時間= $5.2 \text{ 分} / \text{m}^2$
4. [略]

4-3・4-4 [略]

5. 参考図



縦ばりプレート方式



6. [略]

⑨ 鋼製足場

1. ・ 2. [略]

3. 施工歩掛
[略]

表 3. 1 足場材設置・撤去歩掛 [略]

(注) 1. 足場材の歩掛には、部材の一時的な取外し・復旧のための作業等を含むものとする。
2. [略]
3. 諸雑費は、足場工仮設材（賃料）等の費用であり、労務費及び機械賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。なお、諸雑費には、供用中の以下に示す足場材賃料を含むものとする。
・ [略]
・ [略]
・ [略]
4. [略]

4. ・ 5. [略]

⑩～⑫ [略]

⑬ 仮橋・仮栈橋工

1. ・ 2. [略]

3. 機種の選定
[略]

表3. 1 機種の選定

区 分	機 械 名	規 格
直接基礎形式	排出ガス対策型（2014 年規制） ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型	〇〇 t

6. [略]

⑨ 鋼製足場

1. ・ 2. [略]

3. 施工歩掛
[略]

表 3. 1 足場材設置・撤去歩掛 [略]

(注) [新設]
1. [略]
2. 諸雑費は、足場工仮設材（賃料）等の費用であり、労務費及び機械賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。なお、諸雑費には、供用中の足場材賃料を含み、現場内での段取り替えに伴うすべての費用を含むものとする。
・ [略]
・ [略]
・ [略]
3. [略]

4. ・ 5. [略]

⑩～⑫ [略]

⑬ 仮橋・仮栈橋工

1. ・ 2. [略]

3. 機種の選定
[略]

表3. 1 機種の選定

区 分	機 械 名	規 格
直接基礎形式	排出ガス対策型（2014 年規制） ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型	〇〇 t

杭基礎形式	排出ガス対策型（2014 年規制） クローラクレーン 油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型	
-------	---	--

（注） 1. ～ 3. [略]
4. ラフテレーンクレーンで 35t 吊りを選定した場合は、排出ガス対策型（2011 年規制）とする。

4. ～ 5. [略]

⑭ [略]

⑮ パイプロハンマエ（鋼矢板・H 形鋼）

1. ～ 4. [略]

5. 日当り施工枚数

5－1・5－2 [略]

5－3 諸 雑 費

諸雑費は、共下がり防止及び導材（ガイド）用の溶接棒及び電気溶接機損料、導材（ガイド）賃料、施工機械足場用の敷鉄板賃料、ウォータージェット併用施工用付属機器に関する経費（配管バンド及び溶接棒、電気溶接機損料、工事用水中モーターポンプ損料、水槽及び配管損料）、陸上部での付属機材等の現場内小運搬に関する経費、電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に下表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 8 諸雑費率
[略]

⑯ [略]

⑰ 油圧圧入引抜工

1. 適用範囲

本歩掛は、油圧式杭圧入引抜機による鋼矢板の圧入（ $N_{max} \leq 50$ ）及び、引抜きにの施工に適用する。
なお、継矢板の施工法は、先行する鋼矢板を圧入後、それに接続する鋼矢板を鉛直に建込んだ状態で継手部を溶接するものである。
油圧式杭圧入引抜機の反力チャックのつかみ代は、500 mmを標準とする。
 $N_{max} \leq 50$ での施工における布掘深さ（又は、地表面よりの余裕高さ）は反力チャックのつかみ代と同じ幅を標準とする。
また、鋼矢板形式毎の圧入長（引抜き長）の適用範囲は、表 1. 1 のとおりとし、これにより難しい場合は、別途考慮する。

表 1. 1 圧入長（引抜き長）(m)

鋼矢板の型式			Ⅱ 型	Ⅲ 型	Ⅳ 型	Ⅴ L 型	Ⅵ L 型	Ⅱ w 型	Ⅲ w 型	Ⅳ w 型
圧入長	圧入	$N_{\max} \leq 25$	10 以下	15 以下	20 以下	25 以下	25 以下	12 以下	25 以下	25 以下
		$N_{\max} \leq 50$	12 以下	18 以下	20 以下	25 以下	25 以下	14 以下	25 以下	25 以下
引抜き			12 以下	18 以下	20 以下	25 以下	25 以下	－		

（注） 1. [略]
2. 圧入（ $N_{max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用するものとし、 $N_{max} \leq 25$ においても転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する場合は適用できる。
3. [略]

2. 施工概要

杭基礎形式	排出ガス対策型（2014 年規制） クローラクレーン 油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型	
-------	---	--

（注） 1. ～ 3. [略]
4. ラフテレーンクレーンで 45t 吊りを選定した場合は、排出対策型（第 1 次基準値）とし、
35t 吊りを選定した場合は、排出ガス対策型（2011 年規制）とする。

4. ～ 5. [略]

⑭ [略]

⑮ パイプロハンマエ（鋼矢板・H 形鋼）

1. ～ 4. [略]

5. 日当り施工枚数

5－1・5－2 [略]

5－3 諸 雑 費

諸雑費は、共下がり防止及び導材（ガイド）用の溶接棒及び電気溶接機損料、導材（ガイド）賃料、施工機械足場用の敷鉄板賃料、ウォータージェット併用施工用付属機器に関する経費（配管バンド及び溶接棒、電気溶接機損料、水中ポンプ損料、水槽及び配管損料）、現場内小運搬に関する経費、電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に下表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 8 諸雑費率
[略]

⑯ [略]

⑰ 油圧圧入引抜工

1. 適用範囲

本歩掛は、油圧式杭圧入引抜機による鋼矢板の圧入（ $N_{max} \leq 50$ ）及び、引抜きにの施工に適用する。
なお、継矢板の施工法は、先行する鋼矢板を圧入後、それに接続する鋼矢板を鉛直に建込んだ状態で継手部を溶接するものである。
油圧式杭圧入引抜機の反力チャックのつかみ代は、500 mmを標準とする。
 $N_{max} \leq 50$ での施工における布掘深さ（又は、地表面よりの余裕高さ）は反力チャックのつかみ代と同じ幅を標準とする。
また、鋼矢板形式毎の圧入長（引抜き長）の適用範囲は、表 1. 1 のとおりとし、これにより難しい場合は、別途考慮する。

表 1. 1 圧入長（引抜き長）(m)

鋼矢板の型式			Ⅱ 型	Ⅲ 型	Ⅳ 型	Ⅴ L 型	Ⅵ L 型	Ⅱ w 型	Ⅲ w 型	Ⅳ w 型
圧入長	圧入	$N_{\max} \leq 25$	10 以下	15 以下	20 以下	25 以下	25 以下	12 以下	25 以下	25 以下
		$N_{\max} \leq 50$	12 以下	18 以下	20 以下	25 以下	25 以下	14 以下	25 以下	25 以下
引抜き			12 以下	18 以下	20 以下	25 以下	25 以下	－		

（注） 1. [略]
2. 圧入（ $N_{max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用するものとし、 $N_{max} \leq 25$ においても転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する場合は適用できる。
3. [略]

2. 施工概要

標準施工フローは、次図を標準とする。

標準施工フローは、次図を標準とする。

図 2. 1 圧入（ $N_{max} \leq 25$ ）
[略]

図 2. 2 圧入（ $N_{max} \leq 50$ ）
[略]

図 2. 3 「略」

3. 機種の選定

3-1 油圧式杭圧入引抜機
[略]

表 3. 1 機種選定

作業の種類		圧 入		引抜き
最大N値		$\underline{N}_{\max} \leq 25$	$\underline{N}_{\max} \leq 50$	－
鋼 矢 板 形 式	Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ型	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型（2014年規制） 圧入力 800kN 引抜力 900kN		
	ⅤL、ⅤL型	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型（第3次基準値） 広幅鋼矢板用		
	Ⅱ _w 、Ⅲ _w 、Ⅳ _w 型	圧入力 1,000kN 引抜力 1,100kN		－

（注） 圧入（ $N_{max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用するものとし、 $N_{max} \leq 25$ においても転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する場合は適用できる。

3-2 付属機械
[略]

表 3. 2 付属機械の機種選定

機 種 \ 作業の種類	圧入 (N _{max} ≤ 25) 引 抜 き	圧入 (N _{max} ≤ 50)	備 考
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン	排出ガス対策型（第 3 次基準値） 油圧伸縮ジブ型25 t 吊 （注） 2		陸上からの施工時のみ
杭打ち用ウォータージェット	—	エンジン式・ 排出ガス対策型 （第 3 次基準値） 圧力14. 7MPa 吐出量325ℓ/min	
クレーン付台船	クローラークレーン35～40t吊 台船300t積 （注） 3		水上からの施工時のみ
引 船	鋼製 D 100PS型 4. 9GT （注） 3		

- （注） 1. 圧入（ $N_{max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用するものとし、 $N_{max} \leq 25$ においても転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する場合は適用できる。
2. [略]
3. 水上施工の場合の注意事項
- ①・② [略]
- ③ クレーン付台船には、圧入（ $N_{max} \leq 25$ ）時は油圧式杭圧入引抜機、同油圧ユニット、溶接機及び鋼矢板を搭載するものとし、鋼矢板の搭載質量は、230 t（圧入（ $N_{max} \leq 50$ ）時は杭打ち用ウォータージェット、水槽も搭載し、鋼矢板の搭載質量は、210 t）以下とする。
4. ・5. [略]

4. 日当り編成人員

4-1 油圧圧入引抜施工の日当り編成人員は、次表を標準とする。

図 2. 1 圧入（ $N_{max} \leq 25$ ）
[略]

図 2. 2 圧入（ $N_{max} \leq 50$ ）
[略]

図 2. 3 「略」

3. 機種の選定

3-1 油圧式杭圧入引抜機
[略]

表 3. 1 機種選定

作業の種類		圧 入		引抜き
最大N 値		$N_{\max} \leq 25$	$N_{\max} \leq 50$	—
鋼 矢 板 形 式	Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ型	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型（2014年規制） 圧入力 800kN 引抜力 900kN		
	ⅤL、ⅤL型	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型（第3次基準値） 広幅鋼矢板用		
	Ⅱ _w 、Ⅲ _w 、Ⅳ _w 型	圧入力 1,000kN 引抜力 1,100kN		—

（注） 圧入（ $N_{max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用するものとし、 $N_{max} \leq 25$ においても転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する場合は適用できる。

3-2 付属機械
[略]

表 3. 2 付属機械の機種選定

作業の種類 機 種	圧入 (N _{max} ≦25) 引 抜 き	圧入 (N _{max} ≦50)	備 考
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン	排出ガス対策型（第3次基準値） 油圧伸縮ジブ型25 t 吊 （注）2		陸上からの施工時のみ
杭打ち用ウォータージェット	—	エンジン式・ 排出ガス対策型 （第3次基準値） 圧力14.7MPa 吐出量325ℓ/min	
クレーン付台船	クローラークレーン35～40t吊 台船300t積 （注）3		水上からの施工時のみ
引 船	鋼製 D 100PS型 4.9GT （注）3		

- （注） 1. 圧入（ $N_{max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用するものとし、 $N_{max} \leq 25$ においても転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する場合は適用できる。
2. [略]
3. 水上施工の場合の注意事項
- ①・② [略]
- ③ クレーン付台船には、圧入（ $N_{max} \leq 25$ ）時は油圧式杭圧入引抜機、同油圧ユニット、溶接機及び鋼矢板を搭載するものとし、鋼矢板の搭載質量は、230 t（圧入（ $N_{max} \leq 50$ ）時は杭打ち用ウォータージェット、水槽も搭載し、鋼矢板の搭載質量は、210 t）以下とする。
4. ・5. [略]

4. 日当り編成人員

4-1 油圧圧入引抜施工の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 4. 1 日当り編成人員 (人)				
作 業 の 種 類	世 話 役	特殊作業員	と び 工	溶接工 (注) 2
圧入 (<u>N</u> _{max} ≤25)	1	1	2	2
圧入 (<u>N</u> _{max} ≤50)	1	1	2	2
引 抜 き	1	1	2	—

(注) 1. 圧入 (N_{max}≤50) は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。
2. [略]

4－2 水上施工の1船団に対する船舶作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 4. 2 船舶作業の日当り編成人員 (人)	
[略]	
(注) 1. ～3. [略]	
4. 上表は、圧入又は引抜き作業の配置人員であり、搬入、搬出等の回航・えい航は土地改良事業等請負工事共通仮設費算定基準の運搬費として計上する。	

5. 日当り施工枚数

5－1 圧入、引抜き作業(継施工なし)
鋼矢板の圧入及び引抜き作業における1日当り施工枚数(N)は、表5. 1～表5. 5による。
5－1－1 圧入 (N_{max}≤25)

表 5. 1 日当り施工枚数 (N) (枚／日)							
圧入長 鋼矢板型式	6 m 以下	9 m 以下	12m 以下	15m 以下	19m 以下	23m 以下	25m 以下
Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ型	<u>34</u>	<u>27</u>	<u>21</u>	18	15	<u>12</u>	—
ⅤL、ⅥL 型	<u>30</u>	<u>23</u>	<u>18</u>	<u>15</u>	13	11	<u>9.4</u>
Ⅱw、Ⅲw、Ⅳw 型	<u>30</u>	<u>23</u>	<u>18</u>	15	<u>12</u>	<u>10</u>	<u>9.2</u>

(注) [略]

5－1－2 圧入 (N_{max}≤50)

表 5. 2 日当り施工枚数 (N) (枚／日)							
圧入長 鋼矢板型式	6 m 以下	9 m 以下	12m 以下	15m 以下	19m 以下	23m 以下	25m 以下
Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ型	<u>23</u> (<u>26</u>)	19 (<u>21</u>)	<u>15</u> (<u>17</u>)	13 (<u>14</u>)	11 (<u>12</u>)	<u>9.0</u> (<u>10</u>)	— (—)
ⅤL、ⅥL 型	<u>22</u> (<u>24</u>)	<u>17</u> (20)	14 (16)	12 (<u>13</u>)	<u>9.7</u> (<u>11</u>)	<u>8.1</u> (<u>9.6</u>)	<u>7.3</u> (<u>8.6</u>)
Ⅱw、Ⅲw、Ⅳw 型	<u>22</u> (<u>24</u>)	<u>17</u> (<u>19</u>)	14 (16)	<u>11</u> (<u>13</u>)	<u>9.5</u> (11)	<u>8.0</u> (<u>9.4</u>)	<u>7.2</u> (<u>8.5</u>)

(注) 1. 圧入 (N_{max}≤50) は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。
2. ～4. [略]
5. 上段：25<N_{max}≤50
下段 () 書き：N_{max}≤25 で、転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する必要がある場合。
6. [略]

5－1－3 引抜き

表 5. 3 日当り施工枚数 (N) (枚／日)							
引抜き長 鋼矢板型式	6m 以下	9m 以下	12m 以下	15m 以下	19m 以下	23m 以下	25m 以下
Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、ⅤL、ⅥL 型	<u>56</u>	<u>47</u>	<u>39</u>	<u>33</u>	<u>29</u>	25	<u>22</u>

(注) [略]

表 4. 1 日当り編成人員 (人)				
作 業 の 種 類	世 話 役	特殊作業員	と び 工	溶接工 (注) 2
圧入 (<u>N</u> _{max} ≤25)	1	1	2	2
圧入 (<u>N</u> _{max} ≤50)	1	1	2	2
引 抜 き	1	1	2	—

(注) 1. 圧入 (N_{max}≤50) は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。
2. [略]

4－2 水上施工の1船団に対する船舶作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 4. 2 船舶作業の日当り編成人員 (人)	
[略]	
(注) 1. ～3. [略]	
4. 上表は、圧入又は引抜き作業の配置人員であり、搬入、搬出等の回航は土地改良事業等請負工事共通仮設費算定基準の運搬費として計上する。	

5. 日当り施工枚数

5－1 圧入、引抜き作業(継施工なし)
鋼矢板の圧入及び引抜き作業における1日当り施工枚数(N)は、表5. 1～表5. 5による。
5－1－1 圧入 (N_{max}≤25)

表 5. 1 日当り施工枚数 (N) (枚／日)							
圧入長 鋼矢板型式	6 m 以下	9 m 以下	12m 以下	15m 以下	19m 以下	23m 以下	25m 以下
Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ型	<u>35</u>	<u>28</u>	<u>22</u>	18	15	<u>13</u>	—
ⅤL、ⅥL 型	<u>31</u>	<u>24</u>	<u>19</u>	<u>16</u>	13	11	<u>9.7</u>
Ⅱw、Ⅲw、Ⅳw 型	<u>31</u>	<u>24</u>	<u>19</u>	15	<u>13</u>	<u>11</u>	<u>9.5</u>

(注) [略]

5－1－2 圧入 (N_{max}≤50)

表 5. 2 日当り施工枚数 (N) (枚／日)							
圧入長 鋼矢板型式	6 m 以下	9 m 以下	12m 以下	15m 以下	19m 以下	23m 以下	25m 以下
Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ型	<u>24</u> (<u>27</u>)	19 (<u>22</u>)	<u>16</u> (<u>18</u>)	13 (<u>15</u>)	11 (<u>13</u>)	<u>9.3</u> (<u>11</u>)	— (—)
ⅤL、ⅥL 型	<u>23</u> (<u>25</u>)	<u>18</u> (20)	14 (16)	12 (<u>14</u>)	<u>10</u> (<u>12</u>)	<u>8.4</u> (9.9)	<u>7.5</u> (<u>8.9</u>)
Ⅱw、Ⅲw、Ⅳw 型	<u>23</u> (<u>25</u>)	<u>18</u> (<u>20</u>)	14 (16)	<u>12</u> (<u>14</u>)	<u>9.8</u> (11)	<u>8.3</u> (<u>9.7</u>)	<u>7.4</u> (<u>8.7</u>)

(注) 1. 圧入 (N_{max}≤50) は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。
2. ～4. [略]
5. 上段：25<N_{max}≤50
下段 () 書き：N_{max}≤25 で、転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する必要がある場合。
6. [略]

5－1－3 引抜き

表 5. 3 日当り施工枚数 (N) (枚／日)							
引抜き長 鋼矢板型式	6m 以下	9m 以下	12m 以下	15m 以下	19m 以下	23m 以下	25m 以下
Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、ⅤL、ⅥL 型	<u>58</u>	<u>48</u>	<u>40</u>	<u>34</u>	<u>30</u>	25	<u>23</u>

(注) [略]

5-2 圧入（継施工あり）
[略]

5-2-1 圧入継施工（ $N_{\max} \leq 25$ ）

表 5. 4 日当り継施工枚数（N）（枚／日）

鋼矢板型式 \ 圧入長	6m以下	9m以下	12m以下	15m以下	19m以下	23m以下	25m以下
Ⅱ型	<u>16</u>	15	13	—	—	—	—
Ⅲ型	14	<u>12</u>	11	10	—	—	—
Ⅳ型	<u>12</u>	<u>11</u>	10	<u>9.2</u>	<u>8.4</u>	<u>7.4</u>	—
ⅤL型	<u>7.5</u>	<u>7.0</u>	<u>6.4</u>	<u>6.0</u>	5.7	5.2	<u>4.8</u>
ⅦL型	<u>6.3</u>	<u>5.9</u>	<u>5.5</u>	<u>5.2</u>	5.0	4.6	<u>4.3</u>
Ⅱw型	<u>14</u>	13	11	—	—	—	—
Ⅲw型	12	<u>10</u>	<u>9.2</u>	<u>8.4</u>	<u>7.4</u>	<u>6.6</u>	6.2
Ⅳw型	<u>8.6</u>	<u>7.9</u>	<u>7.2</u>	<u>6.7</u>	<u>6.0</u>	<u>5.5</u>	<u>5.2</u>

（注） [略]

5-2-2 圧入継施工（ $N_{\max} \leq 50$ ）

表 5. 5 日当り継施工枚数（N）（枚／日）

鋼矢板型式 \ 圧入長	6m以下	9m以下	12m以下	15m以下	19m以下	23m以下	25m以下
Ⅱ型	<u>13</u> (14)	12 (13)	<u>10</u> (11)	—	—	—	—
Ⅲ型	12 (12)	<u>10</u> (11)	<u>9.1</u> (9.8)	<u>8.3</u> (8.7)	<u>7.4</u> (7.9)	—	—
Ⅳ型	<u>10</u> (11)	<u>9.5</u> (10)	<u>8.4</u> (9.0)	<u>7.7</u> (8.1)	<u>7.0</u> (7.4)	<u>6.1</u> (6.6)	—
ⅤL型	<u>6.9</u> (7.1)	<u>6.3</u> (6.7)	5.8 (6.2)	5.5 (5.7)	<u>4.9</u> (5.2)	<u>4.5</u> (4.9)	<u>4.2</u> (4.6)
ⅦL型	5.9 (6.0)	<u>5.4</u> (5.7)	5.1 (5.3)	4.8 (5.0)	4.4 (4.6)	4.0 (4.4)	<u>3.8</u> (4.1)
Ⅱw型	<u>12</u> (13)	11 (11)	<u>9.3</u> (10)	<u>7.9</u> (8.9)	—	—	—
Ⅲw型	<u>10</u> (11)	<u>9.0</u> (9.5)	<u>8.1</u> (8.7)	<u>7.0</u> (7.7)	<u>6.3</u> (7.0)	<u>5.6</u> (6.3)	5.2 (5.9)
Ⅳw型	<u>7.8</u> (8.0)	<u>7.0</u> (7.4)	<u>6.5</u> (6.9)	<u>5.7</u> (6.2)	<u>5.3</u> (5.7)	<u>4.8</u> (5.3)	<u>4.5</u> (5.0)

- （注） 1. 圧入長（ $N_{\max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。
2. ～4. [略]
5. 上段： $25 < N_{\max} \leq 50$
下段（ ）書き： $N_{\max} \leq 25$ で、転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する
必要が生じた場合。
6. [略]

5-2-3 鋼矢板 1 枚当り継施工箇所数による補正

表 5. 6 補正係数（F）（鋼矢板 1 枚当り 2 箇所以上継施工を行う場合）

鋼矢板 1 枚当り継施工箇所数（X）	2 箇所	3 箇所	4 箇所	5 箇所
補正係数（F）	<u>0.65</u>	<u>0.49</u>	<u>0.39</u>	<u>0.32</u>

5-3 [略]

5-2 圧入（継施工あり）
[略]

5-2-1 圧入継施工（ $N_{\max} \leq 25$ ）

表 5. 4 日当り継施工枚数（N）（枚／日）

鋼矢板型式 \ 圧入長	6m以下	9m以下	12m以下	15m以下	19m以下	23m以下	25m以下
Ⅱ型	<u>17</u>	15	13	—	—	—	—
Ⅲ型	14	<u>13</u>	11	10	—	—	—
Ⅳ型	<u>13</u>	<u>12</u>	10	<u>9.5</u>	<u>8.6</u>	<u>7.9</u>	—
ⅤL型	<u>7.6</u>	<u>7.1</u>	<u>6.6</u>	<u>6.2</u>	5.7	5.2	<u>5.0</u>
ⅦL型	<u>6.4</u>	<u>6.0</u>	<u>5.6</u>	<u>5.3</u>	5.0	4.6	<u>4.4</u>
Ⅱw型	<u>15</u>	13	11	—	—	—	—
Ⅲw型	12	<u>11</u>	<u>9.7</u>	<u>8.6</u>	<u>7.9</u>	<u>7.1</u>	6.2
Ⅳw型	<u>9.2</u>	<u>8.4</u>	<u>7.7</u>	<u>7.0</u>	<u>6.5</u>	<u>6.0</u>	<u>5.3</u>

（注） [略]

5-2-2 圧入継施工（ $N_{\max} \leq 50$ ）

表 5. 5 日当り継施工枚数（N）（枚／日）

鋼矢板型式 \ 圧入長	6m以下	9m以下	12m以下	15m以下	19m以下	23m以下	25m以下
Ⅱ型	<u>14</u> (15)	12 (13)	<u>11</u> (12)	—	—	—	—
Ⅲ型	12 (13)	<u>11</u> (11)	<u>9.6</u> (10)	<u>8.4</u> (9.2)	<u>7.5</u> (8.4)	—	—
Ⅳ型	<u>11</u> (11)	<u>9.7</u> (10)	<u>8.9</u> (9.5)	<u>7.9</u> (8.6)	<u>7.1</u> (7.9)	<u>6.2</u> (7.1)	—
ⅤL型	<u>7.0</u> (7.1)	<u>6.4</u> (6.7)	5.8 (6.2)	5.5 (5.8)	<u>5.0</u> (5.5)	<u>4.4</u> (5.0)	<u>4.4</u> (4.7)
ⅦL型	5.9 (6.1)	<u>5.5</u> (5.7)	5.1 (5.3)	4.8 (5.1)	4.4 (4.8)	4.0 (4.4)	<u>4.0</u> (4.2)
Ⅱw型	<u>13</u> (13)	11 (12)	<u>9.4</u> (10)	<u>8.5</u> (9.4)	—	—	—
Ⅲw型	<u>11</u> (11)	<u>9.5</u> (10)	<u>8.2</u> (8.9)	<u>7.5</u> (8.2)	<u>6.7</u> (7.1)	<u>5.7</u> (6.7)	5.2 (6.2)
Ⅳw型	<u>8.3</u> (8.6)	<u>7.5</u> (7.9)	<u>6.7</u> (7.2)	<u>6.2</u> (6.7)	<u>5.7</u> (6.0)	<u>5.0</u> (5.7)	<u>4.6</u> (5.3)

- （注） 1. 圧入長（ $N_{\max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。
2. ～4. [略]
5. 上段： $25 < N_{\max} \leq 50$
下段（ ）書き： $N_{\max} \leq 25$ で、転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する必要が
生じた場合。
6. [略]

5-2-3 鋼矢板 1 枚当り継施工箇所数による補正

表 5. 6 補正係数（F）（鋼矢板 1 枚当り 2 箇所以上継施工を行う場合）

鋼矢板 1 枚当り継施工箇所数（X）	2 箇所	3 箇所	4 箇所	5 箇所
補正係数（F）	<u>0.66</u>	<u>0.50</u>	<u>0.40</u>	<u>0.34</u>

5-3 [略]

5－4 油圧式杭圧入引抜機の据付・解体歩掛
[略]

表 5. 7 据付・解体歩掛

作 業 の 種 類	労 務 (人／回)			組合せ機械運転時間(日／回)	
	世話役	特殊作業員	とび工	油圧式杭 圧入引抜機	ラフテレーンクレーン
圧 入 ($\underline{N}_{\max} \leq 25$)	0.29	0.29	0.58	0.25	0.30
圧 入 ($\underline{N}_{\max} \leq 50$)	0.50	0.50	1.00	0.29	0.45
引 抜 き	0.19	0.19	0.39	0.13	0.19

(注) 1. 圧入 ($\underline{N}_{\max} \leq 50$) は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。
2. ～4. [略]

5－5 諸雑費

諸雑費は、共下がり防止用の溶接棒及び電気溶接機損料、施工機械足場用の敷鉄板賃料、ウォータージェット併用施工用付属機器に関する経費(配管バンド、溶接棒、電気溶接機損料、工事用水中モーターポンプ損料、水槽及び配管損料)、付属機材等の現場内小運搬に関する経費、電力に関する経費等の費用(継施工に関する経費は除く)であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 8 諸雑費率

(%)

作 業 の 種 類	陸上施工		水上施工	
	継施工なし	継施工あり	継施工なし	継施工あり
圧 入 ($\underline{N}_{\max} \leq 25$)	1	<u>4</u>	1	3
圧 入 ($\underline{N}_{\max} \leq 50$)	<u>7</u>	<u>9</u>	<u>5</u>	<u>7</u>
引 抜 き	<u>0.1</u>	－		

(注) 圧入 ($\underline{N}_{\max} \leq 50$) は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。

6. 単価表

(1) 鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 ($\underline{N}_{\max} \leq 25$)

[略]

(2) 鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 ($\underline{N}_{\max} \leq 50$)

[略]

(3) 継鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 ($\underline{N}_{\max} \leq 25$)

[略]

(4) 継鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 ($\underline{N}_{\max} \leq 50$)

[略]

(5) ・ (6) [略]

(7) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型(2014 年規制) 普通鋼矢板用 圧入力 800kN 引抜力 900kN	機－2 4	燃 料 消 費 量 → <u>128</u> 機 械 損 料 数 量 → <u>1.49</u>

5－4 油圧式杭圧入引抜機の据付・解体歩掛
[略]

表 5. 7 据付・解体歩掛

作 業 の 種 類	労 務 (人／回)			組合せ機械運転時間(日／回)	
	世話役	特殊作業員	とび工	油圧式杭 圧入引抜機	ラフテレーンクレーン
圧 入 ($\underline{N}_{\max} \leq 25$)	0.29	0.29	0.58	0.25	0.30
圧 入 ($\underline{N}_{\max} \leq 50$)	0.50	0.50	1.00	0.29	0.45
引 抜 き	0.19	0.19	0.39	0.13	0.19

(注) 1. 圧入 ($\underline{N}_{\max} \leq 50$) は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。
2. ～4. [略]

5－5 諸雑費

諸雑費は、共下がり防止用の溶接棒及び電気溶接機損料、施工機械足場用の敷鉄板賃料、ウォータージェット併用施工用付属機器に関する経費(配管バンド、溶接棒、電気溶接機損料、工事用水中モーターポンプ損料、水槽及び配管損料)、現場内小運搬に関する経費、電力に関する経費等の費用(継施工に関する経費は除く)であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 8 諸雑費率

(%)

作 業 の 種 類	陸上施工		水上施工	
	継施工なし	継施工あり	継施工なし	継施工あり
圧 入 ($\underline{N}_{\max} \leq 25$)	1	<u>2</u>	1	3
圧 入 ($\underline{N}_{\max} \leq 50$)	<u>8</u>	<u>8</u>	<u>6</u>	<u>8</u>
引 抜 き	<u>0.2</u>	－		

(注) 圧入 ($\underline{N}_{\max} \leq 50$) は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。

6. 単価表

(1) 鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 ($\underline{N}_{\max} \leq 25$)

[略]

(2) 鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 ($\underline{N}_{\max} \leq 50$)

[略]

(3) 継鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 ($\underline{N}_{\max} \leq 25$)

[略]

(4) 継鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 ($\underline{N}_{\max} \leq 50$)

[略]

(5) ・ (6) [略]

(7) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型(2014 年規制) 普通鋼矢板用 圧入力 800kN 引抜力 900kN	機－2 4	燃 料 消 費 量 → <u>132</u> 機 械 損 料 数 量 → <u>1.46</u>

〃	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型(第3次基準値) 広幅鋼矢板用 圧入力 1,000kN 引抜き 1,100kN	機－24	燃 料 消 費 量 → <u>146</u> 機 械 損 料 数 量 → <u>1.49</u>
杭打ち用ウォーター ジェット	エンジン式・ 排出ガス対策型(第3次基準値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325 ℓ/min	機－24	燃 料 消 費 量 → <u>134</u> 機 械 損 料 数 量 → <u>1.49</u>
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	機－18	運転労務数量 →1.00 燃 料 消 費 量 → <u>92</u> 機 械 損 料 数 量 → <u>1.49</u>
クレーン付台船	クローラークレーン 35～40t 吊 台船 300 t 積	機－11	運転1日当り単価表 船 員 名 称 →高級船員 機械損料単位 →供用日 運転労務数量 →1.00 (クローラークレーン) 燃 料 消 費 量 → <u>43</u> 機 械 損 料 数 量 → <u>1.49</u> (台船) 機械損料数量 → <u>1.49</u>
引 船	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	機－11	運転1日当り単価表 船 員 名 称 →高級船員 機械損料単位 →供用日 運転労務数量 →1.00 燃 料 消 費 量 →57 機 械 損 料 数 量 →1.22 主 燃 料 →重油

⑱ 油圧圧入引抜工（ハット形鋼矢板）

1. 適用範囲

本歩掛は、油圧式杭圧入引抜機による鋼矢板の圧入（N_{max}≤50）施工に適用する。
なお、継矢板の施工法は、先行する鋼矢板を圧入後、それに接続する鋼矢板を鉛直に建込んだ状態で継手部を溶接するものである。
油圧式圧入引抜機の反力チャックのつかみ代は、550mm を標準とする。
N_{max}≤50 での施工における布掘深さ（又は、地表面よりの余裕高さ）は反力チャックのつかみ代と同じ幅を標準とする。
また、鋼矢板形式毎の圧入長の適用範囲は、表 1.1 のとおりとし、これにより難しい場合は別途考慮する。

表 1. 1 圧入長 (m)				
鋼矢板の型式		10H 型	25H 型	<u>45H, 50H 型</u>
圧入長	圧入 (<u>N</u> _{max} ≤25)	12 以下	25 以下	<u>25 以下</u>
	圧入 (<u>N</u> _{max} ≤50)	14 以下	25 以下	<u>25 以下</u>

- (注) 1. [略]
2. 圧入(N_{max}≤50)は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用するものとし、N_{max}≤25 においても転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する場合は適用できる。
3. [略]

2. 施工概要

〃	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型(第3次基準値) 広幅鋼矢板用 圧入力 1,000kN 引抜き 1,100kN	機－24	燃 料 消 費 量 → <u>151</u> 機 械 損 料 数 量 → <u>1.46</u>
杭打ち用ウォーター ジェット	エンジン式・ 排出ガス対策型(第3次基準値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325 ℓ/min	機－24	燃 料 消 費 量 → <u>139</u> 機 械 損 料 数 量 → <u>1.46</u>
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	機－18	運転労務数量 →1.00 燃 料 消 費 量 → <u>95</u> 機 械 損 料 数 量 → <u>1.46</u>
クレーン付台船	クローラークレーン 35～40t 吊 台船 300 t 積	機－11	運転1日当り単価表 船 員 名 称 →高級船員 機械損料単位 →供用日 運転労務数量 →1.00 (クローラークレーン) 燃 料 消 費 量 → <u>45</u> 機 械 損 料 数 量 → <u>1.46</u> (台船) 機械損料数量 → <u>1.46</u>
引 船	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	機－11	運転1日当り単価表 船 員 名 称 →高級船員 機械損料単位 →供用日 運転労務数量 →1.00 燃 料 消 費 量 →57 機 械 損 料 数 量 →1.22 主 燃 料 →重油

⑱ 油圧圧入引抜工（ハット形鋼矢板）

1. 適用範囲

本歩掛は、油圧式杭圧入引抜機による鋼矢板の圧入（N_{max}≤50）施工に適用する。
なお、継矢板の施工法は、先行する鋼矢板を圧入後、それに接続する鋼矢板を鉛直に建込んだ状態で継手部を溶接するものである。
油圧式圧入引抜機の反力チャックのつかみ代は、550mm を標準とする。
N_{max}≤50 での施工における布掘深さ（又は、地表面よりの余裕高さ）は反力チャックのつかみ代と同じ幅を標準とする。
また、鋼矢板形式毎の圧入長の適用範囲は、表 1.1 のとおりとし、これにより難しい場合は別途考慮する。

表 1. 1 圧入長 (m)				
鋼矢板の型式		10H 型	25H 型	<u>[新設]</u>
圧入長	圧入 (<u>N</u> _{max} ≤25)	12 以下	25 以下	<u>[新設]</u>
	圧入 (<u>N</u> _{max} ≤50)	14 以下	25 以下	<u>[新設]</u>

- (注) 1. [略]
2. 圧入(N_{max}≤50)は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用するものとし、N_{max}≤25 においても転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する場合は適用できる。
3. [略]

2. 施工概要

標準施工フローは、次図を標準とする。

図 2. 1 圧入（ $N_{max} \leq 25$ ）
[略]

図 2. 2 圧入（ $N_{max} \leq 50$ ）
[略]

3. 機種の選定

3-1 油圧式杭圧入引抜機
[略]

表 3. 1 機種選定

施工方法		圧入	
最大N値		$N_{max} \leq 25$	$N_{max} \leq 50$
鋼矢板型式	10H・25H型	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型（2014年規制） ハット形鋼矢板900mm用 圧入力 1,000kN 引拔力 1,200kN	
	45H・50H型		

（注） 圧入（ $N_{max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用するものとし、 $N_{max} \leq 25$ においても転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する場合は適用できる。

3-2 付属機械
[略]

表 3. 2 付属機械の機種選定

機 種 \ 施工方法	圧入 (N _{max} ≤ 25)	圧入 (N _{max} ≤ 50)	備 考
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型（第3次基準値） 油圧伸縮ジブ型25 t 吊 （注） 2		陸上からの施工時のみ
杭打ち用ウォータージェット	—	エンジン式・ 排出ガス対策型 （第3次基準値） 圧力14.7MPa 吐出量325ℓ/min	
クレーン付台船	クローラクレーン35～40t吊 台船300t積 （注） 3		水上からの施工時のみ
引 船	鋼製 D 100PS型 4.9GT （注） 3		

- （注） 1. 圧入（ $N_{max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用するものとし、 $N_{max} \leq 25$ においても転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する場合は適用できる。
2. [略]
3. 水上施工の場合の注意事項
- ①・② [略]
- ③ クレーン付台船には、圧入（ $N_{max} \leq 25$ ）時は油圧式杭圧入引抜機、同油圧ユニット、溶接機及び鋼矢板を搭載するものとし、鋼矢板の搭載質量は、230 t（圧入（ $N_{max} \leq 50$ ）時は杭打ち用ウォータージェット、水槽も搭載し、鋼矢板の搭載質量は、210 t）以下とする。
4. ・5. [略]

4. 日当り編成人員

4-1 油圧圧入引抜施工の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 4. 1 日当り編成人員

（人）

標準施工フローは、次図を標準とする。

図 2. 1 圧入（ $N_{max} \leq 25$ ）
[略]

図 2. 2 圧入（ $N_{max} \leq 50$ ）
[略]

3. 機種の選定

3-1 油圧式杭圧入引抜機
[略]

表 3. 1 機種選定

施工方法		圧入	
最大N値		$N_{max} \leq 25$	$N_{max} \leq 50$
鋼矢板型式	10H・25H型	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型（2014年規制） ハット形鋼矢板900mm用 圧入力 1,000kN 引拔力 1,200kN	
	[新設]		

（注） 圧入（ $N_{max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用するものとし、 $N_{max} \leq 25$ においても転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する場合は適用できる。

3-2 付属機械
[略]

表 3. 2 付属機械の機種選定

機 種 \ 施工方法	圧入 (N _{max} ≤ 25)	圧入 (N _{max} ≤ 50)	備 考
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型（第3次基準値） 油圧伸縮ジブ型25 t 吊 （注） 2		陸上からの施工時のみ
杭打ち用ウォータージェット	—	エンジン式・ 排出ガス対策型 （第3次基準値） 圧力14.7MPa 吐出量325ℓ/min	
クレーン付台船	クローラクレーン35～40t吊 台船300t積 （注） 3		水上からの施工時のみ
引 船	鋼製 D 100PS型 4.9GT （注） 3		

- （注） 1. 圧入（ $N_{max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用するものとし、 $N_{max} \leq 25$ においても転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する場合は適用できる。
2. [略]
3. 水上施工の場合の注意事項
- ①・② [略]
- ③ クレーン付台船には、圧入（ $N_{max} \leq 25$ ）時は油圧式杭圧入引抜機、同油圧ユニット、溶接機及び鋼矢板を搭載するものとし、鋼矢板の搭載質量は、230 t（圧入（ $N_{max} \leq 50$ ）時は杭打ち用ウォータージェット、水槽も搭載し、鋼矢板の搭載質量は、210 t）以下とする。
4. ・5. [略]

4. 日当り編成人員

4-1 油圧圧入引抜施工の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 4. 1 日当り編成人員

（人）

作 業 の 種 類	世 話 役	特殊作業員	と び 工	溶接工（注）2
圧入（ $\underline{N}_{\max} \leq 25$ ）	1	1	2	2
圧入（ $\underline{N}_{\max} \leq 50$ ）	1	1	2	2

（注） 1. 圧入（ $\underline{N}_{\max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。
2. [略]

4－2 水上施工の1船団に対する船舶作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 4. 2 船舶作業の日当り編成人員 (人)
[略]

（注） 1. ～ 3. [略]
4. 上表は、圧入又は引抜き作業の配置人員であり、搬入、搬出等の回航・えい航は土地改良事業等請負工事共通仮設費算定基準の運搬費として計上する。

5. 日当り施工枚数

5－1 圧入（継施工なし）

鋼矢板の圧入作業における1日当り施工枚数（N）は、表 5. 1～表 5. 2 による。

5－1－1 圧入（ $\underline{N}_{\max} \leq 25$ ）

表 5. 1 日当り施工枚数（N） (枚／日)

鋼矢板型式 \ 圧入長	6m 以下	9m 以下	12m 以下	15m 以下	19m 以下	23m 以下	25m 以下
10H・25H・ <u>45H</u> ・ <u>50H</u> 型	<u>27</u>	21	<u>16</u>	<u>13</u>	11	<u>9.0</u>	<u>8.0</u>

（注） [略]

5－1－2 圧入（ $\underline{N}_{\max} \leq 50$ ）

表 5. 2 日当り施工枚数（N） (枚／日)

鋼矢板型式 \ 圧入長	6m以下	9m以下	12m以下	15m以下	19m以下	23m以下	25m以下
10H・25H・ <u>45H</u> ・ <u>50H</u> 型	<u>20</u> (23)	16 (<u>18</u>)	<u>12</u> (<u>14</u>)	<u>10</u> (12)	<u>8.5</u> (10)	<u>7.1</u> (<u>8.5</u>)	<u>6.3</u> (<u>7.6</u>)

（注） 1. 圧入（ $\underline{N}_{\max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。
2. ～ 4. [略]
5. 上段：25< $\underline{N}_{\max} \leq 50$
下段（ ）書き： $\underline{N}_{\max} \leq 25$ で、転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する必要が生じた場合。

5－2 圧入（継施工あり）

[略]

5－2－1 圧入継施工（ $\underline{N}_{\max} \leq 25$ ）

表 5. 3 日当り継施工枚数（N） (枚／日)

鋼矢板型式 圧入長	6m以下	9m以下	12m以下	15m以下	19m以下	23m以下	25m以下
	10H型	<u>7.8</u>	<u>7.2</u>	<u>6.5</u>	—	—	—
25H型	<u>6.2</u>	<u>5.8</u>	<u>5.3</u>	<u>5.0</u>	<u>4.6</u>	<u>4.2</u>	<u>4.0</u>
<u>45H型</u>	<u>5.6</u>	<u>5.3</u>	<u>4.9</u>	<u>4.6</u>	<u>4.3</u>	<u>3.9</u>	<u>3.7</u>
<u>50H型</u>	<u>4.9</u>	<u>4.7</u>	<u>4.4</u>	<u>4.1</u>	<u>3.9</u>	<u>3.6</u>	<u>3.4</u>

（注） [略]

作 業 の 種 類	世 話 役	特殊作業員	と び 工	溶接工（注）2
圧入（ $\underline{N}_{\max} \leq 25$ ）	1	1	2	2
圧入（ $\underline{N}_{\max} \leq 50$ ）	1	1	2	2

（注） 1. 圧入（ $\underline{N}_{\max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。
2. [略]

4－2 水上施工の1船団に対する船舶作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 4. 2 船舶作業の日当り編成人員 (人)
[略]

（注） 1. ～ 3. [略]
4. 上表は、圧入又は引抜き作業の配置人員であり、搬入、搬出等の回航は土地改良事業等請負工事共通仮設費算定基準の運搬費として計上する。

5. 日当り施工枚数

5－1 圧入（継施工なし）

鋼矢板の圧入作業における1日当り施工枚数（N）は、表 5. 1～表 5. 2 による。

5－1－1 圧入（ $\underline{N}_{\max} \leq 25$ ）

表 5. 1 日当り施工枚数（N） (枚／日)

鋼矢板型式 \ 圧入長	6m 以下	9m 以下	12m 以下	15m 以下	19m 以下	23m 以下	25m 以下
10H・25H 型	<u>28</u>	21	<u>17</u>	<u>14</u>	11	<u>9.3</u>	<u>8.3</u>

（注） [略]

5－1－2 圧入（ $\underline{N}_{\max} \leq 50$ ）

表 5. 2 日当り施工枚数（N） (枚／日)

鋼矢板式	圧入長	6m以下	9m以下	12m以下	15m以下	19m以下	23m以下	25m以下
10H・25H 型		<u>21</u> (23)	16 (<u>19</u>)	<u>13</u> (<u>15</u>)	<u>11</u> (12)	<u>8.7</u> (10)	<u>7.3</u> (<u>8.8</u>)	<u>6.5</u> (<u>7.8</u>)

（注） 1. 圧入（ $\underline{N}_{\max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。
2. ～ 4. [略]
5. 上段：25< $\underline{N}_{\max} \leq 50$
下段（ ）書き： $\underline{N}_{\max} \leq 25$ で、転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する必要が生じた場合。

5－2 圧入（継施工あり）

[略]

5－2－1 圧入継施工（ $\underline{N}_{\max} \leq 25$ ）

表 5. 3 日当り継施工枚数（N） (枚／日)

鋼矢板型式 圧入長	6m以下	9m以下	12m以下	15m以下	19m以下	23m以下	25m以下
	10H型	<u>8.4</u>	<u>7.6</u>	<u>7.0</u>	—	—	—
25H型	<u>6.8</u>	<u>6.3</u>	<u>5.9</u>	<u>5.5</u>	<u>5.0</u>	<u>4.5</u>	<u>4.2</u>
[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]
[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]

（注） [略]

5－2－2 圧入継施工（ $N_{\max} \leq 50$ ）

表 5. 4 日当り継施工枚数（N） (枚／日)

圧入長 鋼矢板型式	6m以下	9m以下	12m以下	15m以下	19m以下	23m以下	25m以下
10H 型	<u>7.1</u> (7.4)	<u>6.5</u> (6.8)	<u>5.7</u> (6.2)	<u>5.2</u> (5.7)	—	—	—
25H 型	<u>5.7</u> (5.9)	<u>5.3</u> (5.5)	<u>4.8</u> (5.1)	<u>4.4</u> (4.8)	<u>4.1</u> (4.4)	<u>3.8</u> (4.1)	<u>3.5</u> (3.9)
<u>45H 型</u>	<u>5.2</u> (5.4)	<u>4.9</u> (5.0)	<u>4.4</u> (4.7)	<u>4.1</u> (4.4)	<u>3.8</u> (4.1)	<u>3.5</u> (3.8)	<u>3.3</u> (3.6)
<u>50H 型</u>	<u>4.6</u> (4.8)	<u>4.4</u> (4.5)	<u>4.0</u> (4.2)	<u>3.8</u> (4.0)	<u>3.5</u> (3.8)	<u>3.3</u> (3.5)	<u>3.1</u> (3.4)

- (注) 1. 圧入長（ $N_{\max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。
2. ～4. [略]
5. 上段：25< $N_{\max} \leq 50$
下段（ ）書き： $N_{\max} \leq 25$ で、転石等により、やむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する必要が生じた場合に適用する。
6. [略]

5－2－3 鋼矢板 1 枚当り継施工箇所数による補正

表 5. 5 補正係数（F）（鋼矢板 1 枚当り 2 箇所以上継施工を行う場合）

鋼矢板 1 枚当り継施工箇所数（X）	2 箇所	3 箇所	4 箇所	5 箇所
補正係数（F）	<u>0.65</u>	<u>0.49</u>	<u>0.39</u>	<u>0.32</u>

5－3 油圧式杭圧入引抜機の据付・解体歩掛
[略]

表 5. 6 据付・解体歩掛
[略]

- (注) 1. 圧入（ $N_{\max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。
2. ・3. [略]
4. 水上施工等で反力架台が設置できない場合には、初期鋼矢板の施工は、パイプロハンマ工により別途計上する。（初期鋼矢板：10H・25H・45H・50H 型 4 枚）
なお、クレーン付台船及び引船の運転日数は、世話役の歩掛を「日／回」と読み変えて適用するものとし、回航費用は別途計上する。

5－4 諸雑費

諸雑費は、共下がり防止用の溶接棒及び電気溶接機損料、施工機械足場用の敷鉄板賃料、ウォータージェット併用施工用付属機器に関する経費（配管バンド、溶接棒、電気溶接機損料、工事用水中モーターポンプ損料、水槽及び配管損料）、付属機材等の現場内小運搬に関する経費、電力に関する経費等の費用（継施工に関する経費は除く）であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 7 諸雑費率 (％)

施 工 方 法	陸上施工		水上施工	
	継施工なし	継施工あり	継施工なし	継施工あり
圧入（ $N_{\max} \leq 25$ ）	1	<u>4</u>	1	<u>3</u>
圧入（ $N_{\max} \leq 50$ ）	6	<u>8</u>	5	7

(注) 圧入（ $N_{\max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。

6. 単価表

(1) 鋼矢板圧入 10 枚当り単価表（ $N_{\max} \leq 25$ ）

[略]

5－2－2 圧入継施工（ $N_{\max} \leq 50$ ）

表 5. 4 日当り継施工枚数（N） (枚／日)

圧入長 鋼矢板型式	6m以下	9m以下	12m以下	15m以下	19m以下	23m以下	25m以下
10H 型	<u>7.6</u> (7.9)	<u>6.9</u> (7.4)	<u>6.2</u> (6.7)	<u>5.7</u> (6.0)	—	—	—
25H 型	<u>6.3</u> (6.5)	<u>5.8</u> (6.1)	<u>5.3</u> (5.6)	<u>5.0</u> (5.1)	<u>4.5</u> (4.7)	<u>3.9</u> (4.5)	<u>3.9</u> (4.2)
[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]
[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]

- (注) 1. 圧入長（ $N_{\max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。
2. ～4. [略]
5. 上段：25< $N_{\max} \leq 50$
下段（ ）書き： $N_{\max} \leq 25$ で、転石等により、やむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する必要が生じた場合に適用する。
6. [略]

5－2－3 鋼矢板 1 枚当り継施工箇所数による補正

表 5. 5 補正係数（F）（鋼矢板 1 枚当り 2 箇所以上継施工を行う場合）

鋼矢板 1 枚当り継施工箇所数（X）	2 箇所	3 箇所	4 箇所	5 箇所
補正係数（F）	<u>0.66</u>	<u>0.50</u>	<u>0.40</u>	<u>0.34</u>

5－3 油圧式杭圧入引抜機の据付・解体歩掛
[略]

表 5. 6 据付・解体歩掛
[略]

- (注) 1. 圧入（ $N_{\max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。
2. ・3. [略]
4. 水上施工等で反力架台が設置できない場合には、初期鋼矢板の施工は、パイプロハンマ工により別途計上する。（初期鋼矢板：10H・25H 型 4 枚）
なお、クレーン付台船及び引船の運転日数は、世話役の歩掛を「日／回」と読み変えて適用するものとし、回航費用は別途計上する。

5－4 諸雑費

諸雑費は、共下がり防止用の溶接棒及び電気溶接機損料、施工機械足場用の敷鉄板賃料、ウォータージェット併用施工用付属機器に関する経費（配管バンド、溶接棒、電気溶接機損料、工事用水中モーターポンプ損料、水槽及び配管損料）、現場内小運搬に関する経費、電力に関する経費等の費用（継施工に関する経費は除く）であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 7 諸雑費率 (％)

施 工 方 法	陸上施工		水上施工	
	継施工なし	継施工あり	継施工なし	継施工あり
圧入（ $N_{\max} \leq 25$ ）	1	<u>2</u>	1	<u>2</u>
圧入（ $N_{\max} \leq 50$ ）	6	<u>7</u>	5	7

(注) 圧入（ $N_{\max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。

6. 単価表

(1) 鋼矢板圧入 10 枚当り単価表（ $N_{\max} \leq 25$ ）

[略]

(2) 鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax≤50) [略]

(3) 継鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax≤25) [略]

(4) 継鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax≤50) [略]

(5) [略]

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型 (2014 年規制) ハット形鋼矢板 900 mm用 圧入力 1,000 kN 引抜力 1,200 kN	機－2 4	燃 料 消 費 量 → <u>171</u> 機 械 損 料 数 量 → <u>1.49</u>
杭 打 ち 用 ウ ォ ー タ ー ジ ェ ッ ト	エンジン式・ 排出ガス対策型 (第 3 次基準値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325 ℓ/min	機－2 4	燃 料 消 費 量 → <u>134</u> 機 械 損 料 数 量 → <u>1.49</u>
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン	排出ガス対策型 (第 3 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	機－1 8	運 転 労 務 数 量 →1.00 燃 料 消 費 量 → <u>92</u> 機 械 損 料 数 量 → <u>1.49</u>
ク レ ー ン 付 台 船	クローラクレーン 35～40t 吊 台船 300 t 積	機－1 1	運 転 1 日 当 り 単 価 表 船 員 名 称 →高級船員 機 械 損 料 単 位 →供用日 運 転 労 務 数 量 →1.00 (クローラクレーン) 燃 料 消 費 量 → <u>43</u> 機 械 損 料 数 量 → <u>1.49</u> (台船) 機 械 損 料 数 量 → <u>1.49</u>
引 船	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	機－1 1	運 転 1 日 当 り 単 価 表 船 員 名 称 →高級船員 機 械 損 料 単 位 →供用日 運 転 労 務 数 量 →1.00 燃 料 消 費 量 →57 機 械 損 料 数 量 →1.22 主 燃 料 →重油

⑰ 油圧圧入引抜工（硬質地盤）

1. 適用範囲

本歩掛は、油圧式杭圧入引抜機による鋼矢板の圧入（50<Nmax≤600）の施工に適用する。
鋼矢板施工時の布掘深さ（または、地表面よりの余裕高さ）は、1,000mm を標準とする。
また、鋼矢板形式毎の圧入長の適用範囲は、表 1. 1 のとおりとし、これにより難しい場合は、別途考慮する。

(2) 鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax≤50) [略]

(3) 継鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax≤25) [略]

(4) 継鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax≤50) [略]

(5) [略]

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型 (2014 年規制) ハット形鋼矢板 900 mm用 圧入力 1,000 kN 引抜力 1,200 kN	機－2 4	燃 料 消 費 量 → <u>176</u> 機 械 損 料 数 量 → <u>1.46</u>
杭 打 ち 用 ウ ォ ー タ ー ジ ェ ッ ト	エンジン式・ 排出ガス対策型 (第 3 次基準値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325 ℓ/min	機－2 4	燃 料 消 費 量 → <u>139</u> 機 械 損 料 数 量 → <u>1.46</u>
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン	排出ガス対策型 (第 3 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	機－1 8	運 転 労 務 数 量 →1.00 燃 料 消 費 量 → <u>95</u> 機 械 損 料 数 量 → <u>1.46</u>
ク レ ー ン 付 台 船	クローラクレーン 35～40t 吊 台船 300 t 積	機－1 1	運 転 1 日 当 り 単 価 表 船 員 名 称 →高級船員 機 械 損 料 単 位 →供用日 運 転 労 務 数 量 →1.00 (クローラクレーン) 燃 料 消 費 量 → <u>45</u> 機 械 損 料 数 量 → <u>1.46</u> (台船) 機 械 損 料 数 量 → <u>1.46</u>
引 船	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	機－1 1	運 転 1 日 当 り 単 価 表 船 員 名 称 →高級船員 機 械 損 料 単 位 →供用日 運 転 労 務 数 量 →1.00 燃 料 消 費 量 →57 機 械 損 料 数 量 →1.22 主 燃 料 →重油

⑰ 油圧圧入引抜工（硬質地盤）

1. 適用範囲

本歩掛は、油圧式杭圧入引抜機による鋼矢板の圧入（50<Nmax≤600）の施工に適用する。
鋼矢板施工時の布掘深さ（または、地表面よりの余裕高さ）は、1,000mm を標準とする。
また、鋼矢板形式毎の圧入長の適用範囲は、表 1. 1 のとおりとし、これにより難しい場合は、別途考慮する。

表 1. 1 圧入長 (m)											
鋼矢板の型式		Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	V _L 型	VI _L 型	Ⅱ _w 型	Ⅲ _w 型	Ⅳ _w 型	10H型	25H型
圧入長	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]		
	50<N _{max} ≤180	10以下	15以下	20以下	25以下	25以下	12以下	25以下	25以下	12以下	25以下
	180<N _{max} ≤600	10以下	15以下	20以下	25以下	25以下	12以下	25以下	25以下	二	二

(注) [略]

2. 施工概要

標準施工フローは、次図を標準とする。

図 2－1 圧入 (50<N_{max}≤600)

[略]

3. 機種の選定

3－1 油圧式杭圧入引抜機

[略]

表 3. 1 機種選定			
最大N値		50<N _{max} ≤180	180<N _{max} ≤600
鋼矢板型式	Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ型	エンジン式ユニット（硬質地盤専用） 排出ガス対策型（第3次基準値） 普通鋼矢板用 圧入力 800kN、引抜力 900kN	
	V _L 、VI _L 、Ⅱ _w 、Ⅲ _w 、Ⅳ _w 型	エンジン式ユニット（硬質地盤専用） 排出ガス対策型（第3次基準値） 広幅鋼矢板用 圧入力 800kN、引抜力 1,000kN	
	10H、25H型	エンジン式ユニット（硬質地盤専用） 排出ガス対策型（2014年規制） ハット形鋼矢板用900mm用 圧入力 800kN、引抜力 900kN	二

3－2 付属機械

[略]

表 3. 2 付属機械の機種選定

機 種	施工方法	圧入 (50<N _{max} ≤600)	備 考
	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮ジブ型50～51 t 吊 (注) 1	陸上施工時

(注) [略]

4. 日当り編成人員

4－1 油圧圧入引抜工の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 4. 1 日当り編成人員

(人)

表 1. 1 圧入長 (m)											
鋼矢板の型式		Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	V _L 型	VI _L 型	Ⅱ _w 型	Ⅲ _w 型	Ⅳ _w 型	[新設]	[新設]
[新設]	圧入長	10以下	15以下	20以下	25以下	25以下	12以下	25以下	25以下		
	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]
	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]

(注) [略]

2. 施工概要

標準施工フローは、次図を標準とする。

図 2－1 圧入 (50<N_{max}≤600)

[略]

3. 機種の選定

3－1 油圧式杭圧入引抜機

[略]

表 3. 1 機種選定			
最大N値		50<N _{max} ≤600	[新設]
鋼矢板型式	Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ型	エンジン式ユニット（硬質地盤専用） 排出ガス対策型（第3次基準値） 普通鋼矢板用 圧入力 800kN、引抜力 900kN	[新設]
	V _L 、VI _L 、Ⅱ _w 、Ⅲ _w 、Ⅳ _w 型	エンジン式ユニット（硬質地盤専用） 排出ガス対策型（第3次基準値） 広幅鋼矢板用 圧入力 800kN、引抜力 1,000kN	[新設]
	[新設]	[新設]	[新設]

3－2 付属機械

[略]

表 3. 2 付属機械の機種選定

機 種	施工方法	圧入 (50<N _{max} ≤600)	備 考
	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮ジブ型50～51 t 吊 (注) 1	陸上施工時

(注) [略]

4. 日当り編成人員

4－1 油圧圧入引抜工の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 4. 1 日当り編成人員

(人)

項	目	世 話 役	特殊作業員	と び 工
圧入	(50< <u>N</u> _{max} ≤600)	1	1	2

5. 日当り施工枚数

5－1 圧入作業

鋼矢板の圧入作業における1日当り施工枚数（N）は、表5.1～表5.2による。

5－1－1 圧入（50<N_{max}≤100）

表 5. 1 日当り施工枚数（N） (枚／日)

圧入長 鋼矢板形式	6 m以下	9 m以下	12m以下	15m以下	19m以下	23m以下	25m以下
Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ型	13	<u>8.9</u>	<u>6.7</u>	<u>5.3</u>	<u>4.3</u>	<u>3.5</u>	－
V _L 、VI _L 型	<u>11</u>	<u>7.9</u>	<u>5.9</u>	<u>4.7</u>	<u>3.8</u>	<u>3.1</u>	<u>2.7</u>
Ⅱ _w 、Ⅲ _w 、Ⅳ _w 型	<u>11</u>	<u>7.9</u>	<u>5.9</u>	<u>4.7</u>	<u>3.8</u>	<u>3.1</u>	<u>2.7</u>
<u>10H、25H型</u>	<u>9.7</u>	<u>6.8</u>	<u>5.0</u>	<u>4.0</u>	<u>3.2</u>	<u>2.6</u>	<u>2.3</u>

（注） [略]

5－1－2 圧入（100<N_{max}≤180）

表 5. 2 日当り施工枚数（N） (枚／日)

圧入長 鋼矢板型式	6 m以下	9 m以下	12m以下	15m以下	19m以下	23m以下	25m以下
Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ型	11	<u>7.5</u>	<u>5.6</u>	<u>4.4</u>	<u>3.6</u>	<u>2.9</u>	－
V _L 、VI _L 型	<u>9.4</u>	<u>6.6</u>	<u>4.9</u>	<u>3.9</u>	<u>3.1</u>	<u>2.5</u>	<u>2.2</u>
Ⅱ _w 、Ⅲ _w 、Ⅳ _w 型	<u>9.4</u>	<u>6.6</u>	<u>4.9</u>	<u>3.9</u>	<u>3.1</u>	<u>2.5</u>	<u>2.2</u>
<u>10H、25H型</u>	<u>8.1</u>	<u>5.7</u>	<u>4.2</u>	<u>3.3</u>	<u>2.6</u>	<u>2.2</u>	<u>1.9</u>

（注） [略]

5－1－3 圧入（180<N_{max}≤250）

表 5. 3 日当り施工枚数（N） (枚／日)

圧入長 鋼矢板型式	6 m以下	9 m以下	12m以下	15m以下	19m以下	23m以下	25m以下
Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ型	<u>10</u>	<u>7.2</u>	<u>5.3</u>	<u>4.2</u>	<u>3.3</u>	<u>2.7</u>	－
V _L 、VI _L 型	<u>9.1</u>	<u>6.3</u>	<u>4.6</u>	<u>3.6</u>	<u>2.9</u>	<u>2.4</u>	<u>2.1</u>
Ⅱ _w 、Ⅲ _w 、Ⅳ _w 型	<u>9.1</u>	<u>6.3</u>	<u>4.6</u>	<u>3.6</u>	<u>2.9</u>	<u>2.4</u>	<u>2.1</u>

（注） [略]

5－1－4 圧入（250<N_{max}≤375）

表 5. 4 日当り施工枚数（N） (枚／日)

圧入長 鋼矢板型式	6 m以下	9 m以下	12m以下	15m以下	19m以下	23m以下	25m以下
Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ型	<u>9.0</u>	<u>6.2</u>	<u>4.6</u>	<u>3.6</u>	<u>2.9</u>	<u>2.3</u>	－
V _L 、VI _L 型	<u>7.9</u>	<u>5.4</u>	<u>4.0</u>	<u>3.1</u>	<u>2.5</u>	<u>2.0</u>	1.8
Ⅱ _w 、Ⅲ _w 、Ⅳ _w 型	<u>7.9</u>	<u>5.4</u>	<u>4.0</u>	<u>3.1</u>	<u>2.5</u>	<u>2.0</u>	1.8

（注） [略]

5－1－5 圧入（375<N_{max}≤600）

表 5. 5 日当り施工枚数（N） (枚／日)

圧入長 鋼矢板型式	6 m以下	9 m以下	12m以下	15m以下	19m以下	23m以下	25m以下
Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ型	<u>7.3</u>	<u>5.0</u>	<u>3.7</u>	<u>2.9</u>	<u>2.3</u>	1.9	－
V _L 、VI _L 型	<u>6.4</u>	<u>4.4</u>	<u>3.2</u>	<u>2.5</u>	<u>2.0</u>	<u>1.6</u>	<u>1.4</u>
Ⅱ _w 、Ⅲ _w 、Ⅳ _w 型	<u>6.4</u>	<u>4.4</u>	<u>3.2</u>	<u>2.5</u>	<u>2.0</u>	<u>1.6</u>	<u>1.4</u>

項	目	世 話 役	特殊作業員	と び 工
圧入	(50< <u>N</u> _{max} ≤600)	1	1	2

5. 日当り施工枚数

5－1 圧入作業

鋼矢板の圧入作業における1日当り施工枚数（N）は、表5.1～表5.2による。

5－1－1 圧入（50<N_{max}≤100）

表 5. 1 日当り施工枚数（N） (枚／日)

圧入長 鋼矢板形式	6 m以下	9 m以下	12m以下	15m以下	19m以下	23m以下	25m以下
Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ型	13	<u>9.2</u>	<u>6.9</u>	<u>5.5</u>	<u>4.4</u>	<u>3.6</u>	－
V _L 、VI _L 型	<u>12</u>	<u>8.2</u>	<u>6.1</u>	<u>4.8</u>	<u>3.9</u>	<u>3.2</u>	<u>2.8</u>
Ⅱ _w 、Ⅲ _w 、Ⅳ _w 型	<u>12</u>	<u>8.2</u>	<u>6.1</u>	<u>4.8</u>	<u>3.9</u>	<u>3.2</u>	<u>2.8</u>
[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]

（注） [略]

5－1－2 圧入（100<N_{max}≤180）

表 5. 2 日当り施工枚数（N） (枚／日)

圧入長 鋼矢板型式	6 m以下	9 m以下	12m以下	15m以下	19m以下	23m以下	25m以下
Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ型	11	<u>7.8</u>	<u>5.7</u>	<u>4.6</u>	<u>3.7</u>	<u>3.0</u>	－
V _L 、VI _L 型	<u>9.7</u>	<u>6.8</u>	<u>5.0</u>	<u>4.0</u>	<u>3.2</u>	<u>2.6</u>	<u>2.3</u>
Ⅱ _w 、Ⅲ _w 、Ⅳ _w 型	<u>9.7</u>	<u>6.8</u>	<u>5.0</u>	<u>4.0</u>	<u>3.2</u>	<u>2.6</u>	<u>2.3</u>
[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]

（注） [略]

5－1－3 圧入（180<N_{max}≤250）

表 5. 3 日当り施工枚数（N） (枚／日)

圧入長 鋼矢板型式	6 m以下	9 m以下	12m以下	15m以下	19m以下	23m以下	25m以下
Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ型	<u>11</u>	<u>7.4</u>	<u>5.4</u>	<u>4.3</u>	<u>3.5</u>	<u>2.8</u>	－
V _L 、VI _L 型	<u>9.4</u>	<u>6.5</u>	<u>4.8</u>	<u>3.7</u>	<u>3.0</u>	<u>2.5</u>	<u>2.2</u>
Ⅱ _w 、Ⅲ _w 、Ⅳ _w 型	<u>9.4</u>	<u>6.5</u>	<u>4.8</u>	<u>3.7</u>	<u>3.0</u>	<u>2.5</u>	<u>2.2</u>

（注） [略]

5－1－4 圧入（250<N_{max}≤375）

表 5. 4 日当り施工枚数（N） (枚／日)

圧入長 鋼矢板型式	6 m以下	9 m以下	12m以下	15m以下	19m以下	23m以下	25m以下
Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ型	<u>9.3</u>	<u>6.4</u>	<u>4.7</u>	<u>3.7</u>	<u>3.0</u>	<u>2.4</u>	－
V _L 、VI _L 型	<u>8.1</u>	<u>5.6</u>	<u>4.1</u>	<u>3.2</u>	<u>2.6</u>	<u>2.1</u>	1.8
Ⅱ _w 、Ⅲ _w 、Ⅳ _w 型	<u>8.1</u>	<u>5.6</u>	<u>4.1</u>	<u>3.2</u>	<u>2.6</u>	<u>2.1</u>	1.8

（注） [略]

5－1－5 圧入（375<N_{max}≤600）

表 5. 5 日当り施工枚数（N） (枚／日)

圧入長 鋼矢板型式	6 m以下	9 m以下	12m以下	15m以下	19m以下	23m以下	25m以下
Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ型	<u>7.6</u>	<u>5.2</u>	<u>3.8</u>	<u>3.0</u>	<u>2.4</u>	1.9	－
V _L 、VI _L 型	<u>6.6</u>	<u>4.5</u>	<u>3.3</u>	<u>2.6</u>	<u>2.1</u>	<u>1.7</u>	<u>1.5</u>
Ⅱ _w 、Ⅲ _w 、Ⅳ _w 型	<u>6.6</u>	<u>4.5</u>	<u>3.3</u>	<u>2.6</u>	<u>2.1</u>	<u>1.7</u>	<u>1.5</u>

(注) [略]

6. 油圧式杭圧入引抜機の据付・解体歩掛

据付・解体は、施工前の準備としての施工機械の配置、試運転調整等と施工後の施工機械の解体・撤去作業であり、歩掛は次表とする。

表 6. 1 据付・解体歩掛

作業区分	労務 (人／回)			組合せ機械運転時間 (日／回)	
	世話役	特殊作業員	とび工	油圧式杭 圧入引抜機	ラフテレーンクレーン
圧入 (50 < <u>N</u> _{max} ≤ 600)	1.10	1.10	2.19	0.59	0.90

(注) 1. ・ 2. [略]

3. 反力架台が設置できない場合には、初期鋼矢板の施工は、パイプロハンマ工により別途積算する。

(初期鋼矢板：Ⅱ～Ⅳ型 4 枚、Ⅴ_L～Ⅵ_L 型及びⅡ_w～Ⅳ_w 型 3 枚、10H・25H 型 4 枚)

7. 諸雑費

諸雑費は、溶接棒、施工機械足場用の敷鉄板賃料、電気溶接機損料、陸上部での付属機械等の現場内小運搬に関する経費、排土処理用のバックホウ運転に関する経費、オーガスクリュ及びオーガヘッド並びにケーシング損料等の費用であり、労務費、機械損料及び機械運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

なお、上記諸雑費に含まれるもの以外で施工に際し、オーガスクリュ及びオーガヘッド等へ付着した土等を除去するための高圧洗浄機やエアーコンプレッサーを用いる必要が生じた場合は、別途考慮する。

表 7. 1 諸雑费率

(%)

作業の種類	矢板区分		陸上施工
			継施工なし
圧入 (50 < <u>N</u> _{max} ≤ <u>180</u>)	普通	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型	<u>18</u>
		Ⅴ _L ・Ⅵ _L 型	
	広幅	Ⅱ _w ・Ⅲ _w ・Ⅳ _w 型	<u>19</u>
	<u>ハット形</u>	<u>10H・25H型</u>	
<u>圧入 (180 < N_{max} ≤ 600)</u>	<u>普通</u>	<u>Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型</u>	<u>18</u>
		<u>Ⅴ_L・Ⅵ_L型</u>	
	<u>広幅</u>	<u>Ⅱ_w・Ⅲ_w・Ⅳ_w型</u>	

8. 単価表

(1) 鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (50 < N_{max} ≤ 600)

名称	規格	単位	数量	適用
世話役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 1 表 5. 1、表 5. 2、表 5. 3 表 5. 4、表 5. 5
特殊作業員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
とび工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃 〃
油圧式杭圧入引抜機運転		日	10	表 3. 1

(注) [略]

6. 油圧式杭圧入引抜機の据付・解体歩掛

据付・解体は、施工前の準備としての施工機械の配置、試運転調整等と施工後の施工機械の解体・撤去作業であり、歩掛は次表とする。

表 6. 1 据付・解体歩掛

作業区分	労務 (人／回)			組合せ機械運転時間 (日／回)	
	世話役	特殊作業員	とび工	油圧式杭 圧入引抜機	ラフテレーンクレーン
圧入 (50 < <u>N</u> _{max} ≤ 600)	1.10	1.10	2.19	0.59	0.90

(注) 1. ・ 2. [略]

3. 反力架台が設置できない場合には、初期鋼矢板の施工は、パイプロハンマ工により別途積算する。

(初期鋼矢板：Ⅱ～Ⅳ型 4 枚、Ⅴ_L～Ⅵ_L 型及びⅡ_w～Ⅳ_w 型 3 枚)

7. 諸雑費

諸雑費は、溶接棒、施工機械足場用の敷鉄板賃料、電気溶接機損料、現場内小運搬に関する経費、排土処理用のバックホウ運転に関する経費、オーガスクリュ及びオーガヘッド並びにケーシング損料等の費用であり、労務費、機械損料及び機械運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

なお、上記諸雑費に含まれるもの以外で施工に際し、オーガスクリュ及びオーガヘッド等へ付着した土等を除去するための高圧洗浄機やエアーコンプレッサーを用いる必要が生じた場合は、別途考慮する。

表 7. 1 諸雑费率

(%)

作業の種類	矢板区分		陸上施工
			継施工なし
圧入 (50 < <u>N</u> _{max} ≤ <u>600</u>)	普通	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型	16
		Ⅴ _L ・Ⅵ _L 型	
	広幅	Ⅱ _w ・Ⅲ _w ・Ⅳ _w 型	<u>[新設]</u>
	<u>[新設]</u>	<u>[新設]</u>	
<u>[新設]</u>	<u>[新設]</u>	<u>[新設]</u>	<u>[新設]</u>
		<u>[新設]</u>	
	<u>[新設]</u>	<u>[新設]</u>	

8. 単価表

(1) 鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (50 < N_{max} ≤ 600)

名称	規格	単位	数量	適用
世話役		人	$\frac{10}{\boxed{N}} \times 1$	表 4. 1 表 5. 1、表 5. 2、表 5. 3 表 5. 4、表 5. 5
特殊作業員		〃	$\frac{10}{\boxed{N}} \times 1$	〃 〃
とび工		〃	$\frac{10}{\boxed{N}} \times 2$	〃 〃 〃
油圧式杭圧入引抜機運転		日	10	表 3. 1

			N	〃
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (2011 年規制) 油圧伸縮ジブ型 50～51 t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 〃
諸 雑 費		式	1	表 7. 1
計				

(注) [略]

(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機 (鋼 矢 板 Ⅱ ・ Ⅲ ・ Ⅳ 型 用)	エンジン式ユニット (硬質地盤専用) 排出ガス対策型 (第3次基準値) 普通鋼矢板用 圧入力 800kN 引拔力 900kN	機－2 4	燃 料 消 費 量 → <u>171</u> 機械損料数量 → <u>1.49</u>
〃 (鋼矢板 VL・VIL・Ⅱw・Ⅲw・Ⅳw 型用)	エンジン式ユニット (硬質地盤専用) 排出ガス対策型 (第3次基準値) 広幅鋼矢板用 圧入力 800kN 引拔力 1,000kN	機－2 4	燃 料 消 費 量 → <u>171</u> 機械損料数量 → <u>1.49</u>
<u>油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機</u> <u>(鋼矢板 10H・25H 型用)</u>	<u>エンジン式ユニット</u> <u>(硬質地盤専用)</u> <u>排出ガス対策型</u> <u>(2014 年規制)</u> <u>ハット形鋼矢板 900 mm 用</u> <u>圧入力 800 kN</u> <u>引拔力 900 kN</u>	<u>機－2 4</u>	<u>燃 料 消 費 量 →201</u> <u>機械損料数量 →1.49</u>
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン	排出ガス対策型 (2011 年規制) 油圧伸縮ジブ型 50～51 t 吊	機－1 8	運転労務数量 →1.00 燃 料 消 費 量 → <u>128</u> 機械損料数量 → <u>1.49</u>

②⑩ [略]

1 6 . 共 通 仮 設

① 重建設機械分解組立運搬

1. [略]

2. 施工歩掛

2－1 使用機械の規格選定
[略]

				N		〃
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (2011 年規制) 油圧伸縮ジブ型 50～51 t 吊	〃	$\frac{10}{N}$			表 3. 2 〃
諸 雑 費		式	1			表 7. 1
計						

(注) [略]

(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機 (鋼 矢 板 Ⅱ ・ Ⅲ ・ Ⅳ 型 用)	エンジン式ユニット (硬質地盤専用) 排出ガス対策型 (第3次基準値) 普通鋼矢板用 圧入力 800kN 引拔力 900kN	機－2 4	燃 料 消 費 量 → <u>176</u> 機械損料数量 → <u>1.46</u>
〃 (鋼矢板 VL・VIL・Ⅱw・Ⅲw・Ⅳw 型用)	エンジン式ユニット (硬質地盤専用) 排出ガス対策型 (第3次基準値) 広幅鋼矢板用 圧入力 800kN 引拔力 1,000kN	機－2 4	燃 料 消 費 量 → <u>176</u> 機械損料数量 → <u>1.46</u>
[新設]	[新設]	[新設]	[新設] [新設]
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン	排出ガス対策型 (2011 年規制) 油圧伸縮ジブ型 50～51 t 吊	機－1 8	運転労務数量 →1.00 燃 料 消 費 量 → <u>132</u> 機械損料数量 → <u>1.46</u>

②⑩ [略]

1 6 . 共 通 仮 設

① 重建設機械分解組立運搬

1. [略]

2. 施工歩掛

2－1 使用機械の規格選定
[略]

表 2. 1 クレーンの規格選定				
機 械 区 分		規 格	分 解 組 立 用 ク レ ー ン	
			名 称	規 格
バ ッ ク ホ ウ 系 オ ー ル ケ ー シ ン グ 掘 削 機 (ク ロ ー ラ 式) ト ン ネ ル 用 機 械		表 1. 1 参照	ラフテレーンクレーン 油 圧 伸 縮 ジ ブ 型 排出ガス対策型 (2014 年規制)	25t 吊
ブ ル ド ー ザ		21 t 級以下	ラフテレーンクレーン 油 圧 伸 縮 ジ ブ 型 排出ガス対策型 (2011 年規制)	25t 吊
		44 t 級以下		
地盤改良機	中 層 混 合 処 理 機	質量 60 t 以下	ラフテレーンクレーン 油 圧 伸 縮 ジ ブ 型 排出ガス対策型 (2014 年規制)	25t 吊
		質量 120 t 以下		60t 吊
	サ ン ド パ イ ル 打 機 粉 体 噴 射 攪 拌 機 深 層 混 合 処 理 機 プレファブリケイティッドバーチカルドレン打機	質量 60 t 以下		
		質量 120 t 以下		
		質量 180 t 以下		
ク ロ ー ラ ク レ ー ン 系		35 t 吊以下 (クラムシェル平積 0.6m³ 含む)	ラフテレーンクレーン 油 圧 伸 縮 ジ ブ 型 排出ガス対策型 (2014 年規制)	25t 吊
		80 t 吊以下 (クラムシェル平積 2.0m³ 以下含む)		
		150 t 吊以下 (クラムシェル平積 3.0m³ 以下含む)	ラフテレーンクレーン 油 圧 伸 縮 ジ ブ 型 排出ガス対策型 (第 3 次基準値)	60t 吊
		300 t 吊以下		
ト ラ ッ ク ク レ ー ン 系		表 1. 1 参照	ラフテレーンクレーン 油 圧 伸 縮 ジ ブ 型 排出ガス対策型 (2014 年規制)	70t 吊
		200t 吊以上 360t 吊以下	リフター [せり上げ能力]	50t
		550t 吊以下		
ク ロ ー ラ 式 杭 打 機		質量 60 t 以下	ラフテレーンクレーン 油 圧 伸 縮 ジ ブ 型 排出ガス対策型 (2014 年規制)	60t 吊
		質量 100 t 以下		
		質量 150 t 以下		
オ ー ル ケ ー シ ン グ 掘 削 機 〔スキッド式〕		表 1. 1 参照 本体工事でクローラクレーン [油圧駆動式ウインチ・ラチスジ ブ型・基礎工事用・排出ガス対 策型 (2014 年規制)]70～90 t 吊を使用する場合	ク ロ ー ラ ク レ ー ン 油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型・ 基礎工事用・排出ガス対策型 (2014 年規制)	70～90t 吊
		〔削る。〕	〔削る。〕	〔削る。〕
		表 1. 1 参照 本体工事でクローラクレーン [油圧駆動式ウインチ・ラチスジ ブ型・基礎工事用・排出ガス対 策型 (2014 年規制)]100 t 吊を 使用する場合	ク ロ ー ラ ク レ ー ン 油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型・ 基礎工事用・排出ガス対策型 (2014 年規制)	100t 吊

(注) 1. ～3. [略]

2-2 歩 掛

表 2. 1 クレーンの規格選定				
機 械 区 分		規 格	分 解 組 立 用 ク レ ー ン	
			名 称	規 格
バ ッ ク ホ ウ 系 オ ー ル ケ ー シ ン グ 掘 削 機 (ク ロ ー ラ 式) ト ン ネ ル 用 機 械		表 1. 1 参照	ラフテレーンクレーン 油 圧 伸 縮 ジ ブ 型 排出ガス対策型 (第 2 次基準値)	25t 吊
ブ ル ド ー ザ		21 t 級以下	ラフテレーンクレーン 油 圧 伸 縮 ジ ブ 型 排出ガス対策型 (第 2 次基準値)	25t 吊
		44 t 級以下		
地盤改良機	中 層 混 合 処 理 機	質量 60 t 以下	ラフテレーンクレーン 油 圧 伸 縮 ジ ブ 型 排出ガス対策型 (第 2 次基準値)	25t 吊
		質量 120 t 以下		60t 吊
	サ ン ド パ イ ル 打 機 粉 体 噴 射 攪 拌 機 深 層 混 合 処 理 機 プレファブリケイティッドバーチカルドレン打機	質量 60 t 以下		
		質量 120 t 以下		
		質量 180 t 以下		
ク ロ ー ラ ク レ ー ン 系		35 t 吊以下 (クラムシェル平積 0.6m³ 含む)	ラフテレーンクレーン 油 圧 伸 縮 ジ ブ 型 排出ガス対策型 (第 2 次基準値)	25t 吊
		80 t 吊以下 (クラムシェル平積 2.0m³ 以下含む)		60t 吊
		150 t 吊以下 (クラムシェル平積 3.0m³ 以下含む)		
		300 t 吊以下		
ト ラ ッ ク ク レ ー ン 系		表 1. 1 参照	ラフテレーンクレーン 油 圧 伸 縮 ジ ブ 型 排出ガス対策型 (第 2 次基準値)	70t 吊
		200t 吊以上 360t 吊以下	リフター [せり上げ能力]	50t
		550t 吊以下		
ク ロ ー ラ 式 杭 打 機		質量 60 t 以下	ラフテレーンクレーン 油 圧 伸 縮 ジ ブ 型 排出ガス対策型 (第 2 次基準値)	60t 吊
		質量 100 t 以下		
		質量 150 t 以下		
オ ー ル ケ ー シ ン グ 掘 削 機 〔スキッド式〕		表 1. 1 参照 本体工事でクローラクレーン [油圧駆動式ウインチ・ラチスジ ブ型排出ガス対策型 (第 3 次基 準値)]70 t 吊を使用する場合	ク ロ ー ラ ク レ ー ン 油 圧 駆 動 式 ウ イ ン チ ・ ラ チ ス ジ ブ 型 排出ガス対策型 (第 3 次基準値)	70t 吊
		表 1. 1 参照 本体工事でクローラクレーン [油圧駆動式ウインチ・ラチスジ ブ型排出ガス対策型 (第 3 次基 準値)]100 t 吊を使用する場合	ク ロ ー ラ ク レ ー ン 油 圧 駆 動 式 ウ イ ン チ ・ ラ チ ス ジ ブ 型 排出ガス対策型 (第 3 次基準値)	100t 吊
		表 1. 1 参照 本体工事でクローラクレーン [油圧駆動式ウインチ・ラチスジ ブ型排出ガス対策型 (2011 年規 制)]100 t 吊を使用する場合	ク ロ ー ラ ク レ ー ン 油 圧 駆 動 式 ウ イ ン チ ・ ラ チ ス ジ ブ 型 排出ガス対策型 (2011 年規制)	100t 吊

(注) 1. ～3. [略]

2-2 歩 掛

[略]

表 2. 2 歩 掛

機 械 区 分		規 格 区 分	労 務 歩 掛 特殊作業員 (人) (分解+組立)	ク レ ー ン 運 転 歩 掛 (日) (分解+組立)	運搬費 等 率 (%)	諸 雑 費 率 (%)
ブ ル ド ー ザ		21 t 級以下	2. 8	2. 1	155	21
		44 t 級以下	4. 6	3. 4	153	21
バ ッ ク ホ ウ 系		山積 1. 4m ³ 以下 (油圧グラムシェル・テレスコピッ ク 0. 4m ³ 以上 0. 6m ³ 以下含む)	2. 7	1. 4	250	24
		山積 2. 1m ³ 以下	4. 5	2. 3	256	25
ク ロ ー ラ ク レ ー ン 系		35 t 吊以下 (グラムシェル平積 0. 6m ³ 含む)	3. 0	0. 8	444	22
		80 t 吊以下 (グラムシェル平積 2. 0m ³ 以下含む)	5. 5	1. 5	434	21
		150 t 吊以下 (グラムシェル平積 3. 0m ³ 以下含む)	11. 3	3. 1	315	15
		300 t 吊以下	20. 5	5. 7	313	15
ト ラ ッ ク ク レ ー ン 系		120 t 吊以下	4. 3	1. 5	394	75
		160 t 吊以下	5. 7	1. 9	409	78
		360 t 吊以下	11. 7	4. 0	399	75
		550 t 吊以下	20. 9	7. 1	401	76
		200t 吊以上 360t 吊以下 (リフターを使用する場合)	11. 0	2. 7	392	83
		550t 吊以下 (リフターを使用する場合)	19. 4	4. 9	390	83
ク ロ ー ラ 式 杭 打 機		60 t 以下	8. 6	2. 1	163	2
		100 t 以下	15. 5	3. 7	164	2
		150 t 以下	23. 5	5. 6	163	2
オールケーシング掘削機 〔 ク ロ ー ラ 式 〕		—	3. 9	3. 4	595	5
オールケーシング掘削機 〔 ス キ ッ ド 式 〕		〔本体工事でクローラクレーン〔油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型・基礎工事用・排 出ガス対策型 (2014 年規制) 〕70～90 t 吊 を使用する場合〕	4. 9	11. 9 (h)	490	4
		〔削る。〕	〔削る。〕	〔削る。〕	〔削る。〕	〔削る。〕
		〔本体工事でクローラクレーン〔油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型・基礎工事用・排 出ガス対策型 (2014 年規制) 〕100 t 吊を使 用する場合〕	4. 9	11. 9 (h)	361	3
地 盤 改 良 機 械	中 層 混 合 処 理 機	60 t 以下	16. 0	2. 4	265	4
		120 t 以下	41. 2	6. 3	211	3
	サント`ハ`イル打機 粉体噴射攪拌機 深層混合処理機 プレファブリケイ	60 t 以下	16. 0	2. 4	213	3
		120 t 以下	41. 2	6. 3	211	3

[略]

表 2. 2 歩 掛

機 械 区 分		規 格 区 分	労 務 歩 掛 特殊作業員 (人) (分解+組立)	ク レ ー ン 運 転 歩 掛 (日) (分解+組立)	運搬費 等 率 (%)	諸 雑 費 率 (%)
ブ ル ド ー ザ		21 t 級以下	2. 8	2. 1	155	21
		44 t 級以下	4. 6	3. 4	153	21
バ ッ ク ホ ウ 系		山積 1. 4m ³ 以下 (油圧クラムシェル・テレスコピッ ク 0. 4m ³ 以上 0. 6m ³ 以下含む)	2. 7	1. 4	250	24
		山積 2. 1m ³ 以下	4. 5	2. 3	256	25
ク ロ ー ラ ク レ ー ン 系		35 t 吊以下 (クラムシェル平積 0. 6m ³ 含む)	3. 0	0. 8	444	22
		80 t 吊以下 (クラムシェル平積 2. 0m ³ 以下含む)	5. 5	1. 5	434	21
		150 t 吊以下 (クラムシェル平積 3. 0m ³ 以下含む)	11. 3	3. 1	315	15
		300 t 吊以下	20. 5	5. 7	313	15
ト ラ ッ ク ク レ ー ン 系		120 t 吊以下	4. 3	1. 5	394	75
		160 t 吊以下	5. 7	1. 9	409	78
		360 t 吊以下	11. 7	4. 0	399	75
		550 t 吊以下	20. 9	7. 1	401	76
		200t 吊以上 360t 吊以下 (リフターを使用する場合)	11. 0	2. 7	392	83
		550t 吊以下 (リフターを使用する場合)	19. 4	4. 9	390	83
ク ロ ー ラ 式 杭 打 機		60 t 以下	8. 6	2. 1	163	2
		100 t 以下	15. 5	3. 7	164	2
		150 t 以下	23. 5	5. 6	163	2
オールケーシング掘削機 〔 ク ロ ー ラ 式 〕		—	3. 9	3. 4	595	5
オールケーシング掘削機 〔 ス キ ッ ド 式 〕		〔 本体工事でクローラクレーン〔油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型排出ガス対策型 (第3次基準値) 〕70 t 吊を使用する場合 〕	4. 9	11. 9 (h)	490	4
		〔 本体工事でクローラクレーン〔油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型排出ガス対策型 (第3次基準値) 〕100 t 吊を使用する場合 〕	4. 9	11. 9 (h)	370	3
		〔 本体工事でクローラクレーン〔油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型排出ガス対策型 (2011年規制) 〕100 t 吊を使用する場合 〕	4. 9	11. 9 (h)	361	3
地 盤 改 良 機 械	中 層 混 合 処 理 機	60 t 以下	16. 0	2. 4	265	4
		120 t 以下	41. 2	6. 3	211	3
	サント`ハ`イル打機 粉体噴射攪拌機 深層混合処理機 プレファブリケイ	60 t 以下	16. 0	2. 4	213	3
		120 t 以下	41. 2	6. 3	211	3

	ティッドバーチカルドレーン打機	180 t 以下	64.6	9.9	210	3
トンネル用機械		－	5.4	2.0	582	8

(注) 1. ～4. [略]

3. [略]

②・③ [略]

	ティッドバーチカルドレーン打機	180 t 以下	64.6	9.9	210	3
トンネル用機械		－	5.4	2.0	582	8

(注) 1. ～4. [略]

3. [略]

②・③ [略]